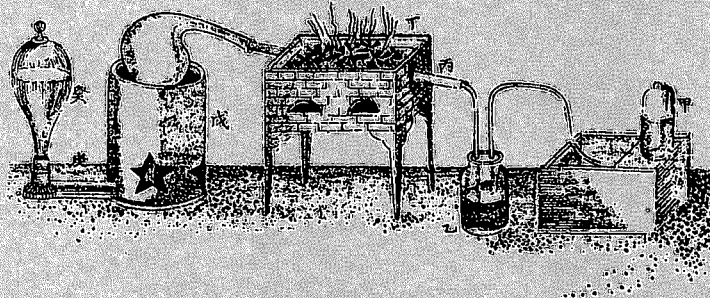


化学史研究

第26卷 第4号 1999年

(通卷第89号)

資料	『化学史研究』総目次(1974年~1999年)とその分析	吉本秀之 185 (1)
	前書きと分析	185 (1)~193 (9)
	総目次	194 (10)~231 (47)
	著者名索引	232 (48)~245 (61)



化学史学会

[会 告]

2000年化学史研究発表会講演募集

日 時 2000年6月17日(土)・18日(日)
会 場 愛知芸術文化センター12階アトスペースD・E
(名古屋市東区東桜1-13-2 準備委員：大野誠)

一般講演申込締切：2000年2月12日(土)

講演希望者は、葉書に、講演題目、氏名、所属、連絡先(郵便番号、住所、電話番号、もしあれば電子メールアドレス)を記して、下記へお送りください。

一般講演要旨締切：2000年3月4日(土)

要旨は、会誌『化学史研究』で刷り上がり1頁になるよう、市販の400字詰め原稿用紙(横書き)で5枚、あるいは、ワープロ原稿2000字(ともに、講演題目と講演者名、図・表を含めて)以内で書き、下記へお送りください。この講演要旨の到着をもって講演申込手続きの完了といたします。なお、要旨に関しては、過去の『化学史研究』を参照し、講演内容を具体的に記すとともに文献も記載してください。

申込先：〒480-1198 愛知郡長久手町熊張

愛知県立大学外国語学部 大野誠気付

化学史学会事務局 2000年年会準備委員会

(宛先は、この全文を明記してください)

シンポジウム

以下の2つのシンポジウムを予定しています。

陶磁器技術の歴史

尾張・美濃の洋学

2000年年会・研究発表会会場の変更について

上記の通り、諸般の事情により2000年の年会・研究発表会の会場を、愛知県立大学から下記へ変更しました。あらかじめご承知おきください。

(名古屋で宿泊される方は、ホテルの予約などの際にご参考になさってください。)

新会場：愛知芸術文化センター12階アトスペースD・E

住所 名古屋市東区東桜1-13-2

交通 地下鉄東山線、名城線「栄」下車、4番出口から東へ徒歩2分

この会場は、名古屋駅から地下鉄で2駅目の「栄」からすぐの場所にあり、たいへん便利です。地図と経路の詳細は、年会特集号でお知らせいたします。

資料

『化学史研究』総目次（1974年～1999年）とその分析

吉本秀之*

目次

前書きと分析	1(185)
総目次	10(194)
著者名索引	48(232)

前書きと分析

目的

今回の総目次の目的は、1974年の創刊号から1999年の第26巻まで（全89号）のすべての目次を提示し、会員の資料として活用していただくことである。埋め草の記事の一部を除き、この総目次は、網羅的であることを目指した。

合わせて、投稿区分毎に簡単な分析を付して、区分の変遷を明らかにし、今後の雑誌のあり方を考えるうえでの参考としたい。

インターネットとの緊密な連動

今回の総目次は、本誌に掲載するだけでなく、基本的に同じ資料をインターネットのホームページにも掲載することを考えて作業を行った。以下に掲載されている本誌の総目次は、編集委員会との緊密な協力のもと誤りなきように努めたが、誤りがゼロであるということの保証は不可能である。そうした誤りが発見された際の修正作業、ならびに定常的な追加作業はホームページ上ではほぼ瞬時に行える。情報の訂正・追加は、次の総目次発行までホームページ上で迅速に行っていくたい。¹⁾

なお、そのホームページの場所（URL）は、1つは総目次作成者の個人的ページにおかれ、また同じもの（ミラーサイト）が総目次作成者の勤務先の大学のサーバーにおかれる。具体的なサイトは、次の通りとなる。

<http://www.t3.rim.or.jp/~h2ysmt/kagakushi/kagakushi.html>

<http://caper.fs.tufts.ac.jp/documentation/ICS/kagakushi/kagakushi.html>

講演要旨の扱い

『化学史研究』本誌に掲載されているものはすべて、今回の総目次に取り上げるようにした。従って、本誌にレジメが掲載されている限り、今回の総目次にも取り上げている。

区分

これまでの投稿規程には、論文と寄書に関する規定しかないが、現実にはかなり多くの区分が用いられてきている。具体的に網羅すれば次の通りである。

論文；寄書；総説；解説；研究回顧；文献解題；原典翻訳；資料；技術資料；広場；討論；紹介；論文抄録；巻頭言；追悼；会告；会報；雑報；特集ラヴワジェ研究入門；特集技術史シリーズ；特集教育シリーズ；特集科学史研究の新潮流；特集日本の化学者；特集評伝西洋の化学者；特集日本における伝統技術と化学；年会特集（特別講演，招待講演，課題講演，一般講演，シンポジウム）；化学史シンポジウム特集。

以下の分析では、できるだけ自然だと思われる分類に即して、それぞれの区分の分析を記す。

*論文と寄書

1999年11月5日受理

* 東京外国語大学

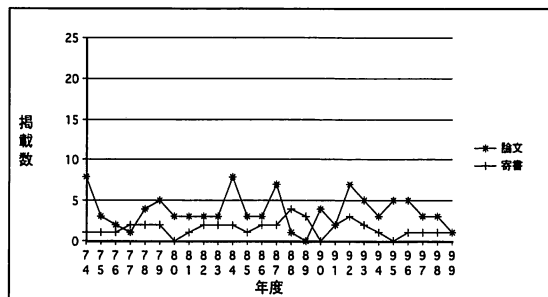


図 1

投稿規程には、「新しい知見をまとめ一定の結論に導いたものを論文，断片的ではあるが新しい知見を含むものを寄書」とするという定義が掲載されている。論文の定義に問題はないとして、「寄書」という言葉は本来編集長への手紙または寄稿の意味だと思われるが，当誌では他の多くの学会誌に見られる「研究ノート」とほぼ同じ趣旨の記事として活用されてきたと言えよう。

論文は，1974年から1999年までの26年間で93本掲載されている。これは1年あたりに換算すれば，3.58本となる。会員数400人規模の学会でこの数字が多いのか少ないのか判断は難しいが，1989年のように1本も論文が掲載されなかった年があるのは寂しいと言えよう。

寄書は，26年間で合計39点掲載されている。年平均では1.5本で，これは，かなりそろって1年に1本または2本という形で来ている。

* 総説と解説

総説は，おそらく研究展望を広い視野で行うものであろう。これまでに全部で5点の総説が掲載されている。なお，学説史を展望するという意味では，最近の特集である「科学史研究の新潮流」(全部で5点)もこれに近いジャンルである。英語では，*History of Science*のように展望論文を中心とする科学史の専門雑誌も存在するので，もう少しこのジャンルに力を注いでもよいように思われる。

解説は，26年間で25点掲載されている。1年に

ほぼ1本という割合である。外部からはこのジャンルがどういうジャンルなのかわかりづらいが，当誌では日本のある一人の化学者を取り上げ，その人の経歴や業績を解説した記事が11点を占めている。この意味では，やはり最近の特集である「日本の化学者」のシリーズ(8点)と重なっている。

* 研究回顧

これは，化学者自身による自身の化学研究または非常に親しい人(たとえばその人の先生)の化学研究の回顧であり，歴史学ではいわば1次資料に位置づけられる区分である。26年間で7点掲載されている。

* 原典翻訳

26年間で，8点。文字通りに，化学史の原典，すなわち1次資料の翻訳である。その資料の化学史的意義について解説を付して，資料そのものを日本語で紹介する区分である。8点中7点が，最初の10年間に集中しており，化学史学会の若い頃に比較的よく活用されたジャンルと言えよう。

* 資料と技術資料

資料は，1979年から導入された区分であり，通算で42点が掲載されている。第12号(1980年)から前々年度または前年度の「化学史及び周辺分野の出版物」のリストが掲載され始めた。1978年の出版物からリストはあり，これは編集委員会の仕事として原則的にそれ以降毎年掲載されている。これを除けば最近では毎年1点ないし2点の記事が掲載されている。

技術資料は，1985年と1986年に合計4点掲載されている。第31号の編集後記によればこれは「我が国の技術の発展に貢献した研究や事業を跡づける記念物や史・資料を紹介」するものということである。掲載された4点は，いずれも機器や装置に焦点を合わせるもので，これが今に継続していないのは何と言っても惜しまれる。科学技術の歴史においては，印刷物やノート等の紙の資料

だけでなく、当時の人間が使っていた機器や装置は非常に重要なので、技術資料という区分ではなくても機器や装置に関する知見を出来るだけ体系的に収集する努力が望まれるであろう。

* 広場

会員間の自由な情報や意見の交換の場が、広場というジャンルであろう。26年間で87点が掲載されている。創刊号には2点広場の記事があったが、その後7年間は広場という区分は採用されておらず、広場が積極的に活用され始めたのは1982年からである。その後は、年・総会の報告、春の学校の報告、化学史夏のサロンの報告等が定期的に掲載されるようになった。この10年間では50点が掲載されており、最近ではとてもよく活用されている区分と言えよう。

* 紹介と書評と論文抄録

書評は、2回だけ使われた区分であるが、内容的には全く紹介に重なる。論文抄録は、1979年から81年にかけて計6回利用された区分であるが、これも最近の号では紹介として扱われている。書評並びに論文抄録を含めて、紹介は、これまでに総計169点掲載されている。各年度の掲載点数は、下図(図2)のように、ゼロの年があったり、25点の年があったりとかかなり年度による差が大きい。いずれにせよ、できるだけ多くの紹介記事が掲載されることが望ましいと言えよう。なお、過去何度かエッセイレビューがこの区分の中で掲載され

ている。エッセイレビューは、読者には非常に有用な記事である。今後、力を入れるに値すると言えよう。

* 討論

文字通り、特定のテーマに関する討論である。過去5点の記事が掲載されている。なお、そのうち3点が分子概念の成立に関わるものである点は特筆に値する。

* 巻頭言

雑誌そのものには巻頭言の区分は明示されていないが、会長またはそれに準ずる人物による記事で、区分の指定のないまま雑誌の冒頭におかれた文章は、巻頭言と分類した。これまでに10点が掲載されている。

* 追悼

追悼記事は、これまでに19点掲載されている。なお、雑誌中に区分が明示されていなくても明らかな追悼記事は、この欄に分類した。

* 雑報

雑報は、その欧文NEWSからわかるとおり、新刊の刊行、近い将来に開催される行事等の情報を伝えるニュースである。これまでに31点の記事が掲載されている。

* 会報

総会の決定事項、理事会の議事、会則・細則・投稿規程の変更等、会の運営に関わる重要事項を化学史学会会長や理事会が会員に伝達するものである。これまでに25点の記事が掲載されている。最近、総会決定事項は、毎年必ず掲載されている。理事会報告は、毎年度必ず報告されているわけではない。

* 会告

会告は、原則的に表(とくに表2、すなわち表表紙のうら)において、年・総会やその他の学会行事についてその開催要項や講演募集を行う記事である。今回の分析的総目次は、本体部分(つまり、ページ数が打たれている部分)の総目次作成を目

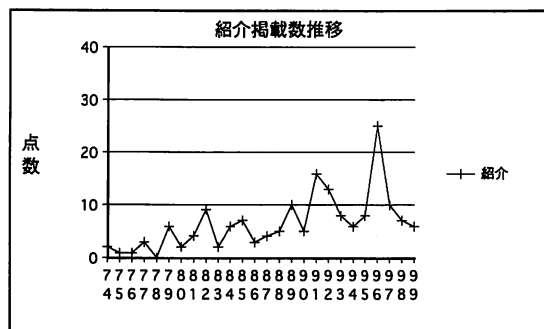


図 2

的としたので、本体部分に年・総会のプログラムが掲載されていない場合に限って、表の部分を取り上げている。

ただしたった1度(1979年の第9号)、年・総会の案内が本体部分に掲載されている。

*特集

編集委員会が企画・実行する特集は、教育シリーズを最初として、ラヴワジエ研究入門、技術史シリーズ、科学史研究の新潮流、日本における伝統技術と化学、日本の化学者、評伝西洋の化学者という7つのシリーズを生み出してきた。

教育シリーズは、「主として中・高等学校の教師、および教員志望の学生に」中・高等学校の化学を含む教科書に登場する「化学上の重要な概念・原理・法則の歴史的理解を深めるための参考資料を提供する」²⁾ことを主眼として1981年に開始された。1991年までに合計で21点の記事が掲載された。1981年から1985年の5年間に各年度ほぼ3点ずつ計15点が掲載され、1998年から1991年の4年間に6点が掲載された。本誌を見る限り、現在は「休火山」状態にあるように見える。

ラヴワジエ研究入門は、ラヴワジエの『化学原論』(1789)出版200年を記念して、1988年に始まった特集である。趣旨は、「ラヴワジエに関する最近の研究成果を出きるかぎりわかりやすい形で紹介・解説する」³⁾ことであった。1992年までの5年間に計11点が掲載されている。本誌中で終了宣言はなされていないが、おそらくすでに終了したシリーズだと見なしてよいであろう。

技術史シリーズは、1991年にスタートし、この9年間で、合計25点が掲載されている。これは、年平均2.8点であり、90年代に最も活発に活用された区分と言えよう。開始の際に趣旨説明の記事は掲載されていないが、主として日本の化学工業の様々なテーマについて歴史的に紹介・解説する記事と整理することが出来よう。

科学史研究の新潮流は、1992年にスタートし、

現在までに合計5点の記事が掲載されている。内容的には展望記事であるが、広く科学史に関わるテーマのうち、最近注目すべき展開のあった特定のテーマを取り上げて、研究史を展望するものである。

日本における伝統技術と化学は、1993年の研究発表会で開催された同名のシンポジウムを1回限りで特集したものである。第21巻(1994)に4点の記事が掲載されている。

日本の化学者は、1995年にスタートし、これまでに8点の記事が掲載されている。日本の化学の歴史において顕著な功績のある化学者を取り上げ、その人の生涯と業績を解説するものである。前述の通り、この意味では、雑誌の初期に多く活用された解説という区分と多く重なる内容のものである。その化学者の直接のお弟子さんや子息が執筆の労を執られている記事もあり、半ば1次資料として位置づけられるものも含まれる。

評伝西洋の化学者は、本年度(1999年)に開始したばかりのシリーズである。趣旨は、「化学史上で重要な位置を占めたと考えられる特定の人物に的を絞り、その生涯や作品について、可能な限り最新の研究成果を取り入れた論稿」⁴⁾を載せていくことである。すでに2点が掲載されている。

*年会特集

初年度(1973年)と第2年度(1974年)は、研究発表会のレジメは掲載されていないが、プログラムは掲載されている。1975年、1976年、1977年の3年は、レジメもプログラムも本誌には掲載されていない。⁵⁾研究発表会のプログラムとともに講演要旨が当誌に掲載され始めたのは、1978年(第6年度)からである。

化学史学会研究発表会は、特別講演(招待講演)、シンポジウム(課題講演)、一般講演からなる。

特別講演は、学会の特別な方にお話ししていただくか、年会会場に関連してゲストをお呼びしてお話ししていただくもので、招待講演を含めてこ

シンポジウム（課題講演をふくむ）テーマ

- 1977 日本における近代化学のあけぼの
 1978 明治初期における日本の化学—西欧との対応—（課題講演）
 1979 化学史と化学教育
 1980 化学史教材と化学教育
 1981 19世紀中葉における科学・社会・思想
 化学と諸科学—学問の分化と総合化—（課題講演）
 1982 化学史資料の収集と利用
 1983 幕末明治初期の西欧科学の受容について
 1984 化学史研究会の10年をふり返って
 1985 日本の化学・中国の化学
 1986 なぜ化学だったのか
 1987 化学史研究と化学教育
 1988 近代科学と原子論・分子論
 1989 アレニウスをめぐる
 ラヴワジェ『化学原論』200年
 1990 なし
 1991 日本化学の伝統—大学の役割—
 1992 日本化学の伝統—倉密から化学へ—
 1993 日本における伝統技術と化学
 1994 蘭学研究の現状と今後の課題
 1995 回想：日本の高分子化学
 1996 実験室の成立
 科学と世界観
 ジェンダーと科学
 1997 千葉県天然ガス・ヨウ素の生産と利用の歴史
 博物館と科学技術史
 Cultural Studiesと20世紀科学技術史
 1998 宇田川榕菴研究の新潮流
 放射性元素発見100年
 岡山の洋学
 1999 私と科学史・技術史

化学史シンポジウム

- 第1回（1990年）ノーベル賞の成立と化学
 日本近代化学工業の成立と特徴
 第2回（1991年）触媒化学の歴史
 第3回（1992年）石油の歴史
 第4回（1993年）錯塩化学の歴史
 第5回（1994年）日本の化学技術史—企業におけるR&D—
 第6回（1997年）（シンポジウムテーマなし）

れまで27件の特別講演の講演要旨が掲載されている。

シンポジウムは、1977年の年会から始まり、原則的にそれ以降1年に1本のシンポジウムが企画実行されている。なお、これまでに開かれたシンポジウムのテーマは、上表の通りであり、1996年から1998年の3年間は同時に3つのシンポジウムが開催された。テーマとして注記に値するのは、

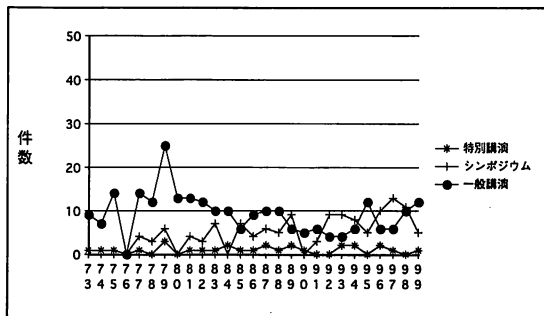


図 3

日本の化学史関連が全30回中12回と圧倒的に多く、ついで化学史と化学教育関連が3回開かれている。

一般講演は、不明な年を除き、23年で212件が掲載されている。これは、年平均9.22件である。一般講演の件数は、その学会の活力のかなりよい指数となると思われるので、年度別の表を作成した（図3）。

なお、正規の年会ではないが、1997年に日本薬史学会との共同主催で大阪で開かれた秋の学校の講演要旨も6点本誌に掲載されている。

化学史シンポジウムは、日本化学会秋季年会の連合討論会に参加して行われるものであり、化学史学会と日本化学会の共催の会合である。⁶⁾1990年にスタートし、1997年の第6回をもって休止している。

凡例

・巻号数の表示法

『化学史研究』では、これまで、2度にわたって巻号数の表示法が変わっている。

1974年の創刊号から通号17号（1981年）までは、

〈第1号（1974年3月）〉

のように通号数（出版年月）のように表示されたが、通号第18号からは

〈1982年第1号（18）〉

のように通号数を括弧の中に入れる方式が変わっ

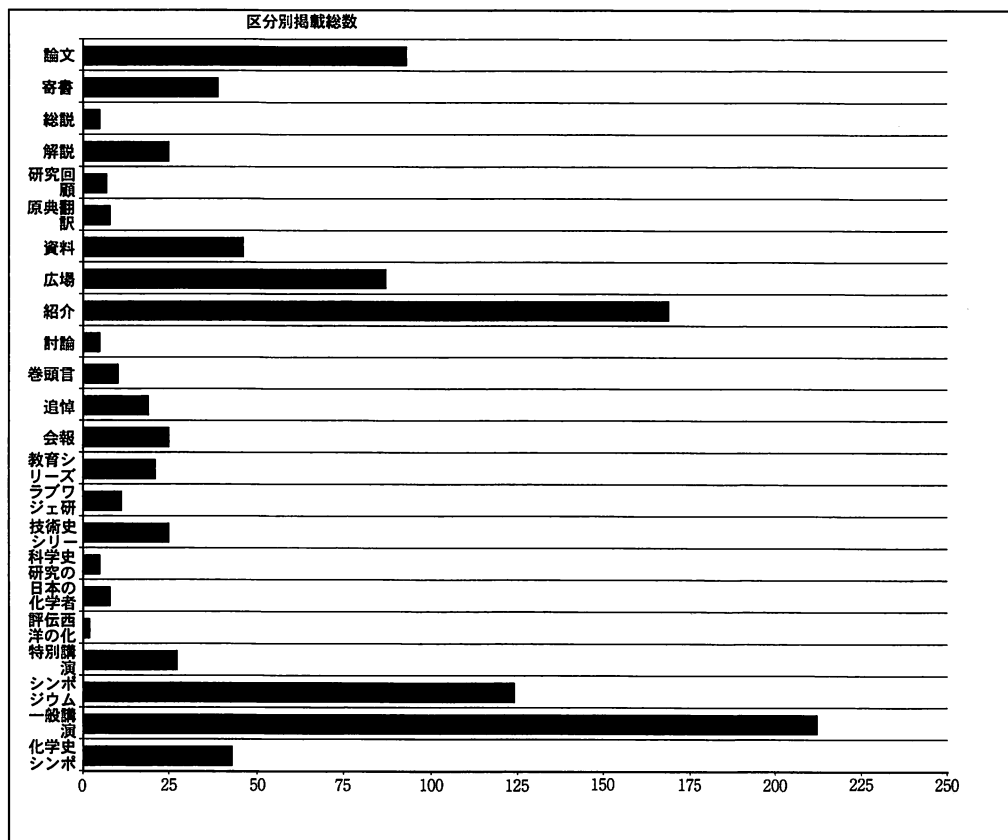


図 4

た。⁷⁾この方式は、1988年第4号(45)まで続き、その翌年から今度は巻号数方式に変わった。すなわち、

〈第16巻第1号(通号46号)〉

のように表示されるようになった。現在はこの方式で継続している。

ここでは、出来るだけ表記を統一するという方針のもと、通号45号までは、

〈第1号(1974年)〉

のように通号数(出版年度)という仕方に表示することとし、巻号数方式が採用された1989年からは、

〈第16巻(1989年)〉

のように通巻数(出版年度)という仕方に表示することとした。従って、その後に提示されるペー

ジ数は、通巻45号まではそれぞれの号のページ数であるが、1989年の第16巻からは巻での通しページとなり、各号のページ数ではなくなる。若干不便ではあるが、『化学史研究』が途中で巻号数の表示方式を根本的に変更したために余儀なくされた不統一である。ご容赦いただきたい。

・作業の出発点

今回の作業の出発点としたのは、第45号(1988年)の巻末に挿入されている「『化学史研究』総目次第1号(1974年3月)～1988年4号(通巻第45号)」ならびに、その後各年度の最終号に掲載されているその年度の総目次である。ただし、それぞれ100%正確というわけではなく、いちいち現物につきあわせて確認・修正している。⁸⁾

・終了ページの明示

過去の総目次では、それぞれの項目について開始ページだけが表示されている。しかし、今回の作業にあたっては、その記事が1頁のものか10頁のものかということはその記事のもつ意味を判断する上で重要な要素となるので、いちいち雑誌本体にあたって終了ページも表示することとした。

・講演レジメ

研究発表会の講演レジメは、第16巻(巻号数表示採用時)以降各年度の最後に掲げられる総目次に取り上げられていないが、雑誌の中に独立した項目としてあるものはすべて取り上げるという方針のもと、今回の作業においてリストアップした。

・一行で情報が完結するように、すべての記事を次の形式で統一的に記載した。

[区分] 著者名「題名」巻号数(発行年):開始ページ-終了ページ

・雑誌には区分が明示されていなくても、区分が明らかな場合には、次のように示した。

[-区分-]

注

- 1) 総目次そのものは、まずhtml文書として作成し、そこからテキスト文書を生成した。最新のブラウザを使えば、欧文のアクセントやウムラウトも表示できるようにしている。

またもととなるhtml文書がインターネット上で簡単に入手できるメリットは非常に大きい。今回の資料の最後に掲載した「著者名索引」も、編集委員会の要請によりそこから作成したものである。なお、上記のホームページではタイトルを略していない著者名索引も利用可能にしている。

総目次並びに著者名索引の修正・校正作業では、八耳俊文編集委員に大いに協力していただいた。記して感謝の意を表す。

- 2) 林良重「シリーズ「化学教育における化学史」を始めるに当たって」第16号(1981年):28.
- 3) 大野誠・古川安・柏木肇「特集ラヴワジェ研究入門をはじめに当たって」第42号(1988年):

28.

- 4) 大野誠「特集評伝西洋の化学者を始めるにあたって」第26巻(1999):10.
- 5) プログラムは『会報』に掲載されていた。なお私の所持しない『会報』ならびに本誌とは別に出された1975年講演要旨集,1977年講演要旨集については、亀山会長にお貸しいただいた。記して感謝する次第である。
- 6) 山口達明「新企画・化学史シンポジウムについて」第18巻(1991):84.
- 7) 1982年第1号(第18号):42の「編集後記」に次の言葉がある。「これまで本誌は通し番号で表示してまいりましたが、本号より、1982年第1号という様式(通年制)に改め、定期刊行化(年4回の発行)を目指しております。」
- 8) 過去の同種の記事には、次のものがある。

・鎌谷親善・藤井清久・大沢眞澄「公開座談会「化学史研究会10年の歩み」(発言要旨)」第30号(1985):3-6.

これは次の2つの表を含む。

表1(5頁):第28号(1984年)までの論文・寄書の動向(内容による分類)

表2(6頁):1984年までのシンポジウムの動向

・柏木肇「50号までの足跡」第17巻(1990):3-7.

これは、次の5つの表を含む。

第1表:『化学史研究』の刊行回数

第2表:論文掲載誌の数

第3表:年会シンポジウムの動向(続)

第4表:「春の学校」一覧

第5表:「化学史サロン—夏の集い」

・[一般講演]大野誠「『化学史研究』20年間の歩み—回顧と展望—」第20巻(1993):210.

・大野誠「『化学史研究』20年間の歩み—回顧と展望—」第20巻(1993):283-293.

これは、次の5つの表を含む。

表1:『化学史研究』20年間の足跡—編集面での変化

表2:各欄の年次別掲載状況

表3:西洋分野の研究状況

表4:日本分野の研究状況

表5：その他

らびに著者名索引の提示。

以上の記事と今回の総目次の差異は次の点にある。

2) さらにその総目次並びに著者名索引に、区分の

1) 資料としての総目次そのものの全体の提示、な

変遷に焦点を合わせた分析を付したこと。

付表1

(雑誌本体に講演要旨が掲載されていない年度の講演リストは次の通り。)

・1973年 日本科学史学会化学史分科会1973年度年総会(創立大会)

- [一般講演] 塚原徳道「榎田龍太郎研究(1)一簡易原子価説をめぐって一」
- [一般講演] 三井澄雄「日本における原子論的な中等化学教育の始まり(予報)」
- [一般講演] 田中実「舎密開宗について」
- [一般講演] 道家達将「宇田川榕庵の化学関係未刊行稿本について」
- [一般講演] 鎌谷親善「明治初期日本の化学と化学工業についての再検討一酸・アルカリ工業を中心に一」
- [特別講演] 山岡望「リービッヒ没後100年を記念して一リービッヒと私一」
- [一般講演] 柏木肇「化学史, パーフーム, フォアフォーム(History of Chemistry, By Whom, For Whom)」
- [一般講演] 大沼正則「化学結合論における物理学的方法と化学的方法一ポーア模型とルイスの原子価論一」
- [一般講演] 藤崎千代子「Lewis結合理論におけるParsonの磁子説の位置」
- [一般講演] 田辺振太郎「量子化学の発端について」

・1974年度 化学史研究会年総会(立教大学1974年11月9日(土))

- [特別講演] 水島三一郎「分子科学(構造化学)の始まりの頃」
- [一般講演] 市野宏司「アリストテレスの物質観について」
- [一般講演] 松尾幸季「S. Halesと気体研究」
- [一般講演] 柏木肇「H. Davyとロマン主義」
- [一般講演] 田辺振太郎「化学史におけるHistoriographyと構造主義」
- [一般講演] 塚原徳道「榎田龍太郎研究(2)」
- [一般講演] 鎌谷親善「フィンチと造幣寮硫酸工場について」
- [一般講演] 廣田鋼蔵「アンモニア合成法の成功と第一次大戦の開始一Haberの祖国観一」

・1975年度化学史研究発表会(上智大学1975年11月16日(日)10時~18時)

- [一般講演] 大岩正芳「上野彦馬抄訳『舎密局必携』」
- [一般講演] 塩川久男「お雇い外国人E. ダイバースーその生涯と科学的活動一」
- [一般講演] 葉賀七三男「渡辺渡の化学ノートについて」
- [一般講演] 藤井清久「明治前期における日本人化学者の原子観」
- [一般講演] 塚原徳道「元素の周期表をめぐって一榎田龍太郎研究(3)一」
- [一般講演] 鎌谷親善「宇都宮三郎と官営セメント事業」
- [一般講演] 相馬順一「わが国における戦前のナイロン研究」
- [一般講演] 林良重「化学教育における歴史的アプローチ」
- [一般講演] 鳥羽山満「日本の近代化と「応用化学」」
- [一般講演] 松尾幸季「ラヴォアジエと熱研究一若干の再考察一」
- [一般講演] 松尾幸季・斉藤茂樹「19世紀前半におけるフランス化学の状況一Ann. Chim. 及び Ann. Chim. Phys. を中心として一」
- [一般講演] 柏木肇「炭素原子価と化学構造論」
- [一般講演] 藤崎千代子「原子価の電子論における転換期」
- [一般講演] 湯朝俊美「分子生物学の史的発展」

- [特別講演] 野副鉄男「研究回顧」
- 1976年度：不明
 - 1977年 研究発表会（武蔵大学 1977年 11月 12日（土）・13日（日））
 - [シンポジウム：日本における近代化学のあけぼの] 奥野久輝「シンポジウムの意図について」
 - [シンポジウム：日本における近代化学のあけぼの] 柏木肇「日本が近代化学を受容しはじめた頃の欧米の化学事情」
 - [シンポジウム：日本における近代化学のあけぼの] 吉田忠「蘭学と西洋科学の受容」
 - [シンポジウム：日本における近代化学のあけぼの] 鎌谷親善「日本における近代化学技術の特徴」
 - [一般講演] 松尾重樹「大河内正敏と『科学主義工業』」
 - [一般講演] 鳥羽山満「先進技術土着化における「化学」
 - [一般講演] 塚原徳道「理学社と『理科土曜集談』」
 - [一般講演] 大沢真澄「H. E. Roscoe 原著『小学化学書』について」
 - [一般講演] 塩川久男「明治前半期における上水水質分析について」
 - [一般講演] 古谷圭一「大正前期の工業分析化学—いわゆる一千万円訴訟事件に関連して—」
 - [一般講演] 中川昭三「石炭液化の歴史（1945年まで）」
 - [一般講演] 杉下龍一郎「化学史史料としての絵具」
 - [一般講演] 脇岡義人「18世紀中葉の Philosophical Transaction の化学論文について」
 - [一般講演] 松尾幸季「18世紀末における化学と鉱物学と地質学—ハットン・カーワン論争の再検討—」
 - [一般講演] 斎藤茂樹「アンペール研究の動向—分子説を中心として—」
 - [一般講演] 藤崎千代子「20世紀初期における原子価電子論形成の背景」
 - [一般講演] 竹林松二「有機化学者 Canizzaro とその時代」
 - [一般講演] 大竹勝・祢宜田久男「藍（青藍）—インジゴの研究を通して見た構造化学史の一断面」
 - [特別講演] 玉虫文一「界面化学への道—片山正夫教授生誕 100年にちなんで—」

『化学史研究』総目次 1974年～1999年

第1号 (1974年3月)

- [-巻頭言-] 玉虫文一「創刊に際して」第1号 (1974年) : 1
- [論文] 柏木肇「化学史, By whom, For whom—その Historiography に関連して—」第1号 (1974年) : 2-10
- [論文] 鎌谷親善「日本における硫酸工業のはじまり—造幣寮硫酸製造所—」第1号 (1974年) : 11-22
- [論文] 塚原徳道「樋田龍太郎研究 (1) —新簡易原子価論をめぐって—」第1号 (1974年) : 23-30
- [論文] 大沼正則「化学結合論における物理的方法と化学的方法について—Lewis と Bohr を中心に—」第1号 (1974年) : 31-37
- [寄書] 三井澄雄「日本における原子論的な中等化学教育の始まり」第1号 (1974年) : 38-41
- [原典翻訳] 藤崎千代子「A. L. Parson 磁子説による原子構造論—解説と Part 1 の訳—」第1号 (1974年) : 42-49
- [紹介] 柏木肇「C. A. Russel (introd.) : Essai sur la théorie des proportions chimiques et sur l'influence chimique de l'électricité by Jös Jakob Berzelius.」第1号 (1974年) : 50-53
- [広場] 田中実「科学史国際会議 (第14回) 化学史分科会について」第1号 (1974年) : 10
- [広場] 脇岡義人「化学史研究会への不調和感」第1号 (1974年) : 53-54
- [会報] 「化学史研究会の設立に至る経過」第1号 (1974年) : 54-55
- 「日本科学史学会化学史分科会 1973年総会プログラム」第1号 (1974年) : 55-56
- 「化学史研究会会則」第1号 (1974年) 表表紙うら
- 『化学史研究』投稿規程」第1号 (1974年) 裏表紙うら

第2号 (1974年8月)

- [-巻頭言-] 仁田勇「化学史研究の健やかな発展を望んで」第2号 (1974年) : 1-2
- [論文] 田辺振太郎「量子化学への動きはじめについて」第2号 (1974年) : 3-10
- [論文] 藤井清久「久原躬弦のベックマン転移の研究」第2号 (1974年) : 11-15
- [論文] 吉田忠「斥力, 空気, 蒸気—ニュートン, ヘールズ, デザグリエー」第2号 (1974年) : 16-23
- [論文] 脇岡義人「William Higgins と原子論」第2号 (1974年) : 24-39
- [原典翻訳] 斎藤茂樹「A. Avogadro: “物体の元素粒子の相対的質量とそれらの化合比の決定方法についての試論”—その解説と日本語訳—」第2号 (1974年) : 40-50
- [紹介] 藤井清久「Arnold Thackray, John Dalton: Critical Assessments of His Life and Science」第2号 (1974年) : 51-54
- [雑報] 田中実「第14回科学史国際会議 (XIV CIHS) 化学史分科会」第2号 (1974年) : 54
- [雑報] 「第14回科学史国際会議化学史分科会の講演者と題目一覧」第2号 (1974年) : 54-55
- [会報] 第2号 (1974年) : 56

第3号 (1975年8月)

- [特別講演] 水島三一郎「分子科学 (構造化学) の始まった頃」第3号 (1975年) : 1-3
- [論文] 田辺振太郎「化学史の Historiography と構造主義」第3号 (1975年) : 4-10
- [論文] 鎌谷親善「フィンチの雇入れをめぐって—造幣寮硫酸工場との関連で—」第3号 (1975年) : 11-17
- [文献解題] 柏木肇「Ambix 最近の11年」第3号 (1975年) : 18-46
- [紹介] 藤井清久「T. H. Levere, Affinity and Matter: Elements of Chemical Philosophy 1800-1865」第3号 (1975年)

年): 47-49

[会員名簿] 第3号 (1975年): 50-55

[1974年度化学史研究会年総会プログラム] 第3号 (1975年): 56

[会報] 第3号 (1975年): 46, 55

第4号 (1975年11月)

[-巻頭言-] 小竹無二雄「桜井先生と長井先生」第4号 (1975年): 1-4

[論文] 藤井清久「明治前期における原子論」第4号 (1975年): 5-15

[寄書] 中村馨「同志社波理須理化学学校—明治中期—化学系私立学校の歩み—」第4号 (1975年): 16-19

[解説] 大岩正芳「上野彦馬の『舎密局必携』」第4号 (1975年): 20-28

[原典翻訳] 武藤伸「A. L. ラヴォアジエ: 一般に燃焼を論ず—解説と訳—」第4号 (1975年): 29-33

[原典翻訳] 藤崎千代子「A. L. Parson: 磁子説による原子構造論—PartII, IIIの訳—」第4号 (1975年): 34-47

[雑報] 柏木肇「『Ambix 最近の11年』追記」第4号 (1975年): 48

[会報] 第4号 (1975年): 28

第5号 (1976年12月)

[研究回顧] 野副鉄男「研究回顧—トロポノイド化学のおいたち—」第5号 (1976年): 1-11

[論文] 柏木肇「プトレロフ—西欧との接触—」第5号 (1976年): 12-28

[論文] 塚原徳道「榎田竜太郎研究(2)—新簡易原子価論と電子対反発則—」第5号 (1976年): 29-35

[解説] 廣田綱蔵「物理化学の研究から見た日本化学の成長」第5号 (1976年): 36-43, 46

[寄書] 宗田一「第4号掲載論文によせて」第5号 (1976年): 44-46

[紹介] 吉野論吉「奥野久輝編『希ガスの発見と研究—化学の原典9—』」第5号 (1976年): 47-48

[会報] 第5号 (1976年): 35

[雑報] 第5号 (1976年): 35

第6号 (1977年6月)

木村健二郎「ハフニウムの発見とX線分光分析の創始」第6号 (1977年): 1-5

[論文] 河原林泰雄「アメリカの化学史運動の一側面—Edgar Fahs Smithをめぐって—」第6号 (1977年): 6-19

[論文] 塩川久男「R. W. アトキンソン—生涯と彼による上水水質分析について—」第6号 (1977年): 20-24

[寄書] 竹林松二「Markownikoff 則—その背景と趣意—」第6号 (1977年): 25-26

[寄書] 塚原徳道「リッテルの墓をたずねて—付マイヨの墓—」第6号 (1977年): 27-28

[解説] 東健一「量子化学50年の進歩—有機電子説の発展への寄与—」第6号 (1977年): 29-32

[原典翻訳] 斎藤茂樹「M. A. A. Gaudin: “限られた無機物体の内部構造の探究, および電気・熱の伝導度, ……”
—その解説と日本語訳—」第6号 (1977年): 33-39

[紹介] 榎友彦「科学教育と科学の原典—小島頼男編『反応速度論—化学の原典5—』をめぐって—」第6号 (1977年):
40-42

[紹介] 奥田典夫「奥野久輝編『元素の周期系—化学の原典8—』」第6号 (1977年): 42-43

[紹介] 高橋詢「島村修編『有機電子説—化学の原典12—』」第6号 (1977年): 43-44

「新入会員名簿 (付勤務先・連絡先変更)」第6号 (1977年): 45-48

[雑報] 「化学史研究月例会のお知らせ」第6号 (1977年): 48

[会報] 第6号 (1977年): 39, 44

「化学史研究会会則 (1976年11月6日一部改正)」第6号 (1977年): 5

「化学史研究 総目次(第1号~第6号)」第6号(1977年)裏表紙うら

第7号(1978年6月)

- [特別講演] 小寺熊三郎「我国における分子線による研究の発展」第7号(1978年): 1-8
 [論文] 藤井清久「コントの実証哲学における化学」第7号(1978年): 9-19
 [論文] 塩川久男「明治前半における上水水質分析について」第7号(1978年): 20-26
 [寄書] 大作勝・禰宣田久男「藍(靑藍)ーインジゴの研究を通して見た構造化学史の一断片」第7号(1978年): 27-31
 [寄書] 竹林松二「有機化学者 Cannizzaro とその時代」第7号(1978年): 32-33
 [解説] 久保田尚志「小竹無二雄先生の業績リストと経歴」第7号(1978年): 34-45
 [解説] 脇岡義人・内田正夫・徳元琴代・小峯としえ「John Dalton (1766-1844) 研究の展望」第7号(1978年): 46-52
 「新入会員名簿」第7号(1978年): 53

第8号(1978年10月)

- [特別講演] 玉虫文一「界面化学への道一片山正夫教授生誕100年にちなんで」第8号(1978年): 1-6
 [論文] D. M. KNIGHT「Chemistry in Britain at the End of the Nineteenth Century」第8号(1978年): 7-13
 柏木肇「Knight論文の解説」第8号(1978年): 13-17
 山岡望「化学史関係の蔵書目録を作って配りましょう」第8号(1978年): 18-19
 [追悼] 奥野久輝・井本稔・水渡英二・渡辺熙「山岡望先生を悼む」第8号(1978年): 19-23
 [特別講演] 山岡望「リービヒと私」第8号(1978年): 23-26
 「山岡望先生経歴・著作目録」第8号(1978年): 26-28
 [新刊紹介] 藤井清久「1977年発行の化学史・化学技術史関係新刊書」第8号(1978年): 28
 「化学史研究会1978年度総会プログラム・レジメ」第8号(1978年): 29
 [課題講演: 明治初期における日本の化学ー西欧との対応ー] 成定薫「英国における科学の制度化」第8号(1978年): 30-31
 [課題講演: 明治初期における日本の化学ー西欧との対応ー] 藤井清久「明治期における原子論ー西欧との対応において」第8号(1978年): 32-33
 [課題講演: 明治初期における日本の化学ー西欧との対応ー] 塩川久男「明治初期のお雇い外人教師たちーグリフィス, クラーク, ダイバース, アトキンソンのばあいー」第8号(1978年): 34-35
 [一般講演] 鎌谷親善「工業試験所の設立について」第8号(1978年): 36
 [一般講演] 亀山哲也・鎌谷親善「臨時窒素研究所についてー日本最初の大型プロジェクトはいかにして完成されたかー」第8号(1978年): 37
 [一般講演] 相馬順一「わが国における高分子化学の関する初期の研究について」第8号(1978年): 38
 [一般講演] 熊谷陽一「Platonの物質理論」第8号(1978年): 39
 [一般講演] 大沢真澄「プリュージェルの『錬金術師』について」第8号(1978年): 40
 [一般講演] 柏木肇「ロバート・プロット, その自然誌における化学の役割」第8号(1978年): 41
 [一般講演] 日吉芳朗「Scheeleの実験を再現してー化学史でたどる化学実験ー」第8号(1978年): 42
 [一般講演] 脇岡義人「近代化学の成立における気体装置の発展」第8号(1978年): 43
 [一般講演] 斎藤茂樹「19世紀初期のイギリスの農芸化学ーH. Davyの場合ー」第8号(1978年): 44
 [一般講演] 竹林松二「C. Fiedelと有機合成ーその歴史的背景ー」第8号(1978年): 45
 [一般講演] 藤崎千代子「原子価電子論の形成および化学構造の概念ー加成性及び光学性と磁性」第8号(1978年):

46

- [一般講演] 河原林泰雄「初期のアメリカ化学会化学教育部会の組織と活動」第8号(1978年): 47
 [新入会員名簿] 第8号(1978年) 巻末別紙

第9号(1979年2月)

- [論文] 河原林泰雄「初期のアメリカ化学会化学教育部会の組織と活動(1)」第9号(1979年): 1-8
 [論文] 古谷圭一「大正前期の工業分析化学—いわゆる銑鉄—千万円訴訟事件について—」第9号(1979年): 9-18
 [寄書] 杉下龍一郎「科学史資料としての美術材料」第9号(1979年): 19-22
 [解説] 立花太郎「鮫島実三郎の業績目録とその解説 第1部 研究業績」第9号(1979年): 23-36
 [追悼] 東健一・奥田典夫・内田正夫「田中実先生を悼む」第9号(1979年): 37-38
 [資料] 奥野久輝「山岡先生に答えて—私の蔵書の一部—」第9号(1979年): 39-40
 [資料] 柏木肇「アレンピック・クラブ・リプリントの目録」第9号(1979年): 40-41
 [紹介] 武藤伸「山岡望『化学史塵』」第9号(1979年): 41-42
 [紹介] 鎌谷親善「スプロンセン(島原健三訳)『周期系の歴史』」第9号(1979年): 42-44
 [新入会員名簿] 第9号(1979年): 44
 [会告] 「1979年度年・総会の案内」第9号(1979年): 45

第10号(1979年6月)

- [研究回顧] 植村琢「UrbainとPerrin—フランス留学の思い出—」第10号(1979年): 1-4
 [論文] 藤井清久「ル・シャトリエの原理の成立過程—化学における類推的想像力—」第10号(1979年): 5-14
 [論文] 亀山哲也・鎌谷親善「臨時窒素研究所—設立の背景—」第10号(1979年): 15-26
 [論文] 河原林泰雄「初期のアメリカ化学会化学教育部会の組織と活動(II)」第10号(1979年): 27-38
 [解説] 立花太郎「鮫島実三郎の業績目録とその解説 第2部 学会活動 著書 教育」第10号(1979年): 39-47
 [紹介] 田辺振太郎「メンデレーエフ(田中豊助・福渡淑子訳)『化学の原論』上・下」第10号(1979年): 48-52
 [雑報] 柏木肇「ゲイ・リュサック討論会」第10号(1979年): 4
 [雑報] 柏木肇「イギリスの化学史シンポジウム」第10号(1979年): 14
 [新入会員名簿] 第10号(1979年): 52

第11号(1979年10月)

- [化学史研究会 1979年度年・総会プログラム] 第11号(1979年): 1-2
 [招待講演] 阪上正信「桜井錠二博士とその関係諸資料」第11号(1979年): 3-13
 [招待講演] 須賀操平「加賀藩における火薬の歴史」第11号(1979年): 14-17
 [招待講演] 寺畑喜朔「金沢における幕末から明治初期の科学書について—とくに化学書を中心に—」第11号(1979年): 18-21
 [シンポジウム: 化学史と化学教育] 高橋哲郎「高校理科における科学史の意義と実際」第11号(1979年): 22
 [シンポジウム: 化学史と化学教育] 中塚五郎「生徒は化学の歴史に対して、どのような興味と関心を示すか」第11号(1979年): 23
 [シンポジウム: 化学史と化学教育] 米田昭二郎「成長期の子供の理科教育と化学史」第11号(1979年): 24-25
 [シンポジウム: 化学史と化学教育] 大沢真澄「化学とは何か—その歴史的展開—」第11号(1979年): 26
 [シンポジウム: 化学史と化学教育] 小塩玄也「歴史的な方法で化学の基礎を教える教科書『化学史による新基礎化学』について」第11号(1979年): 27
 [シンポジウム: 化学史と化学教育] 紫藤貞昭「一般教育における科学史」第11号(1979年): 28

- [一般講演] 日吉芳朗「プルシアン・ブルーの源流をたずねて—動物油のなぞ—」第11号(1979年): 29
- [一般講演] 関崎正夫「電子計算機の歴史と結晶化学」第11号(1979年): 30
- [一般講演] 竹林松二「化学史と関連づけた有機化学実験」第11号(1979年): 31
- [一般講演] 本浄高治「無機化合物の有機溶媒への抽出の歴史」第11号(1979年): 32
- [一般講演] 阿部裕子「L. Paulingの化学結合論とG. N. Lewis」第11号(1979年): 33
- [一般講演] 鎌谷親善「国立化学系試験研究機関と国家政策」第11号(1979年): 34
- [一般講演] 岡田登「黒色火薬の起源」第11号(1979年): 35
- [一般講演] 千野光芳「『舎密便覧』について」第11号(1979年): 36
- [一般講演] 松尾幸季「ジャン・レイと『定量化』の問題—苛焼の際の重量増加の証明の背景—」第11号(1979年): 37
- [一般講演] 板垣良一「ドイツ19世紀前半の科学」第11号(1979年): 38
- [一般講演] 柏木肇「光のコスモロジー—ハンフリ・デーヴィの処女論文について—」第11号(1979年): 39
- [一般講演] 大野誠「Royal InstitutionにおけるH. Davy」第11号(1979年): 40
- [一般講演] 松尾幸季「『化学革命』の修正?—デイヴィのラヴォワジェ理論への反応—」第11号(1979年): 41
- [紹介] 大野誠「D. M. Knight, The Transcendental Part of Chemistry」第11号(1979年): 42-45
- [紹介] 梅田淳「Clioは化学と離婚すべきか—Brushの化学教育論について—」第11号(1979年): 46-48
- [論文抄録] 阿部裕子「E. Garber, "Molecular Science in Late-Nineteenth-Century Britain", Hist. Stud. Phys. Sci., 9 (1978), 225-264」第11号(1979年): 17
- [論文抄録] 大野誠「A. Donovan, "James Hutton, Joseph Black and the Chemical Theory of Heat", Ambix, 25 (1978), pp. 176-190」第11号(1979年): 21
- [化学史研究総目次 (No. 1—No. 10)] 第11号(1979年): 49-50

第12号(1980年3月)

- 奥野久輝「放射性アイソトープの発見と研究」第12号(1980年): 1-9
- [論文] 阿部裕子「Pauling化学結合論の形成について」第12号(1980年): 10-19
- [解説] 後藤良造「久原躬弦の経歴と業績 (I)」第12号(1980年): 20-30
- [資料] 廣田鋼蔵「『物庵』とは誰の雅号か—故田中実先輩にお答えする—」第12号(1980年): 31-33
- [資料] H. O.「山岡先生をしのんで—先生のある書簡—」第12号(1980年): 34-35
- [資料] 藤井清久「Chymiaの巻別目次と事項索引」第12号(1980年): 36-43
- [資料] 武藤伸「化学史及び周辺分野の出版物(1978)」第12号(1980年): 44-46
- [-広場-] 玉虫文一「化学史研究会金沢大会を顧みて」第12号(1980年): 47
- [会報] 鎌谷親善「総会決議「東京工業試験所跡地実験施設・建造物の現状保存ならび国立科学技術史資料センター(仮称)の設置に関する要望(案)」について」第12号(1980年): 43
- [会報]「『高校化学教育における化学史』の企画についてのお知らせ」第12号(1980年): 49
- [論文抄録] 大野誠「W. M. Sudduth, "Eighteenth-Century Identification of Electricity with Phlogiston", Ambix, 26 (1978), pp. 131-147」第12号(1980年): 46
- [新入会員名簿] 第12号(1980年): 48-49

第13号(1980年7月)

- 林太郎「池田菊苗先生の講義」第13号(1980年): 1-13
- [解説] 後藤良造「久原躬弦の経歴と業績 (II)」第13号(1980年): 14-36
- [論文] J. H. Brooke「The Chemistry of Organic and the Inorganic: a study in the dynamic interaction of

concepts」第13号(1980年): 37-56

[論文解説] 柏木肇「J. H. ブルック博士論文の解説」第13号(1980年): 56-60

[紹介] 大野誠「A. J. Rocke, "The Reception of Chemical Atomism in Germany", ISIS, 70 (1979), 519-536」第13号(1980年): 36

「新入会員名簿」第13号(1980年): 61-62

第14号(1980年10月)

「化学史研究会1980年度年・総会プログラム」第14号(1980年): 1-2

[シンポジウム: 化学史教材と化学教育] 村上陽一郎「科学教育の場面における科学史」第14号(1980年): 3-4

[シンポジウム: 化学史教材と化学教育] 鳥山由子「中学校における化学史教材の取扱いについて」第14号(1980年): 5-6

[シンポジウム: 化学史教材と化学教育] 寺川智祐「化学教育確立期における化学教育—ドイツ・イギリスの場合—」第14号(1980年): 7-8

[シンポジウム: 化学史教材と化学教育] 丸石照機「アメリカの化学教育の初期の状況—Lavoisierの「化学命名法」の導入と受容と定着—」第14号(1980年): 9

[シンポジウム: 化学史教材と化学教育] 宮田光男「空気の化学史とその活用について」第14号(1980年): 10-11

[シンポジウム: 化学史教材と化学教育] 日吉芳朗「化学史上の実験—天然物との取り組み—」第14号(1980年): 12-13

[シンポジウム: 化学史教材と化学教育] 大沢真澄「ウランの歴史—一般教育における化学史導入の一例—」第14号(1980年): 14

[一般講演] 千野光芳「吉雄常三著『粉砲考』—江戸時代化学実験書として—」第14号(1980年): 15

[一般講演] 森正由「幕末から明治初期における化学実験器具の製作について」第14号(1980年): 16

[一般講演] 力丸光雄「『化学訓蒙』について」第14号(1980年): 17

[一般講演] 廣田鋼蔵・山口達明「味の素」の発明について」第14号(1980年): 18

[一般講演] 塩川久男「近代上水道誕生小誌—函館のばあい—」第14号(1980年): 19

[一般講演] 岡田登「筒状(管形)火器の起源と発展」第14号(1980年): 20

[一般講演] 立入明「ゲートと化学」第14号(1980年): 21

[一般講演] 松尾幸季「化学現象の生成に与る諸力—J. F. ダニエルの『化学哲学研究入門』の戦略—」第14号(1980年): 22

[一般講演] 斉藤茂樹「19世紀前半の農芸化学—H. DavyとJ. A. Chaptalとの関係を中心として—」第14号(1980年): 23

[一般講演] 竹林松二「遊離基概念の発展」第14号(1980年): 24

[一般講演] 本浄高治「無機化合物の分離分析に用いられる有機試薬の歴史1825～1891」第14号(1980年): 25

[一般講演] 藤崎千代子「Bohrのスペクトル理論の形成とDrudeの分散理論」第14号(1980年): 26

[一般講演] 阿部裕子「ヨーロッパ留学期のPauling」第14号(1980年): 27

「新入会員名簿」第14号(1980年): 28-29

「化学史研究会会員名簿(1980年9月現在)」第14号(1980年): 31-43

第15号(1981年3月)

[特別講演] 菅原健「地球化学概念の内包と外延」第15号(1981年): 1-7

[論文] O. T. Benfey「Spinach as an Alchemical Antidote to Heavy Metal Poisoning」第15号(1981年): 8-12

中山茂「セオドア・ベンファイ紹介」第15号(1981年): 12

- [論文] 鎌谷親善「第一次世界大戦と工業技術の振興策」第15号(1981年):13-28
 [原典翻訳] 成定薫「L. パストゥール: フランス科学についての省察」第15号(1981年):29-41
 [雑報] 竹林松二「1980年度化学史研究会年会を顧みて」第15号(1981年):44
 [資料]「化学史及び周辺分野の出版物(1979)」第15号(1981年):46-48
 [論文抄録] 大谷隆昶「C. B. Wilde, "Hutchinsonianism, Natural Philosophy and Religious Controversy in Eighteenth Century Britain", *Hist. Sci.*, 18 (1980), pp. 1-24」第15号(1981年):41-42
 [論文抄録] 藤井清久「P. M. Heimann, "Voluntarism and Immanence: Conceptions of Nature in Eighteenth-century Thought", *J. Hist. Ideas*, 39, No. 2, 271-283 (1978)」第15号(1981年):42-43
 [論文抄録] 小松真理子「N. H. Steneck, "Albert the Great on the classification and localization of the internal senses", *ISIS*, 64: 193-211 (1974)」第15号(1981年):43
 [会報]「化学史研究会会則」第15号(1981年):45
 [新入会員名簿]第15号(1981年):49-50

第16号(1981年7月)

- 竹林松二「互変異性に関する概念の発展」第16号(1981年):1-7
 [論文] 鎌谷親善「造幣局硫酸製造所における事業の展開—明治8~18年—」第16号(1981年):8-21
 [寄書] 水浄高治「無機化合物の有機溶媒への抽出の歴史—1842~1941—」第16号(1981年):22-27
 [教育シリーズ] 林良重「シリーズ「化学教育における化学史」を始めるに当たって」第16号(1981年):28
 [教育シリーズ] 藤井清久「原子量と原子構造—プラウトの仮説の誕生・没落・復活—」第16号(1981年):29-38
 [雑報] 廖正衡(黒田真美子訳)「独自の風格を備えた化学史の大著—山岡先生の『化学史傳』に関する私的考察—」第16号(1981年):39-41
 [雑報] 廣田鋼蔵「ブラウン運動の発見を巡って—教育に対する化学史の有用性—」第16号(1981年):42-43
 [書評] 榎友彦「モーリス・クロスランド著『ゲイ・リュサック—科学者とプルジョフ』(1978)の紹介—近代市民社会の成立と職業的化学者の誕生—」第16号(1981年):44-47
 [資料]「化学史及び周辺分野の新刊書(1980)」第16号(1981年):48-51
 [会報]第16号(1981年):51
 [『化学史研究』投稿規程(1981年4月18日改正)]第16号(1981年):52

第17号(1981年9月)

- 「化学史研究会1981年度年・総会プログラム」第17号(1981年):1-2
 [特別講演] 潮見浩「たたら製鉄の歴史について」第17号(1981年):3
 [シンポジウム:19世紀中葉における科学・社会・思想] 藤井清久「実証主義とフランス化学—ベルトッロー・ヴェルツ論争をめぐって—」第17号(1981年):4
 [シンポジウム:19世紀中葉における科学・社会・思想] 柏木肇「ドイツ化学の形成」第17号(1981年):5-6
 [シンポジウム:19世紀中葉における科学・社会・思想] 河原林泰雄「19世紀アメリカ化学の専門職業化について」第17号(1981年):7-8
 [シンポジウム:19世紀中葉における科学・社会・思想] 松尾幸季「BAASと化学」第17号(1981年):9
 [課題講演:化学と諸科学—学問の分化と総合化—] 武森重樹「総合科学部の目指す研究・教育」第17号(1981年):10
 [一般講演] 中垣良一「光音響効果と透明純液体の可視部吸収帯の発見」第17号(1981年):11
 [一般講演] 竹林松二「有機金属化合物の発見」第17号(1981年):12
 [一般講演] 阪上正信「環境放射能発見のいきさつ—ElsterとGeitelのあゆみ—」第17号(1981年):13

- [一般講演] 本浄高治「分析化学において用いられる人名実験器具の歴史」第17号(1981年): 14
 [一般講演] 糸山東一「一般教育と史的視点」第17号(1981年): 15
 [一般講演] 村上嘉一「愛媛県における理化教育のおこり—明治初期—」第17号(1981年): 16
 [一般講演] 菅原国香「『遠西医方名物考補遺』巻7, 8(元素編第一, 第二)の原本の一つについて」第17号(1981年): 17,19
 [一般講演] 千野光芳「小森愚堂の化学知識—「薬名早引」「気海観潤記聞」にみる—」第17号(1981年): 18
 [一般講演] 鎌谷親善「地質調査とコルシエルト」第17号(1981年): 19
 [一般講演] 亀山哲也・鎌谷親善「臨時窒素研究所におけるアンモニア合成研究の展開」第17号(1981年): 20
 [一般講演] 松尾重樹「大河内正敏と科学主義工業の誕生」第17号(1981年): 21
 [一般講演] 横山輝雄「フロジストン理論と決定的実験」第17号(1981年): 22
 [一般講演] 松尾幸季「18世紀第4・四半世紀の科学界におけるカーワンの役割」第17号(1981年): 23
 [論文] 井山弘幸「John Dalton と倍数比例の法則—その発見をめぐる—」第17号(1981年): 24-32
 [教育シリーズ] 川井雄「質量作用の法則に関するグルベルグとヴォーゲの研究」第17号(1981年): 33-40
 [紹介] 小塩玄也「奥野久輝『江戸の化学』」第17号(1981年): 41-42
 [紹介] 山口達明「長野敬編『パストゥール』(科学の名著10)」第17号(1981年): 42-43
 [論文抄録] 小松真理子「C. C. Hatfield and W. Epstein, "The Sensory Core and the Medieval Foundations of Early Modern Perceptual Theory", ISIS, 79 (No. 253), 363-384 (1979)」第17号(1981年): 43
 「新入会員名簿」第17号(1981年): 44

1982年第1号(第18号)(1982年1月)

- [論文] 芝哲夫「ハラタマと日本の化学」第18号(1982年): 1-16
 [寄書] 中垣良一「透明純液体の可視部吸収帯の発見と高振動励起状態の化学」第18号(1982年): 17-19
 [教育シリーズ] 小塩玄也「反応速度の認識と反応速度論の形成—ヴィルヘルムを中心として—」第18号(1982年): 20-31
 [資料] 亀山哲也「1980年代のわが国の技術政策について」第18号(1982年): 32-37
 [広場] 廣田鋼蔵「個人広告欄の設置」第18号(1982年): 19
 [紹介] 柏木肇「『アイシス』文献目録について」第18号(1982年): 37-40
 [紹介] 藤井清久「レスター(大沼正則監訳)『化学と人間の歴史』」第18号(1982年): 40-42
 「化学史研究総目次(第1号～第17号)」第18号(1982年): 43-47
 「新入会員名簿」第18号(1982年): 47

1982年第2号(第19号)(1982年5月)

- [論文] 廣田鋼蔵「池田菊苗博士の後半生の活動と思想」第19号(1982年): 49-58
 [論文] 鎌谷親善「工業試験所の起源—地質調査所の設立に至る過程—」第19号(1982年): 59-80
 [解説] 山崎一雄「柴田雄次先生の業績とその解説(第一部)」第19号(1982年): 81-87
 [教育シリーズ] 山口達明(訳)「ファラデー: 講演者たちへのアドバイス」第19号(1982年): 88-92
 [論文紹介] 中垣良一「J. G. Jenkin, et. al., "The Development of X-ray Photoelectron Spectroscopy: 1900-1960", J. Electron Spectrosc. Relat. Phenom., 21 (1977), 1-35」第19号(1982年): 93
 [紹介] 亀山哲也「飯島孝『日本の化学技術—企業史にみるその構造—』」第19号(1982年): 94
 [追悼] 奥野久輝「追悼 故野村昭之助 教授」第19号(1982年): 95
 [追悼] 吉野諭吉「野村昭之助 教授を偲ぶ」第19号(1982年): 95-96

1982年第3号(第20号)(1982年9月)

- [解説] 山崎一雄「柴田雄次先生の業績とその解説(第二部)」第20号(1982年): 97-103
- [教育シリーズ] 柏木肇「化学史文献—その種類と利用法について—」第20号(1982年): 104-113
- [広場] 玉虫文一「『化学史研究』1982年第2号(第19号)を通読しての所感」第20号(1982年): 114
- [紹介] 井山弘幸「F. Franks, Polywater」第20号(1982年): 115
- [紹介] 井山弘幸「Henry Guerlac, Newton on the Continent」第20号(1982年): 124
- [紹介] 鎌谷親善「日本薬学会百年史編纂委員会編『日本薬学会百年史』」第20号(1982年): 116
- [紹介] 鎌谷親善「日本分析化学会編『日本分析化学史』」第20号(1982年): 117
- [資料]「化学史及び周辺分野の新刊書(1981)」第20号(1982年): 118-119
- [会報] 鎌谷親善「会則の変更について」第20号(1982年): 120
- [会報]「化学史研究会会則(案)」第20号(1982年): 120-121
- [会報]「化学史研究会細則(案)」第20号(1982年): 122-123
- [会報]「『化学史研究』投稿規定(1981年4月18日改正)」第20号(1982年): 123
- 「化学史研究欧文総目次 No.1(1974)-1982 No.3(No.20)」第20号(1982年): 125-133
- 「新入会員名簿」第20号(1982年): 134
- 「1982年度年・総会プログラム」第20号(1982年): I-II
- [特別講演] 阿部又三「麦角アルカロイド生産, 生合成研究を顧みて」第20号(1982年): III
- [シンポジウム: 化学史資料の収集と利用] 柏木肇「化学史文献—化学史教材化への利用—」第20号(1982年): IV
- [シンポジウム: 化学史資料の収集と利用] 服部一敏「化学史資料の文献調査について」第20号(1982年): V-VI
- [シンポジウム: 化学史資料の収集と利用] 安澤秀一「未刊手稿史料の整理と管理」第20号(1982年): VII
- [一般講演] 千野光芳「理科必読『気海観潤』と嘉永七年『理学提要』」第20号(1982年): IX
- [一般講演] 菅原国香「明治期の化学用語の研究(II) —元素名について—」第20号(1982年): X
- [一般講演] 安江政一「わが国への天然物有機化学導入の経緯について」第20号(1982年): XI
- [一般講演] 鎌谷親善「日本におけるソーダ工業のはじまり」第20号(1982年): XII
- [一般講演] 日吉芳朗「古典的な錯塩の合成—生徒実験と演示実験—」第20号(1982年): XIII
- [一般講演] 本净高治「化学史からみた探究のあり方—化学史と化学教育に対する一考察—」第20号(1982年): XIV
- [一般講演] 竹林松二「F. Wöhlerの有機合成とその時代」第20号(1982年): VX
- [一般講演] 廣田鋼蔵・山口達明「S. Arrheniusはアレーニウス式を提案したか」第20号(1982年): XVI
- [一般講演] 斎藤茂樹「農芸化学におけるラヴォアジェとフルクロア」第20号(1982年): XVII
- [一般講演] 梅田淳「19世紀前半のイギリスにおける教育観—W. ヒューエルを中心として—」第20号(1982年): XVIII
- [一般講演] 大野誠「『化学革命』とは何か」第20号(1982年): XIX
- [一般講演] 井山弘幸「化学革命の方法論的研究序説」第20号(1982年): XX

1982年第4号(第21号)(1982年12月)

- [論文] 熊谷陽一「PLATONの物質理論」第21号(1982年): 135-142
- [教育シリーズ] 日吉芳朗「有機酸の研究とシェーレのとりくみ」第21号(1982年): 143-153
- [寄書] 宗田一「わが国最初のサラシ粉製造」第21号(1982年): 154-160
- [原典翻訳] 山口達明「19世紀中葉におけるイギリスの科学技術教育—1851年ロンドン大博覧会に関するL. プレイフェアの講演—」第21号(1982年): 161-173
- [紹介] 古川安「アメリカの化学史研究—伝統と動向—」第21号(1982年): 174-175

- [追悼] 奥野久輝「前会長 玉蟲文一先生を悼む」第21号(1982年): 176-177
 [追悼] 柏木肇「弔辞」第21号(1982年): 177-178
 [追悼] 永松一夫「不肖中の不肖として」第21号(1982年): 178-180
 [追悼] 渡辺正雄「玉蟲文一先生を偲んで」第21号(1982年): 180-181
 [追悼] 林良重「玉蟲文一先生を偲んで」第21号(1982年): 181-182
 [追悼] 「玉蟲先生の経歴・著書・論文・総説等目録」第21号(1982年): 182-192

1983年第1号(第22号)(1983年3月)

- [論文] 安江政一「長井長義をめぐって―帰国当初の研究業績と地位の変転―」第22号(1983年): 1-8
 [寄書] 本浄高治「金属イオンの分析に用いられる合成有機試薬の歴史(1825～1953)」第22号(1983年): 9-18
 [解説] 水渡英二「堀場信吉の業績と経歴」第22号(1983年): 19-32
 [教育シリーズ] 村上嘉一「近代原子論の発展―Daltonと原子論―」第22号(1983年): 33-42
 [広場] 廣田綱蔵「現代化学史の生き証人としての玉蟲文一博士」第22号(1983年): 43-45
 [雑報] 山口達明「1983年ヨーロッパ化学史の旅」第22号(1983年): 46
 [会報] 山口達明「CHOC NEWS」第22号(1983年): 8
 「新入会員名簿」第22号(1983年): 18

1983年第2号(第23号)(1983年7月)

- [研究回顧] 岩倉義男「重付加反応の研究をめぐって」第23号(1983年): 47-55
 [寄書] 日吉芳朗「プルシアンブルーの源流をたずねる」第23号(1983年): 56-60
 [総説] W. H. ブロック(板垣良一 訳・解説)「リービヒ研究の現状」第23号(1983年): 61-74
 [教育シリーズ] 川井雄「金属触媒作用についてのテーラーの活性中心説」第23号(1983年): 75-82
 [紹介] 小塩玄也「戸倉仁一郎著『化学のあけぼの―化学者カンニツァロの生涯―』」第23号(1983年): 83
 [追悼] 立花太郎「奥野久輝葬送式弔辞」第23号(1983年): 84-85
 [追悼] 石森達二郎「奥野久輝先生のご逝去を悼む」第23号(1983年): 85-86
 [追悼] 山崎一雄「奥野さんを悼む」第23号(1983年): 86-87
 [追悼] 「奥野久輝先生の経歴・著書・論文・解説等目録」第23号(1983年): 87-93
 「アンケート」第23号(1983年): 94
 [会報] 第23号(1983年): 60

1983年第3号(第24号)(1983年9月)

- [論文] 鎌谷親善「阿波藍, とくに染製造技術の史的展開について(I)」第24号(1983年): 95-110
 [教育シリーズ] 称宜田久男「化学親和力の概念」第24号(1983年): 111-115
 [広場] 成定薫「『OU科学史I 宇宙の秩序』の刊行にあたって」第24号(1983年): 116-117
 [広場] 藤井清久「イギリスにおける化学史研究の動向」第24号(1983年): 118-119
 [資料] 「化学史及び周辺分野の新刊書(1982)」第24号(1983年): 120-121
 「新入会員名簿」第24号(1983年): 117
 「1983年度年・総会プログラム」第24号(1983年): I-II
 [特別講演] 仁田勇「化学史周辺雑想」第24号(1983年): III
 [シンポジウム: 幕末明治初期の西欧科学の受容について] 井上隆史「宇田川榕菴の燃焼理論に関する考察―「酸素」・「酸化」の概念の翻訳と明治初等理科教科書への影響―」第24号(1983年): IV
 [シンポジウム: 幕末明治初期の西欧科学の受容について] 千野光芳「本木昌造『秘事新書』と河野禎造『農家備要』

- 幕末明治初期の環境化学— 第24号 (1983年): V
- [シンポジウム: 幕末明治初期の西欧科学の受容について] 大沢真澄「イギリス留学時代の市川盛三郎・杉浦重剛の事蹟」第24号 (1983年): VI
- [シンポジウム: 幕末明治初期の西欧科学の受容について] 藤田英夫「大坂舎密局の遺産に関する化学史的調査」第24号 (1983年): VII
- [シンポジウム: 幕末明治初期の西欧科学の受容について] 永松一夫「明治初期の化学者像・事例研究 (i) 永松東海と、その『定性化学試験要領』(I) 予備的調査」第24号 (1983年): VIII
- [シンポジウム: 幕末明治初期の西欧科学の受容について] 丸丸光雄「O. ケルナー—駒場における彼の講義について—」第24号 (1983年): IX
- [シンポジウム: 幕末明治初期の西欧科学の受容について] 宗田一「江戸時代後期の製薬化学技術—駆梅用水銀剤製造を中心に—」第24号 (1983年): X
- [一般講演] 安江政一「中世ヨーロッパにおける薬局技術の化学史的意義」第24号 (1983年): XI
- [一般講演] 横山輝雄「酸素の発見と同時発見論」第24号 (1983年): XII
- [一般講演] 大野誠「C. Daubeny の『原子論序説』(1831年) の再評価」第24号 (1983年): XIII
- [一般講演] 松尾幸季「C. W. シェーレの『空気と火の化学的論考』とその註をめぐって」第24号 (1983年): XIV
- [一般講演] 熊谷陽一「Boyle の粒子説」第24号 (1983年): XV
- [一般講演] 斎藤茂樹「R. カーワンの農芸化学—土壌の問題を中心として—」第24号 (1983年): XVI
- [一般講演] 竹林松二「白寿を迎えた Sandmeyer 反応」第24号 (1983年): XVII
- [一般講演] 塩川久男「近代上水道敷設と上水水質分析制度の確立」第24号 (1983年): XVIII
- [一般講演] 本浄高治「機器分析の歴史—定性・定量分析からの状態分析・キャラクタリゼーションへ—」第24号 (1983年): XIX
- [一般講演] 藤崎千代子「T. Heulinger のバンド構造の研究 (1918~1920)」第24号 (1983年): XX

1983年第4号 (第25号) (1983年12月)

- 仁田勇「化学史周辺雑感」第25号 (1983年): 123-126
- [論文] 鎌谷親善「阿波藍, とくに菓製造技術の史的展開について (II)」第25号 (1983年): 127-139
- [解説] 橋本哲太郎・加藤秋男・山岡正和「油脂化学者辻本満丸先生一人となりと研究業績—」第25号 (1983年): 140-153
- [教育シリーズ] 廖正衡 (小川郁夫訳)「化学史と化学教育の結合について」第25号 (1983年): 154-160
- [広場] 立花太郎「1983年度の年会に出席して」第25号 (1983年): 161
- [広場] 亀山哲也「MIT で見た化学と技術と社会の一断面」第25号 (1983年): 162-163
- [紹介] 藤崎千代子「[引用文献数の統計処理が意味するもの] ハート論文」第25号 (1983年): 164-165
- [資料] 廣田鋼蔵「池田菊苗の Royal Institution 滞在」第25号 (1983年): 166-168
- [新入会員名簿] 第25号 (1983年): 160
- [会報] 第25号 (1983年): 169-170

1984年第1号 (第26号) (1984年3月)

- [論文] 廣田鋼蔵「丸沢常哉の大正デモクラシイ期の活躍」第26号 (1984年): 1-9
- [論文] 横山輝雄「化学革命と科学方法論」第26号 (1984年): 10-16
- [寄書] 竹林松二「Sandmeyer 反応の100年に当たって—発見の経緯と反応の解明—」第26号 (1984年): 17-20
- [教育シリーズ] 藤井清久「化学における類比的想像力の働き—ファント・ホフと近代溶液理論の成立—」第26号 (1984年): 21-29

- [解説] 柏木肇「プリーストリーは何故に化学への道を歩んだか」第26号(1984年): 30-40
[紹介] 小塩玄也「立花太郎著『化学を創ってゆく道すじ』」第26号(1984年): 41-42
[雑報] 島原健三「1984 環太平洋国際化学会議 (PAC CHEM '89) について」第26号(1984年): 20
[会報] 第26号(1984年): 42
「化学史研究総目次(第1号～第25号)」第26号(1984年): 40,43-48

1984年第2号(第27号)(1984年7月)

- [論文] 安江政一「アルケミー、ファルマシー、錬金術および贋金造りの系譜—中世ヨーロッパにおける薬局技術の化学史的意義をめぐって—」第27号(1984年): 49-56
[論文] メアリー・ジョー・ナイ(古川安訳・解説)「フランス物理化学の出現とジャン・ペランの成功」第27号(1984年): 57-67
[教育シリーズ] 中川正澄「企業の研究者アービング・ラングミュア」第27号(1984年): 68-74
[広場] 廣田鋼蔵「池田菊苗博士のお墓と彼の知友・漱石のお墓」第27号(1984年): 75-76
[追悼] 阪上正信「奥野久輝先生と山岡望伝」第27号(1984年): 77-80
[紹介] 井山弘幸「Allen G. Debus, The Chemical Philosophy: Paracelsian Science and Medicine in the Sixteenth and Seventeenth Centuries」第27号(1984年): 81-82
[紹介] 小塩玄也「紫藤貞昭著『自然科学の歴史—物質とエネルギー—』」第27号(1984年): 83-84
[資料] 藤井清久「アメリカ化学史学位論文の入手法について」第27号(1984年): 85-86
[資料] 「化学史および周辺分野の新刊書(1983)」第27号(1984年): 87-88
「新入会員名簿」第27号(1984年): 74
[会報] 第27号(1984年): 80

1984年第3号(第28号)(1984年9月)

- [論文] 菅原国香「明治期における有機元素分析」第28号(1984年): 89-96
[論文] 安江政一「推定構造式と仮想式(作業仮設)—エフェドリンの構造解明をめぐって—」第28号(1984年): 97-105
[紹介] 鎌谷親善「廣田鋼蔵著・刊『旨味の発見とその背景—漱石の知友・池田菊苗伝—』」第28号(1984年): 106
[紹介] 島原健三「阪上正信・米田昭二郎・日吉芳朗著『たのしい化学実験—化学史でたどる—』」第28号(1984年): 107-108
[会報] 第28号(1984年): 108
「化学史研究会会員名簿(1984年9月)」第28号(1984年): 110-122
「1984年度年・総会プログラム」第28号(1984年): I-II
[特別講演] 畑一夫「わが国における化学用語制定の歴史と現状」第28号(1984年): III-IV
[特別講演] 廣田鋼蔵「片山正夫博士の文筆活動」第28号(1984年): V-VI
[一般講演] 安江政一「過渡期の人長井長義—わが国への有機化学導入の経緯—」第28号(1984年): VII
[一般講演] 木下圭三・後藤良造「吉田彦六郎の業績」第28号(1984年): VIII
[一般講演] 永松一夫「明治初期の化学者像・事例研究(II) 瓜生泰と非鉄金属工業(i) 予備的調査」第28号(1984年): IX
[一般講演] 赤平清蔵「ロバート・ボイル『鉱泉水の自然誌・実験誌』(1685)について」第28号(1984年): X
[一般講演] 日吉芳朗「有機酸とシェーレのとりくみ—とくに酒石酸とシュウ酸—」第28号(1984年): XI
[一般講演] 大野誠「アヴォガドロ分子説の再検討—1811年論文を中心として—」第28号(1984年): XII
[一般講演] 竹林松二「L. Gattermann と合成反応—その発見をめぐって—」第28号(1984年): XIII
[一般講演] 本浄高治「分析化学において用いられる天然有機試薬の歴史」第28号(1984年): XIV

[一般講演] 阪上正信「Vladimir I. Vernadskyのあゆみ—ロシアからソ連へ—」第28号(1984年): XV

[一般講演] 古川安「カロザースとアメリカ高分子化学の出現」第28号(1984年): XVI

1984年第4号(第29号)(1984年12月)

[-巻頭言-] 柏木肇「研究会から学会へ」第29号(1984年): 123-124

[-巻頭言-] 立花太郎「化学史学会に対する私のヴィジョン—会長退任の辞に代えて—」第29号(1984年): 125

[論文] John H. Wotiz and Susanna Rudofsky「Kekule's Dreams: Facts or Fiction?」第29号(1984年): 126-133

[論文] 藤田英夫「大阪舎密局の化学史的遺産に関する一考察」第29号(1984年): 134-145

[寄書] 本浄高治「人名化学実験器具の起源」第29号(1984年): 146-155

[教育シリーズ] 竹林松二「有機化合物に関する概念の発展」第29号(1984年): 156-160

[広場] 永松一夫「年・総会に参加して」第29号(1984年): 161

[紹介] 小塩玄也「山本大二郎著『歴史をたどる化学』」第29号(1984年): 162-163

[論文紹介] 中垣良一「Samuel A. Forman, "The Dynamic Interplay between Photochemistry and Photography", J. Chem. Educ., 52 (1975), 629-631」第29号(1984年): 163

[雑報] 「第1回化学史研究「春の学校」開催の御案内」第29号(1984年): 160

「第8回ヨーロッパ化学史の旅御案内」第29号(1984年): 163

[会報] 第29号(1984年): 164-167

「化学史学会会則・細則(1984年10月13日改訂)」第29号(1984年): 168-170

「『化学史研究』投稿規程(1984年10月12日改訂)」裏表紙うら

「新入会員名簿」第29号(1984年): 146

1985年第1号(第30号)(1985年3月)

岡村誠三「基礎科学として重要な化学史研究」第30号(1985年): 1

「化学史研究会10周年記念年会シンポジウム」第30号(1985年): 2

[10周年記念年会シンポジウム] 鎌谷親善・藤井清久・大沢真澄「公開座談会「化学史研究会10年の歩み」」第30号(1985年): 3-6

[10周年記念年会シンポジウム] 柏木肇「課題講演「最近の化学史研究の動向」海外における化学史研究」第30号(1985年): 7-14

[10周年記念年会シンポジウム] 飯島孝・岩本振武・川井雄・横山輝雄「パネル討論「化学史の研究に何を求めるか」」第30号(1985年): 15-28

「会員の声」第30号(1985年): 29-30

[論文] 中島三喜男「アミノトリアリジン化合物の構造化学」第30号(1985年): 31-46

[解説] 川井雄「非化学量論化合物の展開—原子価制御理論を中心に—」第30号(1985年): 47-56

[紹介] 島尾永康「最近の中国化学史研究から」第30号(1985年): 57-67

[紹介] 井山弘幸「Th. Thomson, The History of Chemistry (1830-31)」第30号(1985年): 68-69

[広場] 藤井清久「日本における近代化学の父 E. ダイヴァースの墓を訪ねて」第30号(1985年): 70-73

「新入会員名簿」第30号(1985年): 46

[会報] 第30号(1985年): 74-75

1985年第2号(第31号)(1985年6月)

潘吉星(大沢真澄・塚原東吾共訳)「近代の考古学的発見とその科学研究による製紙の起源について」第31号(1985

年) : 77-80

- [寄書] 竹林松二「L. Gattermann と有機合成—その発見をめぐる—」第 31 号 (1985 年) : 81-85
 [解説] 木下圭三・後藤良造「吉田彦六郎と彼の研究」第 31 号 (1985 年) : 86-94
 [教育シリーズ] 大野誠「アヴォガドロの 1811 年論文の再検討」第 31 号 (1985 年) : 95-107
 [技術資料] 亀山哲也「化学技術研究所の歴史的記念物—わが国化学工業の近代化のあけぼのを物語る—」第 31 号 (1985 年) : 108-110
 [広場] 大野誠「化学史研究第 1 回「春の学校」を終えて」第 31 号 (1985 年) : 111-118
 [紹介] 小塩玄也「高宮信夫・山口達明著『化学の方法』」第 31 号 (1985 年) : 119-120
 [紹介] 鎌谷親善「柏木肇・柏木美重編著, D. M. ナイト原著『科学史入門—資料へのアプローチ—』」第 31 号 (1985 年) : 120-121
 [資料]「化学史および周辺分野の新刊書 (1984)」第 31 号 (1985 年) : 94,122-123
 「新入会員名簿」第 31 号 (1985 年) : 85

1985 年第 3 号 (第 32 号) (1985 年 9 月)

- [論文] 廖正衡 (八耳俊文訳)「化学史研究に関する理論問題」第 32 号 (1985 年) : 125-135
 [教育シリーズ] 藤井清久「『ペルトッレープルスト論争』考—一定比例の法則の成立—」第 32 号 (1985 年) : 136-144
 [紹介] 島原健三「田中豊助他共訳『ファント・ホッフ立体化学・カント火について』」第 32 号 (1985 年) : 145-146
 [広場] 古川安「第 17 回国際科学史会議に出席して」第 32 号 (1985 年) : 147-148
 [資料]「海外学会短信」第 32 号 (1985 年) : 149
 「新入会員名簿」第 32 号 (1985 年) : 146
 「1985 年度年・総会プログラム」第 32 号 (1985 年) : 150-151
 [特別講演] 潘吉星「Outline Description on Chemistry in Ancient China」第 32 号 (1985 年) : 152
 [シンポジウム: 日本の化学・中国の化学] 鎌谷親善「京都市陶磁器試験場—その創立から国立移管まで—」第 32 号 (1985 年) : 153
 [シンポジウム: 日本の化学・中国の化学] 松尾重樹「大河内正敏と大陸科学院」第 32 号 (1985 年) : 154
 [シンポジウム: 日本の化学・中国の化学] 林良重「舎密開宗 (主に宇田川榕菴) の実験の再現とその教育的活用」第 32 号 (1985 年) : 155
 [シンポジウム: 日本の化学・中国の化学] 島尾永康「中国化学史研究の展望」第 32 号 (1985 年) : 156
 [シンポジウム: 日本の化学・中国の化学] 大沢真澄・塚原東吾「Ph. F. フォン・シーボルトの日本産鉱物・岩石および和漢薬などの調査」第 32 号 (1985 年) : 157
 [シンポジウム: 日本の化学・中国の化学] 木下圭三「江戸時代の製糖についての一考察」第 32 号 (1985 年) : 158
 [シンポジウム: 日本の化学・中国の化学] 千野光芳「天学初函『西学凡』そして英文付『格物入門』」第 32 号 (1985 年) : 159
 [一般講演] 和田武「Harries と Pickles のゴム構造論争」第 32 号 (1985 年) : 160
 [一般講演] 永松一夫「ツェッペリン飛行船の化学史的側面」第 32 号 (1985 年) : 161
 [一般講演] 斎藤茂樹「アーチボールド・コ克蘭の農業化学」第 32 号 (1985 年) : 162
 [一般講演] 佐藤正平「化学革命に対するニュートン気体観の影響についての一考察」第 32 号 (1985 年) : 163
 [一般講演] 安江政一「エイキマンかエイクマンか, 外国人名のカナがきについて」第 32 号 (1985 年) : 164
 [一般講演] 竹林松二「ヴァルデン反転—その発見と解明の経過—」第 32 号 (1985 年) : 165

1985 年第 4 号 (第 33 号) (1985 年 12 月)

- [論文] 立花太郎「夏目漱石の『文学論』のなかの科学観について」第 33 号 (1985 年) : 167-177

- [解説] 矢部一郎「宇田川榕菴と生化学」第33号(1985年): 178-185
[討論] 唐木田健一「我々にとってアヴォガドロとは何か?」第33号(1985年): 186-192
[技術資料] 立入明「島津製作所創業記念資料館—我国の理化学器械製作事始—」第33号(1985年): 193-200
[広場] 村上嘉一「年・総会に参加して」第33号(1985年): 201
[広場] 阪上正信「第8回国際化学教育会議と化学史」第33号(1985年): 202-204
[広場] 藤井清久「化学史センター(CHOC)訪問記」第33号(1985年): 205-207
[紹介] 古川安「『ケクレの夢』論争」第33号(1985年): 208
[紹介] 大野誠「Robert P. Multhauf, The History of Chemical Technology: An Annotated Bibliography」第33号(1985年): 209
「新入会員名簿」第33号(1985年): 204
[会報] 第33号(1985年): 210-211
「化学史研究1985年総目次」第33号(1985年): 213

1986年第1号(第34号)(1986年3月)

- 柏木肇「化学と化学史」第34号(1986年): 1-2
潘吉星(島尾永康訳)「古代中国の化学の概説」第34号(1986年): 3-8
楊根述(島尾永康訳)「中国の近代化学の先駆者徐寿の生涯と貢献」第34号(1986年): 9-14
[寄書] 竹林松二「ヴァルデン反転—その発見と解明の経過—」第34号(1986年): 15-20
[解説] 畑晋「飯盛里安先生の業績とその解説」第34号(1986年): 21-31
[資料] 内田高峰・沖久也・目不二雄・伊佐公男・中田隆二「グリフィスの化学講義ノート」第34号(1986年): 32-42
[技術資料] 永山升三「脂肪酸工業創成期のオートクレープ」第34号(1986年): 43-45
[紹介] 中原勝儼「日本化学会編, 化学の原典第II期1, 『錯体化学』」第34号(1986年): 46-47
「新入会員名簿」第34号(1986年): 8

1986年第2号(第35号)(1986年6月)

- [論文] 鎌谷親善「明治初期における陶磁器業の近代化政策」第35号(1986年): 49-71
[総説] 島尾永康「中国化学史研究の展望」第35号(1986年): 72-81
[技術資料] 阿部芳郎「日本の油しめ具とろうしめ具」第35号(1986年): 82-87
[紹介] 小塩玄也「大学教育研究会編, 古畑威著『化学—物質と人間の歴史—』」第35号(1986年): 87-88
[資料] 古川安「海外学会短信」第35号(1986年): 89-91
[資料] 「化学史および周辺分野の新刊書(1985)」第35号(1986年): 91-93
「日本学術会議だより」第35号(1986年): 94-95
「新入会員名簿」第35号(1986年): 71

1986年第3号(第36号)(1986年9月)

- [論文] 吉本秀之「ロバート・ボイルの質の理論—一次性質・二次性質の区別の分析—」第36号(1986年): 97-113
[広場] 林良重「『舍密開宗』(主に宇田川榕菴)の実験を現代風にアレンジした演示実験」第36号(1986年): 114-120
[広場] 山口達明「アメリカ化学会・化学史部門の年会プログラムをながめて」第36号(1986年): 121-122
[広場] 廣田鋼蔵「チェルノブイリ原子炉事故に思う」第36号(1986年): 123-124
[紹介] 島尾永康「楊根編『徐寿と中国近代化学史』」第36号(1986年): 124-126
「1986年度化学史研究発表会プログラム」第36号(1986年): 127-128

- [特別講演] 劉学銘「現代中国における科学史研究方法の三動向」第36号(1986年): 129-130
- [シンポジウム:なぜ化学だったのか] 吉本秀之「17世紀の化学の伝統」第36号(1986年): 131
- [シンポジウム:なぜ化学だったのか] 大野誠「産業革命のイギリスにおける化学に対する社会的関心—Society of Artsの活動に寄せて—」第36号(1986年): 132
- [シンポジウム:なぜ化学だったのか] 梅田淳「19世紀のイギリス化学者の位相—伝記的分析—」第36号(1986年): 133
- [シンポジウム:なぜ化学だったのか] 鎌谷親善「第1次大戦と科学技術動員—化学工業調査会を中心として—」第36号(1986年): 134
- [一般講演] 三輪宗弘「海軍燃料廠の取り組んだメタノール工業化とその展開」第36号(1986年): 135
- [一般講演] 木下圭三・田中和男「天保以後の日本の製糖法について」第36号(1986年): 136
- [一般講演] 千野光芳「『舍密開宗』漢字音訳化学名と中野柳圃遺教『西音発微』」第36号(1986年): 137
- [一般講演] 山口達明・劉学銘「中国当代量子化学者唐敖慶教授の研究業績」第36号(1986年): 138
- [一般講演] 小森田精子「インド古代化学における硫化水銀について」第36号(1986年): 139
- [一般講演] 日吉芳朗・中山政紀「赤血塩とZeise塩の発見をめぐって」第36号(1986年): 140
- [一般講演] 竹林松二「フェーリング液とトレンス試薬」第36号(1986年): 141
- [一般講演] 鶴田治之「カルルスルーエ会議について—ヴェルツによる報告書の紹介—」第36号(1986年): 142
- [一般講演] 阪上正信・天野良平「Becquerel一家と放射能発見90年」第36号(1986年): 143

1986年第4号(第37号)(1986年12月)

- [論文] 廣田鋼蔵「明治期の日本国民の化学観—桜井錠二を巡る東京化学会の諸事件—」第37号(1986年): 145-158
- [論文] 安江政一「化学者長井長義の業績再吟味—伝説的人物評を批判する—」第37号(1986年): 159-168
- [寄書] 田中穆「H. Staudinger 一門によるポリオキシメチレンの研究について—高分子化学開拓史の一断面—」第37号(1986年): 169-185
- [広場] 大野誠「化学史研究第2回「春の学校」の報告」第37号(1986年): 186-189
- [広場] 芝哲夫「黎明期における日本の化学」第37号(1986年): 190-191
- [広場] 野中靖臣「年・総会に参加して」第37号(1986年): 192
- [会報] 第37号(1986年): 193-195
- [雑報] T. T. 「化学の論文誌が歴史ノート欄を新設」第37号(1986年): 191
- [雑報] 島原健三「講座「化学史・常識のウソ」を化学教育誌に連載」第37号(1986年): 191

1987年第1号(第38号)(1987年3月)

- [-巻頭言-] 柏木肇「化学史、ディシプリンへの道」第38号(1987年): 1-3
- [論文] O. T. ベンフィー(田坂興亜訳)「現代科学への東洋の貢献—科学機器の発明と明治期の科学者をめぐって—」第38号(1987年): 4-15
- [論文] 和田武「Harries-Pickles ゴム構造論争(I)」第38号(1987年): 16-28
- [論文] 菅原国香「「化学」という用語の本邦での出現・使用に関する一考察」第38号(1987年): 29-40
- [広場] 永松一夫「化学史サロン「夏の集い'86」の記—きわめて個人的な印象メモから—」第38号(1987年): 40, 41-43
- [紹介] 山口達明・劉学銘「共鳴理論批判問題の再認識」第38号(1987年): 44-47
- [会報] 第38号(1987年): 40

1987年第2号(第39号)(1987年6月)

- [論文] 和田武「Harries-Pickles ゴム構造論争 (II)」第39号(1987年): 49-60
 [寄書] 立花太郎「物理化学のこの百年(1887~1987)—論文誌の変遷からの考察—」第39号(1987年): 61-72
 [寄書] 竹林松二「フェーリング液とトレンス試薬」第39号(1987年): 73-76
 [解説] 川井雄「常磁性緩和—核磁気共鳴への発展—」第39号(1987年): 77-85
 [紹介] 島尾永康「中国煉丹術の冶金学的化学的成果—文献考証と模擬実験による研究—」第39号(1987年): 86-89
 [紹介] 島原健三「デービット・アボット編・竹内敬人監訳『世界科学者事典2 化学者』」第39号(1987年): 90-92
 [資料]「化学史および周辺分野の新刊書(1986)」第39号(1987年): 92-94
 「新入会員名簿」第39号(1987年): 95

1987年第3号(第40号)(1987年8月)

- [論文] 鎌谷親善「京都市陶磁器試験場—明治29年~大正9年—(I)」第40号(1987年): 97-115
 [紹介] 中辻慎一「R. Huisgen, "Adolf von Baeyers wissenschaftliches Werk- ein Vermächtnis"」第40号(1987年): 116-123
 「新入会員名簿」第40号(1987年): 123
 「1987年度化学史研究発表会プログラム」第40号(1987年): 124-125
 [特別講演] 難波恒雄「本草のなかの化学」第40号(1987年): 126-127
 [特別講演] 廖正衡(金路訳)「化学方法の発展を論ず」第40号(1987年): 128-129
 [シンポジウム: 化学史研究と化学教育] 戸田一郎「高校理科から見た『舎密開宗』の実験」第40号(1987年): 130
 [シンポジウム: 化学史研究と化学教育] 日吉芳朗「化学史上の諸実験と化学教育」第40号(1987年): 131
 [シンポジウム: 化学史研究と化学教育] 高橋哲郎「理科教育において科学史の活用を妨げているものは何か」第40号(1987年): 132
 [シンポジウム: 化学史研究と化学教育] 藤井清久「非国教徒学校(Dissenting Academy)における化学教育」第40号(1987年): 133
 [シンポジウム: 化学史研究と化学教育] 柏木肇「19世紀初期イギリスの科学教育運動—メカニクス・インスティテュートに関連して—」第40号(1987年): 134
 [シンポジウム: 化学史研究と化学教育] 河原林泰雄「19世紀アメリカの化学教育に対するドイツの影響」第40号(1987年): 135
 [一般講演] 石田純郎, ハルム・ボイケルス「19世紀のオランダの化学・薬学の学統一幕末の蘭書・オランダ医の学統を探る—」第40号(1987年): 136
 [一般講演] 千野光芳「蘭文『格致問答』6冊(図1冊を含む)と本屋の責任」第40号(1987年): 137
 [一般講演] 赤平清蔵「ロバート・ボイル『懐疑的な化学者』の第2版(1680年)について」第40号(1987年): 138
 [一般講演] 川崎勝「ピーター・ショウとシュタル化学のイギリスへの導入」第40号(1987年): 139
 [一般講演] 大野誠「職業としてのChymist—18世紀中葉のロンドンにおいて—」第40号(1987年): 140
 [一般講演] 本净高治「宇田川榕庵と温泉化学」第40号(1987年): 141
 [一般講演] 木下圭三・田中和男「元京都帝国大学理工科大学教授織田顕次郎について」第40号(1987年): 142
 [一般講演] 竹林松二「アセチレンの水和反応—その発見と解明の検討—」第40号(1987年): 143
 [一般講演] 古川安「Staudingerの科学活動と政治的葛藤」第40号(1987年): 144
 [一般講演] 藤崎千代子「分子軌道の実在の認識について(1925~1926)」第40号(1987年): 145
 「会員名簿(1987年8月現在)(14頁)」別冊挿入

1987年第4号(第41号)(1987年12月)

- [論文] 鎌谷親善「京都市陶磁器試験場—明治29年～大正9年—(II)」第41号(1987年): 147-163
 [論文] 三輪宗弘「海軍燃料廠の石炭液化研究—戦前日本の技術開発—」第41号(1987年): 164-175
 [広場] 廣田綱蔵「三角野郎の弁—科学史研究の参考に—」第41号(1987年): 176-178
 [広場] 菅原国香「中国を訪れて」第41号(1987年): 179-182
 [広場] 藤井清久「化学史学会10周年記念出版: 原典集『原子論・分子論の原典』(全3巻)について」第41号(1987年): 183-186
 [広場] 大野誠「化学史研究第3回「春の学校」の報告」第41号(1987年): 186-187
 [紹介] 立花太郎「日本化学会編 化学の原典 第II期4『光化学』」第41号(1987年): 188
 [紹介] 野田四郎「ジョン・ドルトン著, 田中豊助・原田紀子・相悠紀江共訳『ドルトン 化学の新体系』(古典化学シリーズ7)」第41号(1987年): 189-191
 [会報] 第41号(1987年): 192-194
 「新入会員名簿」第41号(1987年) 巻末挿入2頁
 「化学史研究1987年総目次」第41号(1987年)裏表紙うら

1988年第1号(第42号)(1988年3月)

- 高橋健「日本におけるバイオテクノロジーの源流」第42号(1988年): 1-7,12
 [寄書] 竹林松二「アセチレンの水和反応—その発見と解明の経過—」第42号(1988年): 8-12
 [教育シリーズ] 日吉芳朗・中山政紀「酒石酸とシュウ酸の単離実験—その歴史的实验から—」第42号(1988年): 13-20
 [解説] 丹羽淳「分子軌道法への大型コンピュータの導入と有機化学方法論の新しい展開」第42号(1988年): 21-28
 [特集ラヴワジェ研究入門] 大野誠・古川安・柏木肇「特集ラヴワジェ研究入門をはじめるにあたって」第42号(1988年): 28-29
 [特集ラヴワジェ研究入門第1回] 大野誠「伝統的なラヴワジェ像とその問題点」第42号(1988年): 30-42
 [広場] 川崎勝「錬金術をめぐる偶想「化学史サロン—夏の集い'87」に参加して」第42号(1988年): 43-46
 [広場] 野中靖臣「年・総会に参加して」第42号(1988年): 46-47
 [紹介] 古川安「CHOCの高分子化学史資料」第42号(1988年): 47-49
 [紹介] 小塩玄也「渡辺啓・竹内敬人『読み切り化学史』」第42号(1988年): 49-51
 [雑報] Y. F.「海外学会短信」第42号(1988年): 51
 「『化学史研究』投稿規程(1985年12月7日改訂)」第42号(1988年):裏表紙うら

1988年第2号(第43号)(1988年6月)

- [寄書] 木下圭三・田中和男「江戸時代および明治初期の砂糖の製造について(第1報)—気候の重要性と肥料の使用法について—」第43号(1988年): 53-62
 [寄書] 本浄高治「化学分析において用いられた天然有機試薬の起源—定性分析試薬, 酸・塩基指示薬, 酸化・還元指示薬について—」第43号(1988年): 63-66
 [特集ラヴワジェ研究入門第2回] 大野誠「文献案内(1963～1985)」第43号(1988年): 67-73
 [特集ラヴワジェ研究入門第3回] 杉山滋郎「ラヴワジェとラプラスの共同研究」第43号(1988年): 74-85
 [広場] 居谷滋郎「欧州化学史研修8週間の旅」第43号(1988年): 86-88
 [広場] 川崎勝「ストックホルム国際青年科学セミナーに参加して—ノーベル賞管見—」第43号(1988年): 89-92,99
 [紹介] 廖正衡(島原健三訳)「中国における化学哲学研究の動向」第43号(1988年): 93-96

[資料]「化学史および周辺分野の新刊書(1987)」第43号(1988年):97-99

[会報]第43号(1988年):85

1988年第3号(第44号)(1988年9月)

[論文]金森修「分析への認識論的障害」第44号(1988年):101-111,118

[教育シリーズ]日吉芳朗・中辻慎一「赤血塩の発見をめぐる」第44号(1988年):112-118

[特集ラヴワジェ研究入門第4回]川崎勝「シュタル化学の原像—18世紀化学の一つの出発点—」第44号(1988年):119-134

「新入会員名簿」第44号(1988年):134

「1988年度化学史研究発表会プログラム」第44号(1988年):135-136

[特別講演]井口洋夫「分子科学研究の歩み」第44号(1988年):137

[シンポジウム:近代科学と原子論・分子論]古川安「ボスコヴィチの原子論」第44号(1988年):138

[シンポジウム:近代科学と原子論・分子論]山口達明「結晶と物質の基本的構造に関するアユイの理論」第44号(1988年):139

[シンポジウム:近代科学と原子論・分子論]井山弘幸「19世紀前半の原子量計算法について」第44号(1988年):140

[シンポジウム:近代科学と原子論・分子論]大野誠「分子概念はいつ,どのようにして形成されたのか」第44号(1988年):141

[シンポジウム:近代科学と原子論・分子論]川合智・川合章子「形成期の分子論・原子論は化学工業に寄与したか—工業装置及びプロセス面からの考察—」第44号(1988年):142

[一般講演]菅原国香「工部大学校における「応用化学科」・「化学科」の名称に関する一考察」第44号(1988年):143

[一般講演]藤崎千代子「T. Heurlingerの研究日記(1915~1919)について」第44号(1988年):144

[一般講演]斎藤茂樹・松尾幸季「19世紀第四・4半期の西欧における化学研究の動向(I)—フランスを中心として—」第44号(1988年):145

[一般講演]千野光芳「『蘭葉鏡原』と『和蘭葉鏡』—文政三年,実務派への翻訳派の攻撃—」第44号(1988年):146

[一般講演]鎌谷親善「幕末期著作にみる酸・アルカリ工業について」第44号(1988年):147

[一般講演]安江政一「『長井長義伝』における業績表の検討」第44号(1988年):148

[一般講演]本浄高治「ノーベル賞と基礎化学(1901~1987)—分析化学につながるの深い業績について—」第44号(1988年):149

[一般講演]大作勝「『メンデレーエフからエルレンマイヤーへの手紙』について」第44号(1988年):150

[一般講演]阪上正信「Noosphere 考—V. I. Vernadsky 生誕125年と関連して—」第44号(1988年):151

[一般講演]竹林松二「シス・トランスの命名百周年に当たって」第44号(1988年):152

「化学史学会の沿革と現況(1988年9月現在)」第44号(1988年):153

1988年第4号(第45号)(1988年12月)

[寄書]立花太郎「原子説論争に関する Rucker 教授の講演(1901)—「夏目漱石の『文学論』のなかの科学観」補記—」第45号(1988年):155-162

[総説]藤井清久「ドールトン原子論の形成過程—「ドールトンの謎」をめぐる—」第45号(1988年):163-184

[討論]唐木田健一「科学史におけるのりこえの視点」第45号(1988年):185-190

[広場]大野誠「化学史研究第4回「春の学校」の報告」第45号(1988年):191-195

[紹介]島尾永康「『化学』の初出についての新説」第45号(1988年):196-197

[紹介]菅原国香「板倉聖宣『模倣の時代(上・下)』」第45号(1988年):198-200

[会報]第45号(1988年):200-201

「新入会員名簿」第45号(1988年): 162

「化学史研究総目次 第1号(1974年3月)～1988年4号(通巻第45号)」第45号(1988年)に別冊挿入

第16巻(1989)年

[巻頭言] 柏木肇「化学史と化学教育」第16巻(1989): 1-3

[寄書] 竹林松二「シス・トランスの命名百周年に当たって」第16巻(1989): 4-10

[寄書] 唐木田健一「定量的科学におけるあいまいさについての考察」第16巻(1989): 49-54

[寄書] 竹林松二「酸アジドのクルティウス転位—その発見と解明の経過—」第16巻(1989): 149-153

[教育シリーズ] 日吉芳朗「発見時の方法による Magnus 塩と Zeise 塩の合成—教材化と Zeise 塩の発見における疑問点—」第16巻(1989): 97-103

[教育シリーズ] 柴田和子「化学における定量化問題—ラヴワジエの定量分析の手法とは—」第16巻(1989): 154-172

[解説] 川井雄「古くて新しき問題—ガラスの構造について—」第16巻(1989): 11-19

[解説] 藤井清久「非国教徒学校における化学教育」第16巻(1989): 55-71

[討論] 山口達明「分子概念の形成に関するもう一つの論考」第16巻(1989): 84-86

[討論] 大野誠「分子概念の成立に関する拙考への批判に答えてI」第16巻(1989): 104-110

「1989年度化学史研究発表会プログラム」第16巻(1989): 129

[特集ラヴワジエ研究入門第5回] 島原健三「ラヴワジエとカロリック説」第16巻(1989): 20-29

[特集ラヴワジエ研究入門第6回] 鶴田治之・大野誠「ラヴワジエの酸理論」第16巻(1989): 72-83

[特集ラヴワジエ研究入門第7回] 内田正夫「ラヴワジエの元素表(単一物質表)」第16巻(1989): 173-183

[広場] 日吉芳朗・中山政紀「古典的な錯塩の教材化—合成実験を中心として—」第16巻(1989): 30-34

[広場] 飯島孝「夏のサロン報告記」第16巻(1989): 35-37

[広場] 井山弘幸「88年度年會に出席して」第16巻(1989): 87

[広場] 古川安「第18回国際科学史會議に出席して」第16巻(1989): 111

[広場] 川崎勝「化学の社会的次元—第5回化学史「春の学校」に参加して—」第16巻(1989): 112-119

[広場] 亀山哲也「化学史—夏のサロン('89)—の報告」第16巻(1989): 184-186

[紹介] 大作勝「H. G. Hummel, フルター・レッベの遺産」第16巻(1989): 38-45

[紹介] 大野誠「石田純郎『蘭学の背景』・『江戸のオランダ医』」第16巻(1989): 46-47

[紹介] 亀山哲也「鎌谷親善『技術大國百年の計』」第16巻(1989): 88-90

[紹介] 立花太郎「日本化学会編『化学史・常識を見直す。教科書の誤りはなぜ生まれたのか?』」第16巻(1989): 90-92

[紹介] 島尾永康「化学史学会編『原子論・分子論の原典』」第16巻(1989): 92-94

[紹介] 藤井清久「『ドルトン』(科学の名著)」第16巻(1989): 120-121

[紹介] 大野誠「D. M. ナイト著(藤井清久訳)『化学の超経験的部分』」第16巻(1989): 121-123

[紹介] 安江政一「宗田一ほか著『医学近代化と来日外国人』」第16巻(1989): 123-125

[紹介] 大野誠「新着科学史書から」第16巻(1989): 125-126

[紹介] 大野誠「『科学の社会史』の現段階—化学史学会を結節点として—」第16巻(1989): 187-195

[資料] 「化学史および周辺分野の新刊書(1988)」第16巻(1989): 119,127-128

[雑報] 森正由「化学史研究資料の海外からの入手法」第16巻(1989): 3

[雑報] 「遼寧師範大学自然弁証法自然科学史研究所設立」第16巻(1989): 110

編集委員会「『講演要旨』の書き方についての要望」第16巻(1989): 19

「新入会員紹介」第16巻(1989): 10,186

[会報] 第16巻(1989): 195, 第1号裏表紙うら

- [1989年度化学史研究発表会プログラム] 第16巻 (1989): 129-130
- [特別講演] 渡辺正雄「近代科学とキリスト教」第16巻 (1989): 131
- [特別講演] 川島昭夫「イギリス重商主義と植物園」第16巻 (1989): 132
- [シンポジウム:アレニウスをめぐって] 小塩玄也「アレニウスと電離説—その成果と限界—」第16巻 (1989): 133
- [シンポジウム:アレニウスをめぐって] 山口達明「反応速度学発展史上におけるアレニウスの占める位置」第16巻 (1989): 134
- [シンポジウム:アレニウスをめぐって] 横山輝雄「アレニウスと生命宇宙起源説」第16巻 (1989): 135
- [シンポジウム:アレニウスをめぐって] 成定薫「アレニウスとノーベル賞」第16巻 (1989): 136
- [シンポジウム:ラヴワジエ『化学原論』200年] 川崎勝「フランス・シュタール主義とラヴワジエ」第16巻 (1989): 137
- [シンポジウム:ラヴワジエ『化学原論』200年] 吉田晃「『化学原論』成立の過程」第16巻 (1989): 138
- [シンポジウム:ラヴワジエ『化学原論』200年] 柴田和子「伝統的ラヴワジエ像に残された疑問点に答えて」第16巻 (1989): 139
- [シンポジウム:ラヴワジエ『化学原論』200年] 松尾幸季「ラヴワジエ, カーワン, ドゥ・ラ・メトリ」第16巻 (1989): 140
- [シンポジウム:ラヴワジエ『化学原論』200年] 大野誠「『二重革命』(『化学革命』とフランス革命)への対抗」第16巻 (1989): 141
- [一般講演] 日吉芳朗「G. W. Scheele にかかわる7つの疑問」第16巻 (1989): 142
- [一般講演] 川合智「初期液体論の歴史的役割—1900~1930年代前半における研究の位置づけ—」第16巻 (1989): 143
- [一般講演] 竹林松二「酸アジドのクルチウス転位—その発見と解明の経過—」第16巻 (1989): 144
- [一般講演] 松尾幸季「化学者とエネルギー保存則—1840年代前半の不可秤量流体の問題との関連において—」第16巻 (1989): 145
- [一般講演] 安江政一「朝比奈泰彦先生の有機化学的業績とその意義」第16巻 (1989): 146
- [一般講演] 鎌谷親善「日本陶磁器業における近代化と技術」第16巻 (1989): 147
- 「化学史学会の沿革と現状 (1989年1月現在)」第16巻 (1989)第1号裏表紙
- 「化学史研究第16巻 (1989年) 総目次」第16巻 (1989)第4号裏表紙うら

第17巻 (1990) 年

- [-巻頭言-50号発刊を迎えて] 立花太郎「化学者による化学者のための化学史」第17巻 (1990): 1-2
- [-巻頭言-50号発刊を迎えて] 柏木肇「50号までの足跡」第17巻 (1990): 3-7
- [研究回顧] 宗像英二「研究—特に探究について (体験に基づく見解)」第17巻 (1990): 107-113
- [論文] 岡本達明「合成化学労働の初期形態について」第17巻 (1990): 8-29
- [論文] 飯島孝「わが国のアセチレン法アセトアルデヒド製造技術の発展 (その1・2・3)」第17巻 (1990): 61-79, 114-125, 151-172
- [教育シリーズ] 中原勝儼「酸と塩基」第17巻 (1990): 30-49
- [広場] 田中浩朗「1989年総会に参加して」第17巻 (1990): 50
- [広場] 川島慶子「『フランス』便り—国立植物園より」第17巻 (1990): 51-52
- [広場] 廣田綱蔵「ボーア原子説を巡っての仮想対話」第17巻 (1990): 80-82
- [広場] 田中浩朗「第6回化学史「春の学校」に参加して」第17巻 (1990): 83-90
- [広場] 古川安「国際シンポジウム「現代社会における化学」について」第17巻 (1990): 126-127
- [広場] 吉本秀之「化学史談話会第1回の報告」第17巻 (1990): 128
- [広場] 大野誠「ロンドン図書館訪問記—手稿史料の探索」第17巻 (1990): 173-180

- [広場] 亀山哲也「化学史一夏のサロン（'90）一の報告」第17巻（1990）：181-182
- [紹介] 林良重「笹英之著『百万人の化学史—「原子」神話から実体へ—』」第17巻（1990）：53-54
- [紹介] 芝哲夫「鎌谷親善著『日本近代化学工業の成立』」第17巻（1990）：55-56
- [紹介] 藤井清久「廣田綱蔵著『満鉄の終焉とその後—ある中央試験所員の報告』」第17巻（1990）：91
- [紹介] 大野誠「E. P. トムスン他（近藤和彦他編訳）『歴史家たち』」第17巻（1990）：183
- [紹介] 大野誠「R. P. マルソーフ（市場泰男訳）『塩の世界史』」第17巻（1990）：184-186
- [資料] 吉本秀之「最近のボイル研究：文献リスト」第17巻（1990）：56-59
- [資料] 「化学史および周辺分野の新刊書（1989）」第17巻（1990）：92-94
- [資料] 吉本秀之「ボイル全集の引用索引」第17巻（1990）：129-141
- [会報] 第17巻（1990）：82, 187-191
- [雑報] 島原健三「『日中における科学技術発展の比較』シンポジウム予告」第17巻（1990）：52
- [雑報] Y. F. 「海外学界短信 1990年夏—1991年春」第17巻（1990）：102
- 「第1回化学史シンポジウムプログラム」第17巻（1990）：95
- [化学史シンポジウム：特別講演] 宗像英二「研究—特に探究について」第17巻（1990）：96-97
- [化学史シンポジウム：ノーベル賞の成立と化学] 成定薫「創設期のノーベル財団と化学賞」第17巻（1990）：98
- [化学史シンポジウム：ノーベル賞の成立と化学] 川崎勝「ノーベル賞選考過程をめぐって」第17巻（1990）：99
- [化学史シンポジウム：ノーベル賞の成立と化学] 鬼頭秀一「鈴木梅太郎とノーベル賞」第17巻（1990）：100
- [化学史シンポジウム：日本近代化学工業の成立と特徴] 津田寛「温室効果の動向」第17巻（1990）：101-102
- [化学史シンポジウム：日本近代化学工業の成立と特徴] 飯島孝「わが国のアセトアルデヒド製造技術の発展—水俣病と関連して—」第17巻（1990）：103
- [化学史シンポジウム：日本近代化学工業の成立と特徴] 神保元二「わが国における化学工学の発展—化学工業の近代化の一側面—」第17巻（1990）：104
- [化学史シンポジウム：日本近代化学工業の成立と特徴] 鎌谷親善「日本近代化学工業の成立期における特徴」第17巻（1990）：105
- 「1990年化学史研究発表会プログラム」第17巻（1990）：142-143
- [ベンゼン祭100年記念特別講演] 原田馨「ヨーロッパ化学巡礼—ケキュレとその周辺をたずねて」第17巻（1990）：144
- [一般講演] 藤田英夫「京都舎密局の表札をめぐる化学史的調査過程」第17巻（1990）：145
- [一般講演] 阪上正信「川本幸民『化学新書』の源流 J. A. Stöckhardt」第17巻（1990）：146
- [一般講演] 千野光芳「漢学者と西欧科学の関係—その行為、反発、偽態—」第17巻（1990）：147
- [一般講演] 竹林松二「ゴイターの「二塩化炭素」—ジクロロカルベンの化学の始まりと進展—」第17巻（1990）：148
- [一般講演] 赤平清蔵「ロバート・ボイルの「空気」研究」第17巻（1990）：149
- 「新入会員紹介」第17巻（1990）：141, 191
- 「化学史研究第17巻（1990年）総目次」第17巻（1990）第4号裏表紙うら

第18巻（1991年）

- [巻頭言] 芝哲夫「新会長に就任して」第18巻（1991）：1-3
- [第1回化学史シンポジウム特別講演] 福井謙一「わが研究を顧みて」第18巻（1991）：51-63
- [論文] 鎌谷親善「明治期日本における化学工業—人造肥料製造業—（その1）」第18巻（1991）：115-136
- [論文] 杉山滋郎「ジョン・ティンダルの粒子論的物質観と化学への寄与」第18巻（1991）：179-192
- [寄書] 竹林松二「ゴイターの「二塩化炭素」—ジクロロカルベンの化学の始まりと進展—」第18巻（1991）：4-10
- [寄書] 廣田綱蔵・大岩正芳「積極と消極—蘭学書に語源を尋ねて—」第18巻（1991）：193-196
- [総説] 島尾永康「下村孝太郎—その先駆的業績と人物像—」第18巻（1991）：197-210

- [教育シリーズ] 日吉芳朗「シェーレにかかわる7つの疑問」第18巻(1991): 11-18
- [特集ラヴウジェ研究入門第8回] 藤井清久「『化学革命論』の諸位相」第18巻(1991): 64-80
- [特集ラヴウジェ研究入門第9回] 川崎勝「文献案内 Part 2 (1985-1990)ーラヴウジェ『化学原論』200周年祭を終えてー」第18巻(1991): 137-143
- [特集ラヴウジェ研究入門第10回] 金森修「化学認識の言語束縛性」第18巻(1991): 211-220
- [特集技術史シリーズ第1回] 寺田裕「高圧法ポリエチレンーその発見と開発の歴史ー」第18巻(1991): 221-231
- [広場] 田中泰夫「岡田家武さんの思い出」第18巻(1991): 19-20
- [広場] 野中靖臣「1990年度化学史研究発表会に参加して」第18巻(1991): 21-22
- [広場] 吉本秀之「1991年度化学史「春の学校」に参加して」第18巻(1991): 81-83
- [広場] 山口達明「新企画・化学史シンポジウムについて」第18巻(1991): 84
- [広場] 柏木肇「化学教育フォーラム常設の提案」第18巻(1991): 144-150
- [広場] 田中泰夫「櫻井錠二先生から聞いたことなど」第18巻(1991): 232-234
- [広場] 亀山哲也・飯島孝「化学史ー夏のサロン('91)ーの報告」第18巻(1991): 235-237
- [資料] 佐佐木行美・立花太郎「東京帝国大学理学部旧制化学科における卒業研究発表会のプログラム(1916-1953)I・II」第18巻(1991): 23-32, 85-91
- [資料] 「化学史および周辺分野の新刊書(1990)」第18巻(1991): 164-166, 246-247
- [紹介] 吉本秀之「R. ホーイカース(藤井清久訳)『宗教と近代科学の勃興』」第18巻(1991): 33-36
- [紹介] 小川真里子「D. E. アレン(阿部治 訳)『ナチュラリストの誕生』」第18巻(1991): 37-40
- [紹介] 藤田英夫「紫藤貞昭・矢部一郎編著『近代日本その科学と技術ー原典への招待ー』」第18巻(1991): 41-42
- [紹介] 大野誠「18世紀イギリス科学のプロソグラフィに関する2著」第18巻(1991): 43-45
- [紹介] 島尾永康「曹元宇(木田茂夫, 山崎昶訳)『中国化学史話』」第18巻(1991): 92-94
- [紹介] 金森修「パオロ・ロッシ(伊藤和行訳)『哲学者と機械』科学史研究叢書1」第18巻(1991): 95-98
- [紹介] 板垣良一「横山輝雄, 井山弘幸, 橋本毅彦編著『科学における論争・発見ー科学革命の諸相ー』」第18巻(1991): 151-152
- [紹介] 鎌谷親善「Barbara Malony, Technology and Investment: The Prewar Japanese Chemical Industry」第18巻(1991): 153-156
- [紹介] 小川真里子「Joel Mokyr, The Lever of Riches: Technological Creativity and Economic Progress」第18巻(1991): 157-161
- [紹介] 田中浩朗「伊東俊太郎・村上陽一郎共編『講座科学史2 社会から読む科学史』」第18巻(1991): 238-239
- [紹介] 佐藤道洋「丸石照機著『原典から学ぶ化学の本質』」第18巻(1991): 240-241
- [紹介] 杉山滋郎「小野周・槌田敦・室田武・八木江里編『熱学第二法則の展開』」第18巻(1991): 242-243
- [紹介] 大野誠・川崎勝「新着科学史書から」第18巻(1991): 46-47, 99, 162-163, 244-245
- [雑報] 「ニュース」第18巻(1991): 42, 48-49, 248-249
- [第2回化学史シンポジウムプログラム] 第18巻(1991): 100
- [第2回化学史シンポジウム特別講演] 高木徳二「触媒学会の歴史ー原点から現在までの歩みー」第18巻(1991): 101-102
- [第2回化学史シンポジウム特別講演] 廣田鋼蔵「触媒研究回顧ー1960年までー」第18巻(1991): 103
- [第2回化学史シンポジウム] 延与三知夫「触媒化学研究センターの歴史」第18巻(1991): 104-105
- [第2回化学史シンポジウム] 山口達明「ラングミュアによる水の熱分解ー温度勾配系における表面反応の先駆的研究ー」第18巻(1991): 106
- [第2回化学史シンポジウム] 市原昭一「自動車触媒の歴史」第18巻(1991): 107-108
- [第2回化学史シンポジウム] 高宮信夫「小林久平の酸性白土の発見」第18巻(1991): 109-110

- [第2回化学史シンポジウム] 八嶋建明「ゼオライト触媒 30年」第18巻 (1991) : 111
- [第2回化学史シンポジウム] 山崎一雄「柴田桂太・柴田雄次の均一系錯体触媒の発見」第18巻 (1991) : 112
- [第2回化学史シンポジウム] 尾崎萃「触媒の発見と発展」第18巻 (1991) : 113
- [1991年度化学史研究発表会プログラム] 第18巻 (1991) : 167-168
- [シンポジウム：日本化学の伝統—大学の役割—] 佐佐木行美・立花太郎「東大・理・化学科の卒業研究題目から見た大正・昭和前期の日本の化学」第18巻 (1991) : 169
- [シンポジウム：日本化学の伝統—大学の役割—] 藤田英夫「京都大学の創設と化学の伝統・役割—東京理学社と我等の化学社を中心として」第18巻 (1991) : 170
- [シンポジウム：日本化学の伝統—大学の役割—] 鎌谷親善「大正期における大学附置研究所—京大化学研究所の場合—」第18巻 (1991) : 171
- [一般講演] 高橋求「江戸時代末期における細倉鉱山「生吹」復元実験について」第18巻 (1991) : 172
- [一般講演] 日吉芳朗「貝紫と化学教育」第18巻 (1991) : 173
- [一般講演] 吉本秀之「若きボイルの化学研究」第18巻 (1991) : 174
- [一般講演] 川崎勝「ヘイルズ研究の新視点」第18巻 (1991) : 175
- [一般講演] 藤崎千代子「Lundの原子物理学会について」第18巻 (1991) : 176
- [一般講演] 吉野諭吉「元素の発見—確認と単離」第18巻 (1991) : 177
- [新入会員] 第18巻 (1991) : 94, 172, 243
- [会報] 第18巻 (1991) : 40, 105
- 『『化学史研究』投稿規程 (1991年3月23日改訂)』第18巻 (1991) 第1号表表紙うら
- 『化学史学会—沿革と現況— (1991年7月現在)』第18巻 (1991) 第2号裏表紙うら

第19巻 (1992年)

- [論文] 立花太郎「液晶研究の初期とその背景および現代化学への寄与」第19巻 (1992) : 1-13
- [論文] 鎌谷親善「明治期日本における化学工業—人造肥料製造業—(その2)・(その3)」第19巻 (1992) : 14-35, 73-104
- [論文] 川崎勝「ヘイルズ研究の新視点—18世紀イギリス科学史の革新のために—」第19巻 (1992) : 159-171
- [論文] 田中穆「H. Staudingerの研究とドイツ高分子化学工業の誕生—Staudingerのゴムに関する研究と合成ゴムへの道—(その1)・(その2)」第19巻 (1992) : 172-187, 247-261
- [論文] 吉本秀之「初期ボイルの化学—ヘルモント主義の位相と種子原理—」第19巻 (1992) : 233-246
- [寄書] 竹林松二「フェントン試薬を用いる酸化反応—その発見と解明—」第19巻 (1992) : 36-39
- [寄書] 竹林松二「アルミニウム・アルコキンドを用いる還元反応—Meerwein-Ponndorf-Verley還元—の発見と解明の経過—」第19巻 (1992) : 105-109
- [寄書] 竹林松二「L. クライゼンとその人名反応」第19巻 (1992) : 262-266
- [特集技術史シリーズ第2回] 木岡護・広瀬敬治・柏典夫「チーグラ—触媒によるポリエチレンの製造法」第19巻 (1992) : 40-49
- [特集技術史シリーズ第3回] 佐伯康治「合成ゴムの技術とその工業」第19巻 (1992) : 267-281
- [特集ラヴワジェ研究入門第11回] 川島慶子「ラヴワジェ伝の中のラヴワジェ夫人像」第19巻 (1992) : 188-204
- [科学史研究の新潮流] 小川眞里子「Women in Science ことはじめ」第19巻 (1992) : 110-122
- [研究回顧] 高木俊夫「ウブサラのバイオ分離科学学派の研究史事始」第19巻 (1992) : 205-211
- [解説] 田中泰夫「工業化学会満洲支部と「満洲」における化学工業I」第19巻 (1992) : 282-289
- [広場] 芝哲夫「ベックマン化学史研究センターの組織と活動」第19巻 (1992) : 50-51
- [広場] 小森田精子「“中日科学技術発展比較双辺学術討論会”に参加して」第19巻 (1992) : 52-56

- [広場] 林良重「1991年度化学史研究発表会に出席して」第19巻(1992):123-126
- [広場] 大野誠「第8回「春の学校」・第1回化学教育フォーラムの報告」第19巻(1992):127-131
- [広場] 柏木肇「コップとホフマン歿後100年によせて」第19巻(1992):290-293
- [広場] 日吉芳朗「貝紫と化学教育」第19巻(1992):294-301
- [広場] 大野誠・内野若菜「マンガと科学史」第19巻(1992):302-305
- [広場] 藤井清久「1992年度化学史研究発表会」傍聴記」第19巻(1992):306-309
- [紹介] 芝哲夫「藤野明『銅の文化史』」第19巻(1992):57
- [紹介] 下坂英「渡辺正雄『文化としての科学—この人間的な営み』」第19巻(1992):58,62
- [紹介] 大野誠「Christine Macleod, Inventing the Industrial Revolution: The English Patent System, 1660-1800」第19巻(1992):59-62
- [紹介] 藤崎千代子「R. Norman Jones, "Analytical Applications of Vibrational Spectroscopy: A Historical Review"」第19巻(1992):63-65
- [紹介] 大野誠・川崎勝「新着科学史書から」第19巻(1992):66-68,136-138,214-216,219
- [紹介] 横山輝雄「D. S. L. カードウェル著(金子務監訳)『蒸気機関からエントロピーへ—熱学と動力技術』」第19巻(1992):132-133
- [紹介] 橋本毅彦「高橋憲一・佐藤徹他著『自立する科学史学—伊東俊太郎先生還暦記念論文集—』」第19巻(1992):133-135
- [紹介] 橋本毅彦「大野誠・小川真里子編著『科学史の世界』」第19巻(1992):133-135
- [紹介] 小塩玄也「丸石照機著『アメリカ初期の化学教育から—化学と化学教育の源泉』」第19巻(1992):135-136
- [紹介] 三浦伸夫「上智大学中世思想研究所編『中世の自然観』」第19巻(1992):212-214
- [紹介] 大野誠「科学・技術と社会の会編『年報科学・技術・社会』創刊号」第19巻(1992):310-311
- [紹介] 川島慶子「Nicole et Jean Dhombres, Naissance d'un nouveau pouvoir」第19巻(1992):312
- [資料]「化学史および周辺分野の新刊書(1991)」第19巻(1992):217-219
- [ニュース]第19巻(1992):138
- [会報]第19巻(1992):69-70
- 「第3回化学史シンポジウムプログラム」第19巻(1992):139
- [第3回化学史シンポジウム] 渡辺其久男「石油開発の歴史—太古から現代までの歩み—」第19巻(1992):140-141
- [第3回化学史シンポジウム] 山崎豊彦「石油天然ガス回収技術研究を顧みて」第19巻(1992):142-143
- [第3回化学史シンポジウム] 三輪宗弘「人造石油と対米開戦経緯」第19巻(1992):143-144
- [第3回化学史シンポジウム] 鎌谷親善「京都大学附置化学研究所と燃料研究」第19巻(1992):145-146
- [第3回化学史シンポジウム] 山本為親「放電による天然ガスよりアセチレンの製造とイソオクタン合成の工業化計画」第19巻(1992):147-148
- [第3回化学史シンポジウム] 森田義郎「炭素質燃料利用技術の変遷と展望」第19巻(1992):149
- [第3回化学史シンポジウム] 石川新一郎「新津油田の発見とその盛衰」第19巻(1992):150-151
- [第3回化学史シンポジウム] 石川文三「殖産協会の系譜と人脈—日本石油誕生の背景—」第19巻(1992):152-153
- [第3回化学史シンポジウム] 高宮信夫「蒲原粘土と石油精製」第19巻(1992):154-155
- [第3回化学史シンポジウム] 森島宏「我が国石油鉱業技術の発展」第19巻(1992):156-157
- 「1992年化学史研究発表会プログラム」第19巻(1992)第3号表表紙うら
- [シンポジウム:日本化学の伝統—舎密から化学へ—] 宗田一「宇田川蘭学三代と化学」第19巻(1992):220
- [シンポジウム:日本化学の伝統—舎密から化学へ—] 松田清「彦根井伊家所蔵『依氏広義』の書誌的考察」第19巻(1992):221
- [シンポジウム:日本化学の伝統—舎密から化学へ—] 大岩正芳「『舎密』に至るまで—陰陽五行の説から元素へ—」第

- 19巻 (1992) : 222
- [シンポジウム：日本化学の伝統—舎密から化学へ—] 菅原国香「Atomの訳語「原子」への過程をめぐって」第19巻 (1992) : 223
- [シンポジウム：日本化学の伝統—舎密から化学へ—] 大沢眞澄・土井康弘「舎密開宗についての二、三の考察」第19巻 (1992) : 224
- [シンポジウム：日本化学の伝統—舎密から化学へ—] 八耳俊文「清末期における漢訳西洋科学書の出版と日本への影響」第19巻 (1992) : 225
- [シンポジウム：日本化学の伝統—舎密から化学へ—] 塚原東吾「『舎密』とオランダの化学」第19巻 (1992) : 226
- [シンポジウム：日本化学の伝統—舎密から化学へ—] 阪上正信「Stöckhardt原著『Die Schule der Chemie』と『化学新書』を比較して」第19巻 (1992) : 227
- [シンポジウム：日本化学の伝統—舎密から化学へ—] 芝哲夫「ハラタマ書簡について」第19巻 (1992) : 228
- [一般講演] 米田昭二郎・岡崎正夫「燐寸と清水誠の生涯」第19巻 (1992) : 229
- [一般講演] 林良重「『舎密開宗』の実験とその教材化」第19巻 (1992) : 230
- [一般講演] 日吉芳朗「モーベインの発見」第19巻 (1992) : 231
- [一般講演] 川合智「19世紀における分子間力の研究—古典的アプローチの意義—」第19巻 (1992) : 232
- 「新入会員名簿」第19巻 (1992) : 281, 289, 293, 301, 305
- 「化学史研究第19巻 (1992年) 総目次」第19巻 (1992) : 314

第20巻 (1993年)

- [論文] 古川安「シュタウディンガーの科学活動と政治的葛藤」第20巻 (1993) : 1-19
- [論文] 鎌谷親善「肥料礦物調査所—その設立・事業・廃止—」第20巻 (1993) : 65-92
- [論文] 斎藤喜彦「わが国における錯体の構造研究の歴史」第20巻 (1993) : 141-160
- [論文] 和泉ちえ「古代ギリシア原子論再考」第20巻 (1993) : 233-242
- [論文] 田中穆「H. Staudingerの研究とドイツ高分子化学工業の誕生—ポリ酢酸ビニルの研究開発をめぐる Staudingerとドイツ化学工業界の人たち—」第20巻 (1993) : 243-258
- [寄書] 竹林松二「シッフ塩基とシッフ試薬」第20巻 (1993) : 20-24
- [寄書] 大野誠「『化学革命』とフランス革命への対抗—ロバート・ハリントン著『フランス化学理論への死刑執行令状』(1804年)をめぐって—」第20巻 (1993) : 93-106
- [特集技術史シリーズ第4回] 城島俊夫「尿素肥料の開発の歴史」第20巻 (1993) : 161-200
- [特集技術史シリーズ第5回] 川合智「硝酸製造技術の歴史—工業物理化学の視点から—」第20巻 (1993) : 259-282
- [科学史研究の新潮流] 鈴木晃仁「魔女狩りと近代ヨーロッパ」第20巻 (1993) : 37-53
- [科学史研究の新潮流] 橋本毅彦「実験と実験室(ラボラトリー)をめぐる新しい科学史研究」第20巻 (1993) : 107-121
- [研究回顧] 山本為親「放電による天然ガスよりアセチレンの製造とイソオクタン合成の工業化」第20巻 (1993) : 122-128
- [解説] 田中泰夫「工業化学会満洲支部と『満洲』における化学工業II」第20巻 (1993) : 25-36
- [広場] 亀山哲也・飯島孝「第8回化学史—夏のサロン('92)の報告—」第20巻 (1993) : 54-56
- [広場] 大野誠「第9回『春の学校』・第2回化学史・教育フォーラムの報告」第20巻 (1993) : 129-131
- [広場] 大野誠「『化学史研究』20年間の歩み—回顧と展望—」第20巻 (1993) : 283-293
- [広場] 原田馨「アグリコラ生誕500年」第20巻 (1993) : 294-296
- [広場] 川崎勝「西日本支部の誕生—支部設立会議と1993年度研究講演会の報告—」第20巻 (1993) : 297-301
- [紹介] 川島慶子「ロンダ・シービンガー著(小川真里子、藤岡伸子、家田貴子訳)『科学史から消された女性たち』」

第20巻 (1993) : 57-58

[紹介] 大野誠「渡辺正雄編著『ケプラーと世界の調和』」第20巻 (1993) : 58-59

[紹介] 宗田一「石田純郎編著『緒方洪庵の蘭学』」第20巻 (1993) : 132

[紹介] 大野誠「遅塚忠躬・近藤和彦編『過ぎ去ろうとしない近代—ヨーロッパ再考—』」第20巻 (1993) : 58

[紹介] 植松英穂「P. M. ハーマン (杉山滋郎訳)『物理学の誕生—エネルギー・力・物質の概念の発達史—』」第20巻 (1993) : 201-202

[紹介] 家田貴子「富坂キリスト教センター編『エコロジーとキリスト教』」第20巻 (1993) : 203-204

[紹介] 鶴浦裕「渡辺正雄『科学の歩み・科学との出会い—世界観と近代科学—』」第20巻 (1993) : 205-206

[紹介] 大野誠「D. M. Knight, Ideas in Chemistry: A History of the Science」第20巻 (1993) : 302-303

[資料] 「化学史および周辺分野の新刊書 (1992)」第20巻 (1993) : 208-209

[会報] 第20巻 (1993) : 60-63, 304-307

[雑報] 「西日本支部の設立について」第20巻 (1993) : 139

[雑報] 「化学会館展示「黎明期のわが国の大学化学教育」」第20巻 (1993) : 207

[第4回化学史シンポジウム] 竹内敬人「ファント・ホッフとウェルナー—有機化学の立場から—」第20巻 (1993) : 134-135

[第4回化学史シンポジウム] 山寺秀雄「配意結合の理論の変遷」第20巻 (1993) : 136-137

[第4回化学史シンポジウム] 斎藤喜彦「わが国における錯体の構造研究の歴史」第20巻 (1993) : 138

「1993年化学史研究発表会プログラム」第20巻 (1993) 第3号表表紙うら

[一般講演] 大野誠「『化学史研究』20年会の歩み—回顧と展望—」第20巻 (1993) : 210

[一般講演] 田育誠 (橋本南都子訳)「中国に於ける化学史研究について」第20巻 (1993) : 211

[一般講演] 川合智「硝酸製造技術の歴史—工業物理化学の視点から—」第20巻 (1993) : 212

[一般講演] 佐伯康治「企業におけるR&Dの役割と問題点—わが国のポリマー技術開発を中心にして—」第20巻 (1993) : 213

[特別講演] 江崎正直「国産・導入技術の工業化—三井東庄化学・彦島工業所の変遷—」第20巻 (1993) : 214

[特別講演] 高島直一「プラスチックの成型加工—成型加工技術の歴史的考察」第20巻 (1993) : 215

[シンポジウム：日本における伝統技術と化学] 鎌谷親善「シンポジウム「日本における伝統技術と化学」を開催するにあたって」第20巻 (1993) : 216

[シンポジウム：日本における伝統技術と化学] 野原建一「近世・近代期のたたら製鉄業」第20巻 (1993) : 217-218

[シンポジウム：日本における伝統技術と化学] 藤野明「銅の伝統技術—特徴とその変容—」第20巻 (1993) : 219-220

[シンポジウム：日本における伝統技術と化学] 仲野泰裕「19世紀の窯業—伝統と西欧技術の受用—」第20巻 (1993) : 221-222

[シンポジウム：日本における伝統技術と化学] 村上正祥「19世紀の日本塩業」第20巻 (1993) : 223-224

[シンポジウム：日本における伝統技術と化学] 川越重昌「19世紀の日本硝石・火薬技術」第20巻 (1993) : 225-226

[シンポジウム：日本における伝統技術と化学] 熊野谿從「伝統漆工の科学技術—序論—」第20巻 (1993) : 227-228

[シンポジウム：日本における伝統技術と化学] 鎌谷親善・加藤百一「酒造技術の変遷—灘酒を中心にして—」第20巻 (1993) : 229-230

[シンポジウム：日本における伝統技術と化学] 鈴木ゆり子「醤油醸造と技術」第20巻 (1993) : 231-232

「化学史学会会則 (1992年11月14日改訂)」第20巻 (1993) : 65-67

「『化学史研究投稿規程』 (1992年3月21日改訂)」第20巻 (1993) : 68

「新入会員名簿」第20巻 (1993) : 301

「化学史研究第20巻 (1993年) 総目次」第20巻 (1993) : 308

第21巻 (1994年)

- [論文] 鎌谷親善「京都帝国大学附置化学研究所一創立期一」第21巻 (1994) : 1-37
- [論文] 鎌谷親善「京都帝国大学附置化学研究所一戦時期一」第21巻 (1994) : 109-151
- [論文] 鎌谷親善「江戸時代初期における酒造技術」第21巻 (1994) : 309-332
- [総説] 山寺秀雄「配位結合の理論の変遷」第21巻 (1994) : 219-233
- [寄書] 日吉芳朗「パーキンと人口紫色染料モーペインの発見と研究」第21巻 (1994) : 345-357
- [特集日本における伝統技術と化学] 野原建一「近世～近代期のたたら製鉄業の展開」第21巻 (1994) : 38-46
- [特集日本における伝統技術と化学] 村上正祥「製塩業」第21巻 (1994) : 47-59
- [特集日本における伝統技術と化学] 仲野泰裕「19世紀の窯業—伝統と西欧技術の受容—」第21巻 (1994) : 152-171
- [特集日本における伝統技術と化学] 藤野明「銅の伝統技術—近世・江戸期から明治維新へ—」第21巻 (1994) : 172-185
- [特集技術史シリーズ第6回] 田中直「石油脱硫技術の歴史をめぐって」第21巻 (1994) : 60-69
- [特集技術史シリーズ第7回] 太田静行「うま味調味料の歴史」第21巻 (1994) : 186-202
- [特集技術史シリーズ第8回] 佐藤正弥「ポリ塩化ビニリデンフィルム of の社会史」第21巻 (1994) : 234-249
- [特集技術史シリーズ第9回] 江崎正直・大谷真夫「メタノール合成技術」第21巻 (1994) : 250-277
- [特集技術史シリーズ第10回] 佐伯康治「企業における研究開発—ポリマー企業を中心に—」第21巻 (1994) : 333-344
- [研究回顧] 廣田鋼蔵「理学界から工学界にわたる私の触媒研究遍歴」第21巻 (1994) : 278-296
- [追悼] 稲本直樹「竹林松二先生を偲んで—東京帝国大学理学部・旧制大阪高等学校時代を中心に—」第21巻 (1994) : 297-298
- [追悼] 井畑敏一「竹林松二先生を偲んで」第21巻 (1994) : 299-301
- [広場] 林良重・小塩玄也「第3回化学史・教育フォーラムの報告」第21巻 (1994) : 203-204
- [広場] 大野誠「1994年度年會を終えて」第21巻 (1994) : 205
- [広場] 吉田晃「ラヴォワジェ没後200年記念シンポジウム」第21巻 (1994) : 206-207
- [広場] 大西寛「Berzelius の呼び方の変遷」第21巻 (1994) : 302-303
- [広場] 上仲博「愛知県陶磁資料館訪問記」第21巻 (1994) : 364-365
- [広場] 大西寛「van't Hoff か van 't Hoff か?」第21巻 (1994) : 366-367
- [紹介] 伊藤和行「D. P. ウォーカー著 (田口清一訳) 『ルネサンスの魔術思想—フィチーノからカンパネッラへ—』」第21巻 (1994) : 70-71
- [紹介] 大野誠「M. ジェイコブ著 (中島秀人訳) 『ニュートン主義者とイギリス革命』」第21巻 (1994) : 72-74
- [紹介] 大野誠「新着科学史書から」第21巻 (1994) : 75-78
- [紹介] 吉田晃「M. Goupil, P. Bret, F. Masson: Lavoisier et la révolution chimique (SABIX, 1992).」第21巻 (1994) : 208-210
- [紹介] 大野誠「渡辺正雄監修・犬上博史作・石田おさむ画『ニュートン—近代科学を築いた知の巨人』」第21巻 (1994) : 211
- [紹介] 西村秀雄「高橋憲一訳・解説『コペルニクス・天球回転論』」第21巻 (1994) : 365, 368-369
- [会報] 「1994年度総会報告」第21巻 (1994) : 216-218
- [会報] 「1994年理事会報告」第21巻 (1994) : 370-371
- [雑報] 「化学会館展示 日本における化学工業の近代化と東京工業試験所」第21巻 (1994) : 80-81
- [雑報] 田丸謙二「化学会館展示 Haber と亡父について」第21巻 (1994) : 304-305
- [資料] 「化学史および周辺分野の新刊書 (1993)」第21巻 (1994) : 306-307

- [資料] 川上行蔵「満洲国大陸科学院」第21巻(1994):358-361
- [資料] 佐佐木行美「東京帝国大学理学部旧制化学科における卒業研究発表会のプログラム(1916~1953)(補記)」第21巻(1994):362-363
- [1994年化学史研究発表会プログラム]第21巻(1994)第1号表紙うら
- [一般講演] 日吉芳朗「プルシアンブルーの化学」第21巻(1994):82
- [一般講演] 塚原東吾「化学史をめぐる西洋と日本分野の研究の対話の可能性—ヘンリーによる「舎密開宗」原本の書誌を例として—」第21巻(1994):83
- [一般講演] 佐藤正弥「ポリ塩化ビニリデンフィルムの社会史」第21巻(1994):84
- [一般講演] 飯島孝「わが国におけるエンジニアリング産業の成立」第21巻(1994):85-86
- [一般講演] 米田昭二郎・関崎正夫「化学点火法の発達—マッチについて—」第21巻(1994):87
- [一般講演] 八耳俊文「D. J. Macgowanと長崎」第21巻(1994):88
- [招待講演] 中西啓「長崎の化学史」第21巻(1994):89
- [招待講演] 楠本寿一「長崎製鉄所の舎密所について」第21巻(1994):90-92
- [シンポジウム:蘭学研究の現状と今後の課題] 芝哲夫「長崎の御用時計師御幡家の化学史料」第21巻(1994):93-94
- [シンポジウム:蘭学研究の現状と今後の課題] 川島真人「中津藩の蘭学について」第21巻(1994):95-96
- [シンポジウム:蘭学研究の現状と今後の課題] 山口隆男「シーボルトの日本の動物学への貢献」第21巻(1994):97-98
- [シンポジウム:蘭学研究の現状と今後の課題] 宮坂正英「ブランデンシュタイン家文書に見られるシーボルトと桂川甫賢、宇田川榕庵との交流に関する記述史料について」第21巻(1994):99-100
- [シンポジウム:蘭学研究の現状と今後の課題] 鎌谷親善「江戸時代における火薬について—硝石を中心に—」第21巻(1994):101-102
- [シンポジウム:蘭学研究の現状と今後の課題] 土井康弘「宇田川榕庵の薬物認識—音訳との関わりを通して—」第21巻(1994):103-104
- [シンポジウム:蘭学研究の現状と今後の課題] 菅原国香「太田雄寧訳纂『新式化学』の原書について」第21巻(1994):105-106
- [シンポジウム:蘭学研究の現状と今後の課題] 石田純郎「前期近代(17-19世紀)のオランダの医療システムの変遷—医政, 医療職そして病院—」第21巻(1994):107-108
- [第5回化学史シンポジウム] 高瀬勉「変革の時代における企業のR&D」第21巻(1994):212
- [第5回化学史シンポジウム] 平野二郎「筑波における企業研究所のR&D」第21巻(1994):213
- [第5回化学史シンポジウム] 神保元二「粉体工学の形成と粉体技術における研究開発」第21巻(1994):214
- [第5回化学史シンポジウム] 佐伯康治「企業におけるR&Dの課題—ポリマー素材メーカーを中心に—」第21巻(1994):215
- [新入会員名簿]第21巻(1994):79,218,305
- [化学史研究第21巻(1994年)総目次]第21巻(1994)第4号裏表紙うら

第22巻(1995年)

- [論文] 立花太郎「トーマス・グレアムのコロイド研究再考」第22巻(1995):1-14
- [論文] 鎌谷親善「江戸後期における酒造技術—灘酒の出現と特徴—」第22巻(1995):85-113
- [論文] 川島慶子「『フロギストン論考』仏訳におけるラヴワジェ夫妻の協力」第22巻(1995):163-179
- [論文] 坂野徹「パラオ熱帯生物研究所—その誕生から終焉まで—」第22巻(1995):180-196
- [論文] 川田勝「メルセンヌの学問擁護論」第22巻(1995):263-287
- [特集技術史シリーズ第11回] 江崎正直「アンモニア合成技術(I)」第22巻(1995):15-49

- [特集技術史シリーズ第12回] 刈米孝夫「合成洗剤の歴史」第22巻(1995): 114-126
- [特集技術史シリーズ第13回] 大場健吉・武井玲子「環境問題からみた合成洗剤の技術開発史」第22巻(1995): 127-141
- [特集技術史シリーズ第14回] 江崎正直「アンモニア合成技術(II)」第22巻(1995): 197-225
- [特集技術史シリーズ第15回] 上仲博「1-アミノアントラキノン製造法の変遷—日本における無公害型製造法の開発—」第22巻(1995): 288-299
- [特集日本の化学者第1回] 坪井正道「水島三一郎先生の研究足跡」第22巻(1995): 142-151
- [特集日本の化学者第2回] 前田侯子「黒田チカー天然色素研究における業績とわが国初の女性化学者としての生涯」第22巻(1995): 226-238
- [広場] 大西寛「質量作用の法則という名称の初期の使われ方」第22巻(1995): 252-254
- [広場] 原田馨「レントゲン線発見100年」第22巻(1995): 300-308
- [紹介] 吉本秀之「Piyo Rattansi and Antonio Clericuzio (eds.), *Alchemy and Chemistry in the 16th and 17th Centuries*」第22巻(1995): 152-154
- [紹介] 芝哲夫「J. M. トーマス著, 千原秀昭・黒田玲子訳『マイケル・ファラデー—天才科学者の軌跡—』」第22巻(1995): 155
- [紹介] 塚原東吾「Ekmeleddin Ihsanoglu (ed.), *Transfer of Modern Science & Technology to the Muslim World*」第22巻(1995): 156-157
- [紹介] 小塩玄也「竹内敬人, 山田圭一著『化学の生いたち』日本化学会編, 新化学ライブラリー(全30巻)」第22巻(1995): 158
- [紹介] 鎌谷親善「藤田英夫著『大阪合密局の史的展開—京都大学の源流—』」第22巻(1995): 255
- [紹介] 梅田淳「William H. Brock, *The Fontana History of Chemistry*」第22巻(1995): 256-259
- [紹介] 塚原東吾「クラウス・ハフナー著, 中辻慎一訳『化学の建築家ケクレ—ベンゼンいまむかし』」第22巻(1995): 260-261
- [紹介] 田中浩朗「松本三和夫著『船の科学技術革命と産業社会—イギリスと日本の比較社会学—』」第22巻(1995): 359
- [会報] 「1995年度総会報告」第22巻(1995): 159-160
- [雑報] 鶴田禎二「旧制高校教師 山岡望先生について」第22巻(1995): 50-52
- [資料] 芝哲夫「長崎における A. F. ボードウィンの舎密学傳習講義録」第22巻(1995): 239-251
- [資料] 「化学史および周辺分野の新刊書(1994)」第22巻(1995): 309-311
- [資料] 八耳俊文「清末期西人著訳科学関係中国書および和刻本所在目録」第22巻(1995): 312-358
- 「1995年度化学史研究発表会プログラム」第22巻(1995)第1号表表紙うら
- [シンポジウム: 回想: 日本の高分子化学] 岩倉義男「高分子学会の歴史と役割」第22巻(1995): 53-55
- [シンポジウム: 回想: 日本の高分子化学] 岡村誠三「櫻田一郎と日本の高分子化学—科学史の一つの見方—」第22巻(1995): 56-58
- [シンポジウム: 回想: 日本の高分子化学] 古川淳二「日本の合成ゴム研究史」第22巻(1995): 59-62
- [シンポジウム: 回想: 日本の高分子化学] 大島敬治「わが国のプラスチック時代到来までの概要」第22巻(1995): 63-66
- [シンポジウム: 回想: 日本の高分子化学] 丹沢宏「日本の高分子産業史のひとこま—化学繊維技術成立事情—」第22巻(1995): 67-68
- [一般講演] 鎌谷親善「東北大学金研の設立事情, とくに臨時理化学研究所について」第22巻(1995): 69
- [一般講演] 芦田玉一「ライナス・ポーリング—20世紀最大の化学者」第22巻(1995): 70
- [一般講演] 吉本秀之「文化史におけるボイラーボイル研究の新動向—」第22巻(1995): 71

- [一般講演] 柏木肇「イングランド科学の環境について—若干のコメント—」第22巻(1995):72
- [一般講演] 塚原東吾「イギリス北部, エディンバラ・マンチェスター・グラスゴウの化学と日本の舎密—ヘンリー本のグラント・デザインが1798年のマンチェスターで行われた連続講演のシラバスにあることについて—」第22巻(1995):73
- [一般講演] 土井康弘「佐賀藩武雄領における科学摂取—木村仲兵衛関係文書を中心として—」第22巻(1995):74
- [一般講演] 橋本南都子「鲁迅とラジウム」第22巻(1995):75
- [特別講演] 田丸謙二「父田丸節郎とハーバー」第22巻(1995):76-77
- [特別講演] 佐藤正弥「ハーバー一族と日本」第22巻(1995):78-80
- [一般講演] 上仲博「1-アミノアントラキノン無公害型製法の開発とそれをめぐる研究者たち」第22巻(1995):81-82
- [一般講演] 鶴田利行「硝酸式硫酸製造プロセスの盛衰」第22巻(1995):83
- [一般講演] 江崎正直「アンモニア合成の低圧化」第22巻(1995):84
- 「第22巻(1995年)総目次」第22巻(1995):361
- 「新入会員名簿」第22巻(1995):52,157,261,308

第23巻(1996)

- [論文] 田中穆「H. Staudingerの研究とドイツ高分子化学工業の誕生—ポリスチロールおよびポリ塩化ビニルの工業化に至るまで(その1)(その2)」第23巻(1996):1-14,147-166
- [論文] 鎌谷親善「東北大学理科大学臨時理化学研究所—その設立から廃止まで—」第23巻(1996):119-146
- [論文] 鎌谷親善「東北大学附属鉄鋼研究所—その設立と事業—」第23巻(1996):205-234
- [論文] 川田勝「メルセンヌの初期アカデミー思想(1623-1634)—メルセンヌアカデミー研究(I)—」第23巻(1996):285-301
- [寄書] 日吉芳朗「プルシアンブルーの化学」第23巻(1996):54-67
- [特集技術史シリーズ第16回] 江崎正直「アンモニアの合成技術(III)」第23巻(1996):15-53
- [特集技術史シリーズ第17回] 佐藤正弥「国産技術によるポリ塩化ビニリデン樹脂の製造・加工の企業化」第23巻(1996):235-250
- [特集技術史シリーズ第18回] 徳田晉吾・勝村龍雄「日本における苛性ソーダの製法転換とその社会的背景」第23巻(1996):311-331
- [特集日本の化学者第3回] 斎藤信房「放射化学領域における木村健二郎の業績」第23巻(1996):302-310
- [広場] 芝哲夫「日独コロキウム—ザクセンにおける日独科学交流の伝統—の報告」第23巻(1996):68-69
- [広場] 阪上正信「H. Becquerelと放射能の発見100年」第23巻(1996):167-170
- [広場] 原田馨「ヘルムホルツ像フンボルト大学に戻る」第23巻(1996):171-180
- [広場] 丹沢宏「Antonio Minelli—日本の初期レーヨン工業に貢献したお雇い外国人技術者—」第23巻(1996):181-185
- [広場] 中垣良一「磁気化学・磁気共鳴の発展—ゼーマン効果の発見から百年—」第23巻(1996):251-257
- [広場] 江崎正直・日吉芳朗「秋の学校('96)の報告」第23巻(1996):258-260
- [広場] 上仲博「灘の水車と震災」第23巻(1996):332-334
- [広場] 川島慶子「[化学者, 科学者, 学者]—18世紀フランスにおける〈savant〉の意味と科学記事」第23巻(1996):335-338
- [紹介] 和泉ちえ「G. E. R. ロイド(山野耕治・山口義久訳)『初期ギリシア科学』」第23巻(1996):70
- [紹介] 羽片俊夫「田中一郎『ガリレオ 庇護者たちの網の中で』」第23巻(1996):71
- [紹介] 川田勝「吉本秀之他『科学と国家と宗教』」第23巻(1996):72-73

- [紹介] 橋本毅彦「Anthony S. Travis, The Rainbow Makers 他」第23巻 (1996) : 74-76
- [紹介] 八耳俊文「芝哲夫『オランダ人の見た幕末・明治の日本—化学者ハラタマ書簡集—』」第23巻 (1996) : 77-78
- [紹介] 金森修「J. バルトルシャイティス (谷川渥訳)『鏡』」第23巻 (1996) : 79
- [紹介] 金森修「E. カッシーラー (佐藤三夫他訳)『シンボルとスキエンティア』」第23巻 (1996) : 80
- [紹介] 猪野修治「笹本征男『米軍占領下の原爆調査』」第23巻 (1996) : 81-84
- [紹介] 橋本毅彦「Pamera H. Smith, The Business of Alchemy」第23巻 (1996) : 186-187
- [紹介] 石田純郎「ロイ・ポーター (田中京子訳)『健康売ります』」第23巻 (1996) : 188
- [紹介] 鎌谷親善「徳永光俊校注・解題『農稼肥培論・培養秘録』」第23巻 (1996) : 189-190
- [紹介] 菊池好行「Mikael Hard, Machines Are Frozen Spirit」第23巻 (1996) : 191-192
- [紹介] 川島慶子「デサンカ・トルブホヴィッチ=ギュリッチ (田村雲供・伊藤典子訳)『二人のアインシュタイン』」第23巻 (1996) : 193-194
- [紹介] 加藤茂生「佐伯修『上海自然科学研究所』」第23巻 (1996) : 195-196
- [紹介] 坂野徹「ジョジアンヌ・オルフ=ナータン編 (宇京頼三訳)『第三帝国下の科学』」第23巻 (1996) : 197-198
- [紹介] 橋本毅彦「ラルフ・W・モス (蔵本喜久・桜井民子訳)『がん産業』上・下」第23巻 (1996) : 199-200
- [紹介] 原田馨「石田純郎『ヨーロッパ医学史散歩』」第23巻 (1996) : 275-277
- [紹介] 小川真里子「シャロン・パーチュ・マグレイン (中村桂子・中村友子訳)『お母さん, ノーベル賞をもらう』」;
ウラ・フェルシング (田沢仁・松本友孝訳)『ノーベル・フラウエン』」第23巻 (1996) : 278-279
- [紹介] 吉田晃「エドアール・グリモー (田中豊助・原田紀子・牧野文子訳)『ラボアジェ 1743-1794』」第23巻 (1996) : 280
- [紹介] 八耳俊文「鬼頭秀一『自然保護を問いなおす』」第23巻 (1996) : 281
- [紹介] 坂口勝彦「伊藤博明『神々の再生—ルネサンスの神秘思想』」第23巻 (1996) : 282
- [紹介] 林真理「エヴリン・フォックス・ケラー (長野敬訳)『機械の身体』」第23巻 (1996) : 339-340
- [紹介] 亀山哲也「飯島孝『技術の黙示録』」第23巻 (1996) : 341
- [紹介] 島原健三「島尾永康『中国化学史』」第23巻 (1996) : 342-344
- [紹介] 加藤茂生「金森修『バシュラール—科学と詩—』」第23巻 (1996) : 345-346
- [会報] 「1996年度総会報告」第23巻 (1996) : 201-203
- [雑報] 芝哲夫「化学会館展示上野彦馬—わが国写真化学の先覚者—」第23巻 (1996) : 261-264
- [資料] 立花太郎「旧「日本化学会」および「工業化学会」の歴代会長の生没年月日」第23巻 (1996) : 265-268
- [資料] 「化学史および周辺分野の新刊書 (1995)」第23巻 (1996) : 269-274
- 「1996年化学史研究発表会プログラム」第23巻 (1996) 第1号表表紙うら
- [一般講演] 鎌谷親善「東北大理科大学臨時理化学研究所の設立経過と事業」第23巻 (1996) : 85
- [一般講演] 亀井修「「性能」と「環境」の視点から見る自動車用ガソリンの変遷」第23巻 (1996) : 86
- [一般講演] 川合智「戦後における石炭液化の研究—研究開発の成果と実用化への前進—」第23巻 (1996) : 87-88
- [一般講演] 佐藤正弥「国産技術によるポリ塩化ビニリデン樹脂製造・加工の企業化」第23巻 (1996) : 89
- [シンポジウム: 実験室の成立] 川崎勝「実験売ります—18世紀英国における実験の普及」第23巻 (1996) : 90-91
- [シンポジウム: 実験室の成立] 柿原泰「19世紀における大学実験室教育の展開」第23巻 (1996) : 92-93
- [シンポジウム: 実験室の成立] 橋本毅彦「化学史と実験の新しいヒストリオグラフィー」第23巻 (1996) : 94-95
- [特別講演] 潮木守一「ドイツ大学と化学」第23巻 (1996) : 96-97
- [一般講演] 石田純郎「ヨーロッパの医・化学史博物館」第23巻 (1996) : 98
- [一般講演] 阪上正信「J. W. Gunning と W. C. Röntgen」第23巻 (1996) : 99
- [シンポジウム: 科学と世界観] 川田勝「「科学と宗教」問題序説—科学史学の立場から—」第23巻 (1996) : 100-101
- [シンポジウム: 科学と世界観] 芦名定道「科学と世界観—現代神学の視点から—」第23巻 (1996) : 102-103

- [シンポジウム：科学と世界観] 柏木肇「回想の科学史，宗教そして世界観」第23巻（1996）：104-106
- [特別講演] 鈴木啓志「日本の洋食器の歴史」第23巻（1996）：107-109
- [シンポジウム：ジェンダーと科学] 塚原東吾「『科学とジェンダー』というテーマはどのような研究領域として設定が可能であるかという問題をめぐる試論」第23巻（1996）：110
- [シンポジウム：ジェンダーと科学] 小川真里子「ジェンダーと博物学」第23巻（1996）：111-112
- [シンポジウム：ジェンダーと科学] 杉山滋郎・伊藤伸子「『婦人公論』にみる『科学』—方法としての『ジェンダーと科学』の試み—」第23巻（1996）：113-115
- [シンポジウム：ジェンダーと科学] 斎藤光「『男女』研究の明治—澤田順次郎の『博物』的アプローチ」第23巻（1996）：116-117
- 「新入会員名簿」第23巻（1996）：84, 198, 283, 344
- 「化学史学会会員名簿（1996年4月現在）」別冊挿入
- 「化学史研究第23巻（1996）総目次」第23巻（1996）：347-348

第24巻（1997年）

- [論文] 鎌谷親善「東北大学附置金属材料研究所—成立から体制の整備まで—」第24巻（1997）：1-32
- [論文] 鎌谷親善「伝染病研究所—最初の帝国大学附置研究所—」第24巻（1997）：105-147
- [論文] 川島慶子「デュ・シャトレ夫人とヴォルテールの『化学』研究：『火の本性と伝播についての論考』」第24巻（1997）：261-280
- [科学史研究の新潮流] 三浦伸夫「アラビア錬金術史の研究動向」第24巻（1997）：193-204
- [特集技術史シリーズ第19回] 佐藤公彦「旭硝子イオン交換膜法食塩電解技術の開発」第24巻（1997）：148-156
- [特集技術史シリーズ第20回] 砂川茂「ヨウ素生産の歴史」第24巻（1997）：281-294
- [特集日本の化学者第4回] 阪上正信「西洋近代科学の移植・育成者：桜井錠二」第24巻（1997）：157-168
- [特集日本の化学者第5回] 辻和一郎「繊維・高分子化学における桜田一郎先生の業績点描」第24巻（1997）：205-217
- [特集日本の化学者第6回] 吉原賢二「小川正孝の栄光と挫折」第24巻（1997）：295-305
- [寄書] 佐藤正弥「塩化ビニリデン樹脂技術開発の二つの系譜」第24巻（1997）：33-41
- [広場] 原田馨「ゲーテとパストゥールを結ぶ—『ヴェルテル』のヒロインの子供達—」第24巻（1997）：42-56
- [広場] 岩倉義男「わが国におけるナイロンの化学構造の決定について」第24巻（1997）：218-219
- [広場] 廣田鋼蔵・荒木恒夫「宇田川榕菴訳『舎密開宗』の題名についての考察—出版当時の榕菴の環境をめぐって—」第24巻（1997）：220-225
- [広場] 原田馨「デスマスクを残した科学者たち」第24巻（1997）：226-231
- [広場] 原田馨「絵を残した科学者たち」第24巻（1997）：306-313
- [資料] 菊池好行「ヴィルヘルム・オストヴァルト遺稿に含まれる日本人化学者関連資料」第24巻（1997）：232-248
- [資料] 「化学史および周辺分野の新刊書（1996）」第24巻（1997）：329-337
- [原典翻訳] 中辻慎一・日吉芳朗「レオポルト・グメリンによる赤血塩の発見」第24巻（1997）：316-328
- [紹介] 岡本拓司「渡辺徳二他『生産力構造転換のダイナミズム』」第24巻（1997）：57-59
- [紹介] 川島慶子「J. P. Poirier, Lavoisier; E. Grison et al., A Scientific Correspondence during the Chemical Revolution」第24巻（1997）：60-62
- [紹介] 大野誠「M. Hunter, The Royal Society and its Fellows 1660-1700」第24巻（1997）：63-64
- [紹介] 鴻野わか菜「S. G. セミョーノヴァ, A. G. ガーチェヴァ編著（西中村浩訳）『ロシアの宇宙精神』」第24巻（1997）：65-66
- [紹介] 吉田健太郎「小林道夫『デカルトの自然哲学』」第24巻（1997）：169-171
- [紹介] 小松真理子「バーバラ・エーレンライク他（長瀬久子訳）『魔女・産婆・看護婦』；ジーン・アクターバーク

- (長井英子訳)『癒しの女性史』第 24 巻 (1997) : 171-173
- [紹介] 川田勝「Annibale Fantoli, Galileo per il Copernicanesimo e per la Chiesa. 他」第 24 巻 (1997) : 173-175
- [紹介] 三浦伸夫「F. スペンサー (山口敏訳)『ピルトダウン 化石人類偽造事件』」第 24 巻 (1997) : 249-251
- [紹介] 斎藤憲「エヴリン・F・ケラー (広井良典訳)『生命とフェミニズム : 言語・ジェンダー・科学』」第 24 巻 (1997) : 251-254
- [紹介] 渡辺慶昭・大野誠「新着科学史書から」第 24 巻 (1997) : 175-177, 254-257
- [会報]「1997 年総会報告」第 24 巻 (1997) : 178-179
- [雑報] 大野誠「『ボイル著作集・書簡集』の予約購入注文書について」第 24 巻 (1997) : 258
- [追悼] 米澤貞次郎「福井謙一先生を偲んで」第 24 巻 (1997) : 314-315
- [1997 年度化学史研究発表会プログラム] 第 24 巻 (1997) : 67
- [特別講演] 吉海正憲「産業技術歴史展と産業技術政策」第 24 巻 (1997) : 68-69
- [シンポジウム : 千葉県の天然ガス・ヨウ素の生産と利用の歴史] 林良重「日本のヨウ素発見者嶋立甫 (玄澄)」第 24 巻 (1997) : 70
- [シンポジウム : 千葉県の天然ガス・ヨウ素の生産と利用の歴史] 明石護「千葉県の水溶性天然ガス開発の歴史」第 24 巻 (1997) : 71
- [シンポジウム : 千葉県の天然ガス・ヨウ素の生産と利用の歴史] 砂川茂・諫山宗生「ヨウ素生産の歴史と我が国の工業的利用」第 24 巻 (1997) : 72-73
- [シンポジウム : 千葉県の天然ガス・ヨウ素の生産と利用の歴史] 芝崎勲「ヨウ素系環境殺菌剤の話題」第 24 巻 (1997) : 74-75
- [シンポジウム : 千葉県の天然ガス・ヨウ素の生産と利用の歴史] 入江実「ヨード欠乏症とその取り組み」第 24 巻 (1997) : 76-77
- [シンポジウム : 千葉県の天然ガス・ヨウ素の生産と利用の歴史] 松岡敬一郎「化学者の目から見たヨウ素」第 24 巻 (1997) : 78-79
- [シンポジウム : 千葉県の天然ガス・ヨウ素の生産と利用の歴史] 杉原博「X 線造影材の進歩」第 24 巻 (1997) : 80
- [シンポジウム : 博物館と科学技術史] 亀井修・高安礼士「科学技術史を伝える博物館」第 24 巻 (1997) : 81-86
- [シンポジウム : 博物館と科学技術史] 永嶋正春「日本の漆文化とその変遷」第 24 巻 (1997) : 87-88
- [シンポジウム : 博物館と科学技術史] 新井英夫「文化財保存科学と生物学」第 24 巻 (1997) : 89-90
- [シンポジウム : Cultural Studies と 20 世紀科学技術史] 加藤茂生「カルチュラル・スタディーズと科学技術史」第 24 巻 (1997) : 91-92
- [シンポジウム : Cultural Studies と 20 世紀科学技術史] 藤垣裕子「科学の分野ごとの Cultural Difference—差異反復の論文産出と知識のモード論—」第 24 巻 (1997) : 93-95
- [シンポジウム : Cultural Studies と 20 世紀科学技術史] 南泰裕「表現としての科学技術—都市・建築デザインの視点から—」第 24 巻 (1997) : 96-97
- [一般講演] 阪上正信「『化学新書』を生んだ Stöckhardt と Gunning を育てた環境」第 24 巻 (1997) : 98
- [一般講演] 阪上信次「志賀泰山と『化学最新』」第 24 巻 (1997) : 99
- [一般講演] 佐藤正弥「塩化ビニリデン技術史覚書」第 24 巻 (1997) : 100
- [一般講演] 鎌谷親善「日本のソーダ工業 100 年」第 24 巻 (1997) : 101
- [一般講演] 古川安「化学から歴史へ—東京帝国大学理学部と日本の化学史家—」第 24 巻 (1997) : 102
- [一般講演] 飯島孝「川崎製鉄千葉製鉄所の建設をめぐる鞍山製鉄所の二つの流れ」第 24 巻 (1997) : 103
- [1997 年度化学史シンポジウム] 吉田忠「ヘンリーのもう一つの翻訳書」第 24 巻 (1997) : 180
- [1997 年度化学史シンポジウム] 芝哲夫「岩手県を生んだ科学者大島高任」第 24 巻 (1997) : 181-182
- [1997 年度化学史シンポジウム] 鎌谷親善「近世日本における酒造り」第 24 巻 (1997) : 183-184

- [1997年度化学史シンポジウム] 力丸光雄「宮澤賢治と科学・化学」第24巻(1997): 185-186
 [1997年度化学史秋の学校] 後藤実「伝承薬物研究の一軌跡」第24巻(1997): 187
 [1997年度化学史秋の学校] 上仲博「第一次世界大戦が大阪に生み出した化学企業」第24巻(1997): 188
 [1997年度化学史秋の学校] 青木允夫・野尻佳与子「和漢洋薬索引の編集について」第24巻(1997): 189
 [1997年度化学史秋の学校] 芝哲夫「杏雨書屋蔵書中の宇田川榕庵の化学関係資料について」第24巻(1997): 190
 [1997年度化学史秋の学校] 鎌谷親善「伊丹の酒—近世日本酒の原型—」第24巻(1997): 191
 [1997年度化学史秋の学校] 柴田承二「正倉院薬物—その化学的再検討—」第24巻(1997): 192
 「新入会員」第24巻(1997): 168, 258, 305
 「投稿規程の一部改定のお知らせ」第24巻(1997): 104
 「化学史研究第24巻(1997年)総目次」第24巻(1997): 339
 『化学史研究』投稿規程(1997年3月1日改訂)第24巻(1997)第4号裏表紙うら

第25巻(1998年)

- [論文] 井上尚之「ナイロンの日本上陸経路と絹の駆逐」第25巻(1998): 93-107
 [論文] 川田勝「メルセンヌアカデミーの思想と展開—メルセンヌアカデミー研究(II)—」第25巻(1998): 108-125
 [論文] 田中穆「H. Staudingerの研究とドイツ高分子化学工業の誕生: Staudinger およびドイツ化学工業界の化学者たちによるポリインデン, ポリイソプレン, ポリアクリレート等の重合物に関する研究開発」第25巻(1998): 177-194
 [寄書] 立花太郎「初期のコロイド化学と寺田寅彦の物理学」第25巻(1998): 229-240
 [特集技術史シリーズ第21回] 大庭成一「日本の写真工業の発展史I—感光材料—」第25巻(1998): 1-19
 [特集技術史シリーズ第22回] 上仲博「住友化学グループにおける m,p-クレゾールの工業的製造法の開発」第25巻(1998): 126-138
 [特集技術史シリーズ第23回] 安部田貞治「日本における新染料開発の歴史」第25巻(1998): 139-145
 [特集日本の化学者第7回] 山田祥一郎「榎田龍太郎—わが国の錯体化学研究の先駆者—」第25巻(1998): 146-158
 [特集日本の化学者第8回] 関集三「仁田勇先生と結晶化学」第25巻(1998): 241-255
 [討論] 川島慶子「「ロジー」のめがね—試論: 科学者伝における「言説」と「ジェンダー」」第25巻(1998): 194-209
 [広場] 上仲博「灘の酒と震災」第25巻(1998): 20-22
 [広場] 日吉芳朗「Zeise 塩は1827年に発見されたのか」第25巻(1998): 23-25
 [広場] 廣田綱蔵「地球化学者岡田家武の思い出」第25巻(1998): 159
 [広場] 大西寛「周期表と周期律表」第25巻(1998): 256-258
 [広場] 八耳俊文「川本幸民とその足跡展 報告記」第25巻(1998): 259-263
 [資料] 芝哲夫「長崎における K. W. ハラタマの舎密学講義録—御幡栄蔵「舎密学見聞控」—」第25巻(1998): 26-40
 [資料] 八耳俊文「川本幸民著作解説」第25巻(1998): 41-54
 [資料] 「化学史および周辺分野の新刊書(1997)」第25巻(1998): 264-269
 [紹介] 本間栄男「科学史とレトリック」第25巻(1998): 160-170
 [紹介] 芝哲夫「井上尚之『科学技術の発達と環境問題』」第25巻(1998): 170-171
 [紹介] 三浦伸夫「竹下節子『ノストラダムスの生涯』」第25巻(1998): 210-211
 [紹介] 三浦伸夫「児玉善仁『病気の誕生—近代医療の起源』」第25巻(1998): 212-213
 [紹介] 唐木田健一「都城秋穂『科学革命とは何か』」第25巻(1998): 214-216
 [紹介] 渡辺慶昭「W. H. Brock, Justus von Liebig」第25巻(1998): 217-219

- [紹介] 渡辺慶昭「新着科学史書から」第25巻(1998): 171-173, 220-222
- [雑報] 吉川暹「化学会館展示第16回 大阪工業技術所の80年」第25巻(1998): 223-225
- [雑報] 「海外行事ニュース」第25巻(1998): 225
- [会報] 「1989年総会報告」第25巻(1998): 174-175
- [1998年化学史研究発表会プログラム] 第25巻(1998): 56
- [シンポジウム: 宇田川榕菴研究の新潮流] 塚原東吾「宇田川榕菴の舎密学研究」第25巻(1998): 57-58
- [シンポジウム: 宇田川榕菴研究の新潮流] 塚原康子「宇田川榕菴の音楽研究」第25巻(1998): 59-60
- [シンポジウム: 宇田川榕菴研究の新潮流] 東徹「『舎密開宗』の参考文献『葛氏舎密』について」第25巻(1998): 61-62
- [シンポジウム: 宇田川榕菴研究の新潮流] 幸田正孝「宇田川榕菴の伝記的研究史」第25巻(1998): 63-65
- [シンポジウム: 宇田川榕菴研究の新潮流] 芝哲夫「宇田川榕菴『舎密開宗』未完部分の復元」第25巻(1998): 66-68
- [シンポジウム: 放射性元素発見100年] 笹川澄子・荒谷美智「初期女性核化学者にみる放射能研究の歴史と人文社会科学」第25巻(1998): 69-70
- [シンポジウム: 放射性元素発見100年] 糸魚川忠平「わが国の放射性希元素鉍物研究の歴史」第25巻(1998): 71-72
- [シンポジウム: 放射性元素発見100年] 坂巻幸雄「戦後放射能探査と日本の地質」第25巻(1998): 73-74
- [シンポジウム: 岡山の洋学] 下山純正「美作の洋学—洋学者輩出とその地域特性を中心に—」第25巻(1998): 75-76
- [シンポジウム: 岡山の洋学] 中山沃「備前の洋学—児玉順蔵と山川正朔」第25巻(1998): 77-78
- [シンポジウム: 岡山の洋学] 石田純郎「緒方洪庵とロイトル」第25巻(1998): 79
- [一般講演] 菅原国香「宇田川榕菴の造語『舎密加』と『舎密』の典拠とその使用例について」第25巻(1998): 80
- [一般講演] 土井康弘「蕃書和解御用勤務以後の宇田川興斎—「勤書」の検討から—」第25巻(1998): 81
- [一般講演] 菊池好行「桜井錠二と日本の物理化学」第25巻(1998): 82
- [一般講演] 宇野友章「明治・大正時代の化学者: 平賀義美博士」第25巻(1998): 83
- [一般講演] 藤田英夫「三高化学班『舎密』誌の化学史的考察」第25巻(1998): 84
- [一般講演] 吉本秀之「ボイル化学の理論的背景」第25巻(1998): 85
- [一般講演] 川島慶子「パリ王立科学アカデミーの懸賞論文と18世紀科学」第25巻(1998): 86
- [一般講演] 大野誠「18世紀中葉のイギリス染色業に関する史料について」第25巻(1998): 87
- [一般講演] 梶雅範「メンデレーフと日本—息子ヴラジーミルを通してのつながり—」第25巻(1998): 88
- [一般講演] 飯島孝「ソーダ工業の製法転換と第三水俣病」第25巻(1998): 89-90
- [1999年度化学史研究発表会プログラム] 第25巻(1998): 270
- [1999年度特別講演] 山田光男「航空研究所と山田延男」第25巻(1998): 272-273
- [1999年度シンポジウム: 私と科学史・技術史] 柏木肇第25巻(1998): 274-275
- [1999年度シンポジウム: 私と科学史・技術史] 井山弘幸第25巻(1998): 276
- [1999年度シンポジウム: 私と科学史・技術史] 田中浩朗第25巻(1998): 277-278
- [1999年度シンポジウム: 私と科学史・技術史] 菊池好行第25巻(1998): 279-280
- [1999年度シンポジウム: 私と科学史・技術史] 江崎正直第25巻(1998): 281-282
- [1999年度一般講演] 吉本秀之「ボイル化学における物質分類」第25巻(1998): 283
- [1999年度一般講演] 三時眞貴子「ウォリントン・アカデミーの教育と科学—カリキュラムと学生の進路を中心に—」第25巻(1998): 284
- [1999年度一般講演] 河野俊哉「実験哲学としてのブリーストリの化学」第25巻(1998): 285-286
- [1999年度一般講演] 中村征樹「フランス革命と化学—兵器の『革命的』製造の展開—」第25巻(1998): 287
- [1999年度一般講演] 松尾幸幸「理論交替期の化学親和力の問題—ラヴワジェ理論との関連における再考察—」第25巻(1998): 288

- [1999年度一般講演] 阪上正信「ドイツの先駆的放射線化学者 F. O. ギーゼル」第25巻(1998): 289
- [1999年度一般講演] 日吉芳朗「川本幸民の『化学新書』—教科書としての歴史的意義と実験の教材化—」第25巻(1998): 290
- [1999年度一般講演] 菅原国香「馬場貞由(佐十郎) 訳述『泰西七金訳説』の原本とその化学語彙について」第25巻(1998): 291
- [1999年度一般講演] 橋本毅彦「航空研究所と山口文之助」第25巻(1998): 292
- [1999年度一般講演] 芝哲夫「長井長義の化学志向の時期」第25巻(1998): 293
- [1999年度一般講演] 菊池好行「化学者共同体発展の数量的把握を巡る諸問題—明治・大正期日本の場合—」第25巻(1998): 294
- [1999年度一般講演] 大沢真澄「文化財と化学—交流・研究史上の人々—」第25巻(1998): 295
- [会報]「1998年総会報告」第25巻(1998): 174-175
- 「新入会員名簿」第25巻(1998): 25, 276
- 「化学史研究第25巻(1998年) 総目次」第25巻(1998): 296

第26巻(1999年)

- [論文] マイケル・ハンター(吉本秀之訳・解説)「新しいボイル像」第26巻(1999): 125-141
- [寄書] 阪上正信「山田延男博士のパーリーでの研究とその科学的意味」第26巻(1999): 152-157
- [解説] 藤瀬裕「貝紫と生物」第26巻(1999): 34-44
- [科学史研究の新潮流] 三時眞貴子「ウォリントン・アカデミー(Warrington Academy, 1757-86)の新たな研究に向けて」第26巻(1999): 65-78
- [特集技術史シリーズ第24回] 大庭成一「日本の写真工業発展史 II—感光材料—」第26巻(1999): 2-9
- [特集技術史シリーズ第25回] 大庭成一「日本の写真工業発展史 III—感光材料—」第26巻(1999): 142-151
- [特集評伝西洋の化学者] 大野誠「特集評伝西洋の化学者を始めるにあたって」第26巻(1999): 10
- [特集評伝西洋の化学者第1回] I. S. ドミートリエフ(梶雅範訳・解説)「化学者メンデレーエフの生涯と業績—その社会的・経済的側面—」第26巻(1999): 11-33
- [特集評伝西洋の化学者第2回] 渡辺慶昭「カール・ヴィルヘルム・ゴットロープ・カストナー—リービッヒの師の評伝—」第26巻(1999): 79-95
- [広場] 島尾永康「リービッヒの顕彰・普及に励むリービッヒの子孫レヴィツキ氏」第26巻(1999): 96-98
- [広場] 山田光男「航空研究所と山田延男」第26巻(1999): 158-167
- [広場] 原田馨「顔に傷あとを残した科学者達」第26巻(1999): 168-176
- [紹介] ピーター・モリス著(菊池好行訳)「エッセイ・レビュー: プラスチックと高分子化学に関する最近の歴史研究」第26巻(1999): 45-54
- [紹介] 川島慶子「Anna Hurwic, Pierre Curie, Paris, 1995.」第26巻(1999): 55-57
- [紹介] 塚原東吾「新着科学史書から」第26巻(1999): 122
- [紹介] 三時眞貴子「ハンター(大野誠訳)『イギリス科学革命』」第26巻(1999): 177-178
- [紹介] 渡辺慶昭「新着化学史雑誌から」第26巻(1999): 178-184
- [資料] 大西寛「岡田家武の人と仕事に関する文献」第26巻(1999): 99-101
- [資料] 菊池好行「東京(帝国)大学化学科卒業生の初職一覧(1877-1926)」第26巻(1999): 102-112
- [資料] 吉本秀之「『化学史研究』総目次(1974年~1999年)とその分析」第26巻(1999): 185-245
- [雑報] 川島慶子他「ラヴワジェ研究目録日本編作成への協力のお願ひ」第26巻(1999): 58-59
- [雑報] 第26巻(1999): 60, 61
- [雑報] 堀勇治「化学会館化学史資料展示第17回 日本初の女性化学者黒田チカ博士」第26巻(1999): 113-118

[会報] 「1999年年会報告」第26巻(1999)：61-62

[会報] 「理事会報告：理事会における会長候補者選挙について」第26巻(1999)：63-64

[-巻頭言-] 亀山哲也「会長就任にあたって」第26巻(1999)：1

[追悼] 日吉芳朗「林良重先生を偲んで」第26巻(1999)：119-121

「新入会員名簿」第26巻(1999)：33,95

著者名索引

凡 例

- 姓のアイウエオ順に並べた。
なお、名前の読みが不明な場合もあり、順序は完全に正確というわけではない。
- 中国人、欧米人
中国人と欧米人は別に項目を分け、アルファベット順に並べた。
- 各項目は次のように記載した。
著者名 [区分] 巻号数 (発行年) : 開始ページ-終了ページ
- 共著者名、翻訳者名
共著者名は区分のすぐ後に、(〇〇と)、の形で示した。
なお、分担執筆の場合にも同様に表示した。翻訳者名は区分のすぐ後に、(〇〇訳)、の形で示した。

[あ]

- 青木允夫 [1997年度化学史秋の学校] (野尻佳与子と) 第24巻 (1997) : 189
- 明石護 [シンポジウム] 第24巻 (1997) : 71
- 赤平清蔵 [一般講演] 第28号 (1984年) : X ; [一般講演] 第40号 (1987年) : 138 ; [一般講演] 第17巻 (1990) : 149
- 芦田玉一 [一般講演] 第22巻 (1995) : 70
- 芦名定道 [シンポジウム] 第23巻 (1996) : 102-103
- 阿部又三 [特別講演] 第20号 (1982年) : III
- 阿部裕子 [論文抄録] 第11号 (1979年) : 17 ; [一般講演] 第11号 (1979年) : 33 ; [論文] 第12号 (1980年) : 10-19 ; [一般講演] 第14号 (1980年) : 27
- 阿部芳郎 [技術資料] 第35号 (1986年) : 82-87
- 安部田貞治 [特集技術史シリーズ第23回] 第25巻 (1998) : 139-145
- 天野良平 [一般講演] (阪上正信と) 第36号 (1986年) : 143
- 新井英夫 [シンポジウム] 第24巻 (1997) : 89-90
- 荒木恒夫 [広場] (廣田綱蔵と) 第24巻 (1997) : 220-225
- 荒谷美智 [シンポジウム] (笹川澄子と) 第25巻 (1998) : 69-70
- 飯島孝 [10周年記念年会シンポジウム] (岩本振武・川井雄・横山輝雄と) 第30号 (1985年) : 15-28 ; [広場] 第16巻 (1989) : 35-37 ; [論文] 第17巻 (1990) : 61-79, 114-125, 151-172 ; [化学史シンポジウム] 第17巻 (1990) : 103 ; [広場] (亀山哲也と) 第18巻 (1991) : 235-237 ; [広場] (亀山哲也と) 第20巻 (1993) : 54-56 ; [一般講演] 第21巻 (1994) : 85-86 ; [紹介] 第23巻 (1996) : 341 ; [一般講演] 第24巻 (1997) : 103 ; [一般講演] 第25巻 (1998) : 89-90
- 家田貴子 [紹介] 第20巻 (1993) : 203-204
- 井口洋夫 [特別講演] 第44号 (1988年) : 137
- 伊佐公男 [資料] (内田高峰・沖久也・目不二雄・中田隆二と) 第34号 (1986年) : 32-42
- 諫山宗生 [シンポジウム] (砂川茂と) 第24巻 (1997) : 72-73
- 石川新一郎 [第3回化学史シンポジウム] 第19巻 (1992) : 150-151
- 石川文三 [第3回化学史シンポジウム] 第19巻 (1992) : 152-153
- 石田純郎 [一般講演] (ハルム・ボイケルスと) 第40号 (1987年) : 136 ; [シンポジウム] 第21巻 (1994) : 107-108 ; [紹介] 第23巻 (1996) : 188 ; [一般講演] 第23巻 (1996) : 98 ; [シンポジウム] 第25巻 (1998) : 79
- 石森達二郎 [追悼] 第23号 (1983年) : 85-86
- 和泉ちえ [論文] 第20巻 (1993) : 233-242 ; [紹介] 第23巻 (1996) : 70
- 板垣良一 [一般講演] 第11号 (1979年) : 38 ; [総説] W. H. ブロック (板垣良一訳・解説) 第23号 (1983年) : 61-74 ; [紹介] 第18巻 (1991) : 151-152
- 居谷滋郎 [広場] 第43号 (1988年) : 86-88
- 伊藤和行 [紹介] 第21巻 (1994) : 70-71
- 伊藤伸子 [シンポジウム] (杉山滋郎と) 第23巻 (1996) : 113-115
- 市原昭一 [第2回化学史シンポジウム] 第18巻 (1991) : 107-108

[い]

- 糸魚川忠平 [シンポジウム] 第25巻 (1998) : 71-72
 糸山東一 [一般講演] 第17号 (1981年) : 15
 稲本直樹 [追悼] 第21巻 (1994) : 297-298
 猪野修治 [紹介] 第23巻 (1996) : 81-84
 井上隆史 [シンポジウム] 第24号 (1983年) : IV
 井上尚之 [論文] 第25巻 (1998) : 93-107
 井畑敏一 [追悼] 第21巻 (1994) : 299-301
 井本稔 [追悼] (奥野久輝・水渡英二・渡辺照と) 第8号 (1978年) : 19-23
 井山弘幸 [論文] 第17号 (1981年) : 24-32; [紹介] 第20号 (1982年) : 115; [紹介] 第20号 (1982年) : 124; [一般講演] 第20号 (1982年) : XX; [紹介] 第27号 (1984年) : 81-82; [紹介] 第30号 (1985年) : 68-69; [シンポジウム] 第44号 (1988年) : 140; [広場] 第16巻 (1989) : 87; [1999年度シンポジウム] 第25巻 (1998) : 276
 入江実 [シンポジウム] 第24巻 (1997) : 76-77
 岩倉義男 [研究回顧] 第23号 (1983年) : 47-55; [シンポジウム] 第22巻 (1995) : 53-55; [広場] 第24巻 (1997) : 218-219
 岩本振武 [10周年記念年会シンポジウム] (飯島孝・川井雄・横山輝雄と) 第30号 (1985年) : 15-28

[う]

- 植松英穂 [紹介] 第20巻 (1993) : 201-202
 植村琢 [-研究回顧-] 第10号 (1979年) : 1-4
 潮木守一 [特別講演] 第23巻 (1996) : 96-97
 内田高峰 [資料] (沖久也・目不二雄・伊佐公男・中田隆二と) 第34号 (1986年) : 32-42
 内田正夫 [解説] (脇岡義人・徳元琴代・小峯としえと) 第7号 (1978年) : 46-52; [追悼] (東健一・奥田典夫と) 第9号 (1979年) : 37-38; [特集ラヴワジェ研究入門第7回] 第16巻 (1989) : 173-183
 内野若菜 [広場] (大野誠と) 第19巻 (1992) : 302-305
 宇野友章 [一般講演] 第25巻 (1998) : 83
 鷗浦裕 [紹介] 第20巻 (1993) : 205-206
 梅田淳 [紹介] 第11号 (1979年) : 46-48; [一般講演] 第20号 (1982年) : XVIII; [シンポジウム] 第36号 (1986年) : 133; [紹介] 第22巻 (1995) : 256-259

[え]

- 江崎正直 [特別講演] 第20巻 (1993) : 214; [特集技術史シリーズ第9回] (大谷真夫と) 第21巻 (1994) : 250-277; [特集技術史シリーズ第11回] 第22巻 (1995) : 15-49; [特集技術史シリーズ第14回] 第22巻 (1995) : 197-225; [一般講演] 第22巻 (1995) : 84; [特集技術史シリーズ第16回] 第23巻 (1996) : 15-53; [広場] (日吉芳朗と) 第23巻 (1996) : 258-260; [1999年度シンポジウム] 第25巻 (1998) : 281-282
 延与三知夫 [第2回化学史シンポジウム] 第18巻 (1991) : 104-105

[お]

- 大岩正芳 [解説] 第4号 (1975年) : 20-28; [寄書] (廣田綱蔵と) 第18巻 (1991) : 193-196; [シンポジウム] 第19巻 (1992) : 222
 大作勝 [寄書] (彌宣田久男と) 第7号 (1978年) : 27-31; [一般講演] 第44号 (1988年) : 150; [紹介] 第16巻 (1989) : 38-45
 大沢真澄 [一般講演] 第8号 (1978年) : 40; [シンポジウム] 第11号 (1979年) : 26; [シンポジウム] 第14号 (1980年) : 14; [シンポジウム] 第24号 (1983年) : VI; [10周年記念年会シンポジウム] (鎌谷親善・藤井清久と) 第30号 (1985年) : 3-6; [シンポジウム] (塚原東吾と) 第32号 (1985年) : 157; [1999年度一般講演] 第25巻 (1998) : 295
 大島敬治 [シンポジウム] 第22巻 (1995) : 63-66
 大谷真夫 [特集技術史シリーズ第9回] (江崎正直と) 第21巻 (1994) : 250-277
 太田静行 [特集技術史シリーズ第7回] 第21巻 (1994) : 186-202
 大谷隆昶 [論文抄録] 第15号 (1981年) : 41-42
 大西寛 [広場] 第21巻 (1994) : 302-303; [広場] 第21巻 (1994) : 366-367; [広場] 第22巻 (1995) : 252-254; [広場] 第25巻 (1998) : 256-258; [資料] 第26巻 (1999) : 99-101
 大沼正則 [論文] 第1号 (1974年) : 31-37
 大野誠 [一般講演] 第11号 (1979年) : 40; [紹介] 第11号 (1979年) : 42-45; [論文抄録] 第11号 (1979年) : 21; [論文抄録] 第12号 (1980年) : 46; [紹

- 介] 第13号(1980年): 36; [一般講演] 第20号(1982年): XIX; [一般講演] 第24号(1983年): XIII; [一般講演] 第28号(1984年): XII; [教育シリーズ] 第31号(1985年): 95-107; [広場] 第31号(1985年): 111-118; [紹介] 第33号(1985年): 209; [シンポジウム] 第36号(1986年): 132; [広場] 第37号(1986年): 186-189; [一般講演] 第40号(1987年): 140; [広場] 第41号(1987年): 186-187; [特集ラヴワジェ研究入門] (古川安・柏木肇と) [第42号(1988年): 28-29; [特集ラヴワジェ研究入門第1回] 第42号(1988年): 30-42; [特集ラヴワジェ研究入門第2回] 第43号(1988年): 67-73; [シンポジウム] 第44号(1988年): 141; [広場] 第45号(1988年): 191-195; [討論] 第16卷(1989): 104-110; [特集ラヴワジェ研究入門第6回] (鶴田治と) 第16卷(1989): 72-83; [紹介] 第16卷(1989): 46-47; [紹介] 第16卷(1989): 121-123; [紹介] 第16卷(1989): 125-126; [紹介] 第16卷(1989): 187-195; [シンポジウム] 第16卷(1989): 141; [広場] 第17卷(1990): 173-180; [紹介] 第17卷(1990): 183; [紹介] 第17卷(1990): 184-186; [紹介] 第18卷(1991): 43-45; [紹介] (川崎勝と) 第18卷(1991): 46-47, 99, 162-163, 244-245; [広場] 第19卷(1992): 127-131; [広場] (内野若菜と) 第19卷(1992): 302-305; [紹介] 第19卷(1992): 59-62; [紹介] (川崎勝と) 第19卷(1992): 66-68, 136-138, 214-216, 219; [紹介] 第19卷(1992): 310-311; [寄書] 第20卷(1993): 93-106; [広場] 第20卷(1993): 129-131; [広場] 第20卷(1993): 283-293; [紹介] 第20卷(1993): 58-59; [紹介] 第20卷(1993): 58; [紹介] 第20卷(1993): 302-303; [一般講演] 第20卷(1993): 210; [広場] 第21卷(1994): 205; [紹介] 第21卷(1994): 72-74; [紹介] 第21卷(1994): 75-78; [紹介] 第21卷(1994): 211; [紹介] 第24卷(1997): 63-64; [紹介] (渡辺慶昭と) 第24卷(1997): 175-177, 254-257; [雑報] 第24卷(1997): 258; [一般講演] 第25卷(1998): 87; [特集評伝西洋の化学者] 第26卷(1999): 10
- 大場健吉 [特集技術史シリーズ第13回] (武井玲子と) 第22卷(1995): 127-141
- 大庭成一 [特集技術史シリーズ第21回] 第25卷(1998): 1-19; [特集技術史シリーズ第24回] 第26卷(1999): 2-9; [特集技術史シリーズ第25回] 第26卷(1999): 142-151
- 岡田登 [一般講演] 第11号(1979年): 35; [一般講演] 第14号(1980年): 20
- 岡村誠三 第30号(1985年): 1; [シンポジウム] 第22卷(1995): 56-58
- 岡本拓司 [紹介] 第24卷(1997): 57-59
- 岡本達明 [論文] 第17卷(1990): 8-29
- 小川真里子 [紹介] 第18卷(1991): 37-40; [紹介] 第18卷(1991): 157-161; [科学史研究の新潮流] 第19卷(1992): 110-122; [紹介] 第23卷(1996): 278-279; [シンポジウム] 第23卷(1996): 111-112
- 沖久也 [資料] (内田高峰・目不二雄・伊佐公男・中田隆二と) 第34号(1986年): 32-42
- 奥田典夫 [紹介] 第6号(1977年): 42-43; [追悼] (東健一・内田正夫と) 第9号(1979年): 37-38
- 奥野久輝 [資料] 第9号(1979年): 39-40; 第12号(1980年): 1-9; [追悼] 第19号(1982年): 95; [追悼] 第21号(1982年): 176-177; [追悼] (井本稔・水渡英二・渡辺照と) 第8号(1978年): 19-23
- 尾崎萃 [第2回化学史シンポジウム] 第18卷(1991): 113
- [か]
- 柿原泰 [シンポジウム] 第23卷(1996): 92-93
- 柏典夫 [特集技術史シリーズ第2回] (木岡護・広瀬敬治と) 第19卷(1992): 40-49
- 柏木肇 [論文] 第1号(1974年): 2-10; [紹介] 第1号(1974年): 50-53; [文献解題] 第3号(1975年): 18-46; [雑報] 第4号(1975年): 48; [論文] 第5号(1976年): 12-28; 第8号(1978年): 13-17; [一般講演] 第8号(1978年): 41; [資料] 第9号(1979年): 40-41; [雑報] 第10号(1979年): 4; [雑報] 第10号(1979年): 14; [一般講演] 第11号(1979年): 39; [論文解説] 第13号(1980年): 56-60; [シンポジウム] 第17号(1981年): 5-6; [紹介] 第18号(1982年): 37-40; [教育シリーズ] 第20号(1982年): 104-113; [シンポジウム] 第20号(1982年): IV; [追悼] 第21号(1982年): 177-178; [解説] 第26号(1984年): 30-40; [-巻頭言-] 第29号(1984年): 123-124; [10周年記念年会

- シンポジウム] 第30号 (1985年): 7-14; 第34号 (1986年): 1-2; [-巻頭言-] 第38号 (1987年): 1-3; [シンポジウム] 第40号 (1987年): 134; [特集ラヴワジェ研究入門(大野誠・古川安と)第42号 (1988年): 28-29; [巻頭言] 第16巻 (1989): 1-3; [-巻頭言-50号発刊を迎えて] 第17巻 (1990): 3-7; [広場] 第18巻 (1991): 144-150; [広場] 第19巻 (1992): 290-293; [一般講演] 第22巻 (1995): 72; [シンポジウム] 第23巻 (1996): 104-106; [1999年度シンポジウム] 第25巻 (1998): 274-275
- 梶雅範 [一般講演] 第25巻 (1998): 88; [特集評伝西洋の化学者第1回] I. S. ドミートリエフ(梶雅範訳・解説)「第26巻 (1999): 11-33
- 勝村龍雄 [特集技術史シリーズ第18回(徳田晉吾と) 第23巻 (1996): 311-331
- 加藤秋男 [解説(橋本哲太郎・山岡正和と) 第25号 (1983年): 140-153
- 加藤茂生 [紹介] 第23巻 (1996): 195-196; [紹介] 第23巻 (1996): 345-346; [シンポジウム] 第24巻 (1997): 91-92
- 加藤百一 [シンポジウム] (鎌谷親善と) 第20巻 (1993): 229-230
- 金森修 [論文] 第44号 (1988年): 101-111, 118; [特集ラヴワジェ研究入門第10回] 第18巻 (1991): 211-220; [紹介] 第18巻 (1991): 95-98; [紹介] 第23巻 (1996): 79; [紹介] 第23巻 (1996): 80
- 鎌谷親善 [論文] 第1号 (1974年): 11-22; [論文] 11-17; [一般講演] 第8号 (1978年): 36; [一般講演] (亀山哲也と) 第8号 (1978年): 37; [紹介] 第9号 (1979年): 42-44; [論文] (亀山哲也と) 第10号 (1979年): 15-26; [一般講演] 第11号 (1979年): 34; [会報] 第12号 (1980年): 43; [論文] 第15号 (1981年): 13-28; [論文] 第16号 (1981年): 8-21; [一般講演] 第17号 (1981年): 19; [一般講演] (亀山哲也と) 第17号 (1981年): 20; [論文] 第19号 (1982年): 59-80; [紹介] 第20号 (1982年): 116; [紹介] 第20号 (1982年): 117; [会報] 第20号 (1982年): 120; [一般講演] 第20号 (1982年): XII; [論文] 第24号 (1983年): 95-110; [論文] 第25号 (1983年): 127-139; [紹介] 第28号 (1984年): 106; [10周年記念年会シンポジウム] (藤井清久・大沢真澄と) 第30号 (1985年): 3-6; [紹介] 第31号 (1985年): 120-121; [シンポジウム] 第32号 (1985年): 153; [論文] 第35号 (1986年): 49-71; [シンポジウム] 第36号 (1986年): 134; [論文] 第40号 (1987年): 97-115; [論文] 第41号 (1987年): 147-163; [一般講演] 第44号 (1988年): 147; [一般講演] 第16巻 (1989): 147; [化学史シンポジウム] 第17巻 (1990): 105; [論文] 第18巻 (1991): 115-136; [紹介] 第18巻 (1991): 153-156; [シンポジウム] 第18巻 (1991): 171; [論文] 第19巻 (1992): 14-35, 73-104; [第3回化学史シンポジウム] 第19巻 (1992): 145-146; [論文] 第20巻 (1993): 65-92; [シンポジウム] 第20巻 (1993): 216; [シンポジウム] (加藤百一と) 第20巻 (1993): 229-230; [論文] 第21巻 (1994): 1-37; [論文] 第21巻 (1994): 109-151; [論文] 第21巻 (1994): 309-332; [シンポジウム] 第21巻 (1994): 101-102; [論文] 第22巻 (1995): 85-113; [紹介] 第22巻 (1995): 255; [一般講演] 第22巻 (1995): 69; [論文] 第23巻 (1996): 119-146; [論文] 第23巻 (1996): 205-23; [紹介] 第23巻 (1996): 189-190; [一般講演] 第23巻 (1996): 85; [論文] 第24巻 (1997): 1-32; [論文] 第24巻 (1997): 105-147; [一般講演] 第24巻 (1997): 101; [1997年度化学史シンポジウム] 第24巻 (1997): 183-184; [1997年度化学史秋の学校] 第24巻 (1997): 191
- 上仲博 [広場] 第21巻 (1994): 364-365; [特集技術史シリーズ第15回] 第22巻 (1995): 288-299; [一般講演] 第22巻 (1995): 81-82; [広場] 第23巻 (1996): 332-334; [1997年度化学史秋の学校] 第24巻 (1997): 188; [特集技術史シリーズ第22回] 上第25巻 (1998): 126-138; [広場] 第25巻 (1998): 20-22
- 亀井修 [一般講演] 第23巻 (1996): 86; [シンポジウム] (高安礼士と) 第24巻 (1997): 81-86
- 亀山哲也 [一般講演] (鎌谷親善と) 第8号 (1978年): 37; [論文] (鎌谷親善と) 第10号 (1979年): 15-26; [一般講演] (鎌谷親善と) 第17号 (1981年): 20; [資料] 第18号 (1982年): 32-37; [紹介] 第19号 (1982年): 94; [広場] 第25号 (1983年): 162-163; [技術資料] 第31号 (1985年): 108-110; [広場] 第16巻 (1989): 184-186; [紹介] 第16巻

- (1989): 88-90; [広場] 第17巻(1990): 181-182; [広場] (飯島孝と) 第18巻(1991): 235-237; [広場] (飯島孝と) 第20巻(1993): 54-5; [紹介] 第23巻(1996): 341; [-巻頭言-] 第26巻(1999): 1
- 唐木田健一 [討論] 第33号(1985年): 186-192; [討論] 第45号(1988年): 185-190; [寄書] 第16巻(1989): 49-54; [紹介] 第25巻(1998): 214-216
- 刈米孝夫 [特集技術史シリーズ第12回] 第22巻(1995): 114-126
- 川合智 [シンポジウム] (川合章子と) 第44号(1988年): 142; [-一般講演] 第16巻(1989): 143; [-一般講演] 第19巻(1992): 232; [特集技術史シリーズ第5回] 第20巻(1993): 259-282; [-一般講演] 第20巻(1993): 212; [-一般講演] 第23巻(1996): 87-88
- 川合章子 [シンポジウム] (川合智と) 第44号(1988年): 142
- 川上行蔵 [資料] 第21巻(1994): 358-361
- 川越重昌 [シンポジウム] 第20巻(1993): 225-226
- 川崎勝 [-一般講演] 第40号(1987年): 139; [広場] 第42号(1988年): 43-46; [広場] 第43号(1988年): 89-92, 99; [特集ラヴワジェ研究入門第4回] 第44号(1988年): 119-134; [広場] 第16巻(1989): 112-119; [シンポジウム] 第16巻(1989): 137; [化学史シンポジウム] 第17巻(1990): 99; [特集ラヴワジェ研究入門第9回] 第18巻(1991): 137-143; [紹介] (大野誠と) 第18巻(1991): 46-47, 99, 162-163, 244-245; [-一般講演] 第18巻(1991): 175; [論文] 第19巻(1992): 159-171; [紹介] (大野誠と) 第19巻(1992): 66-68, 136-138, 214-216, 219; [広場] 第20巻(1993): 297-301; [シンポジウム] 第23巻(1996): 90-91
- 川島昭夫 [特別講演] 第16巻(1989): 132
- 川島慶子 [広場] 第17巻(1990): 51-52; [特集ラヴワジェ研究入門第11回] 第19巻(1992): 188-204; [紹介] 第19巻(1992): 312; [紹介] 第20巻(1993): 57-58; [論文] 第22巻(1995): 163-179; [広場] 第23巻(1996): 335-338; [紹介] 第23巻(1996): 193-194; [論文] 第24巻(1997): 261-280; [紹介] 第24巻(1997): 60-62; [討論] 第25巻(1998): 194-209; [-一般講演] 第25巻(1998): 86; [紹介] 第26巻(1999): 55-57; [雑報] 第26巻(1999): 58-59
- 川島真人 [シンポジウム] 第21巻(1994): 95-96
- 川井雄 [教育シリーズ] 第17号(1981年): 33-4; [教育シリーズ] 第23号(1983年): 75-82; [10周年記念年会シンポジウム] (飯島孝・岩本振武・横山輝雄と) 第30号(1985年): 15-28; [解説] 第30号(1985年): 47-56; [解説] 第39号(1987年): 77-85; [解説] 第16巻(1989): 11-19
- 川田勝 [論文] 第22巻(1995): 263-287; [論文] 第23巻(1996): 285-301; [紹介] 第23巻(1996): 72-73; [シンポジウム] 第23巻(1996): 100-101; [紹介] 第24巻(1997): 173-175; [論文] 第25巻(1998): 108-125
- 河原林泰雄 [論文] 第6号(1977年): 6-19; [-一般講演] 第8号(1978年): 47; [論文] 第9号(1979年): 1-8; [論文] 第10号(1979年): 27-38; [シンポジウム] 第17号(1981年): 7-8; [シンポジウム] 第40号(1987年): 135

[き]

木岡護 [特集技術史シリーズ第2回] (広瀬敬治・柏典夫と) 第19巻(1992): 40-49

菊池好行 [紹介] 第23巻(1996): 191-192; [資料] 第24巻(1997): 232-248; [-一般講演] 第25巻(1998): 82; [1999年度シンポジウム] 第25巻(1998): 279-280; [1999年度一般講演] 第25巻(1998): 294; [紹介] ピーター・モリス著(菊池好行訳) 第26巻(1999): 45-54; [資料] 第26巻(1999): 102-112

鬼頭秀一 [化学史シンポジウム] 第17巻(1990): 100

木下圭三 [-一般講演] (後藤良造と) 第28号(1984年): VIII; [解説] (後藤良造と) 第31号(1985年): 86-94; [シンポジウム] 第32号(1985年): 158; [-一般講演] (田中和男と) 第36号(1986年): 136; [-一般講演] (田中和男と) 第40号(1987年): 142; [寄書] (田中和男と) 第43号(1988年): 53-62

木村健二郎 第6号(1977年): 1-5

[く]

楠本寿一 [招待講演] 第21巻(1994): 90-92

久保田尚志 [解説] 第7号(1978年): 34-45

熊谷陽一 [-一般講演] 第8号(1978年): 39; [論文] 第

- 21号(1982年): 135-142
熊野齋從 [シンポジウム] 第20巻(1993): 227-228
熊山陽一 [一般講演] 第24号(1983年): XV
- [こ]
- 幸田正孝 [シンポジウム] 第25巻(1998): 63-65
河野俊哉 [1999年度一般講演] 第25巻(1998): 285-286
鴻野わか菜 [紹介] 第24巻(1997): 65-66
小塩玄也 [シンポジウム] 第11号(1979年): 27; [紹介] 第17号(1981年): 41-42; [教育シリーズ] 第18号(1982年): 20-31; [紹介] 第23号(1983年): 83; [紹介] 第26号(1984年): 41-42; [紹介] 第27号(1984年): 83-84; [紹介] 第29号(1984年): 162-163; [紹介] 第31号(1985年): 119-120; [紹介] 第35号(1986年): 87-88; [紹介] 第42号(1988年): 49-51; [シンポジウム] 第16巻(1989): 133; [紹介] 第19巻(1992): 135-136; [広場](林良重と) 第21巻(1994): 203-204; [紹介] 第22巻(1995): 158
小竹無二雄 [-巻頭言-] 第4号(1975年): 1-4
小寺熊三郎 [特別講演] 第7号(1978年): 1-8
後藤実 [1997年度化学史秋の学校] 第24巻(1997): 187
後藤良造 [解説] 第12号(1980年): 20-30; [解説] 第13号(1980年): 14-36; [一般講演](木下圭三と) 第28号(1984年): VIII; [解説](木下圭三と) 第31号(1985年): 86-94
小松真理子 [論文抄録] 第15号(1981年): 43; [論文抄録] 第17号(1981年): 43; [紹介] 第24巻(1997): 171-173
小峯としえ [解説](脇岡義人・内田正夫・徳元琴代と) 第7号(1978年): 46-52
小森田精子 [一般講演] 第36号(1986年): 139; [広場] 第19巻(1992): 52-56
- [さ]
- 斎藤憲 [紹介] 第24巻(1997): 251-254
斎藤茂樹 [原典翻訳] 第2号(1974年): 40-50; [原典翻訳] 第6号(1977年): 33-39; [一般講演] 第8号(1978年): 44; [一般講演] 第14号(1980年): 23; [一般講演] 第20号(1982年): XVII; [一般講演] 第24号(1983年): XVI; [一般講演] 第32号(1985年): 162; [一般講演](松尾幸季と) 第44号(1988年): 145
斎藤光 [シンポジウム] 第23巻(1996): 116-117
斎藤信房 [特集日本の化学者第3回] 第23巻(1996): 302-310
斎藤喜彦 [論文] 第20巻(1993): 141-160; [第4回化学史シンポジウム] 第20巻(1993): 138
佐伯康治 [特集技術史シリーズ第3回] 第19巻(1992): 267-281; [一般講演] 第20巻(1993): 213; [特集技術史シリーズ第10回] 第21巻(1994): 333-344; [第5回化学史シンポジウム] 第21巻(1994): 215
坂野徹 [論文] 第22巻(1995): 180-196; [紹介] 第23巻(1996): 197-198
榊友彦 [紹介] 第6号(1977年): 40-42; [書評] 第16号(1981年): 44-47
坂口勝彦 [紹介] 第23巻(1996): 282
阪上信次 [一般講演] 第24巻(1997): 99
阪上正信 [招待講演] 第11号(1979年): 3-13; [一般講演] 第17号(1981年): 13; [追悼] 第27号(1984年): 77-80; [一般講演] 第28号(1984年): XV; [広場] 第33号(1985年): 202-204; [一般講演](天野良平と) 第36号(1986年): 143; [一般講演] 第44号(1988年): 151; [一般講演] 第17巻(1990): 146; [シンポジウム] 第19巻(1992): 227; [広場] 第23巻(1996): 167-; [一般講演] 第23巻(1996): 99; [特集日本の化学者第4回] 第24巻(1997): 157-168; [一般講演] 第24巻(1997): 98; [1999年度一般講演] 第25巻(1998): 289; [寄書] 第26巻(1999): 152-157
坂巻幸雄 [シンポジウム] 第25巻(1998): 73-74
目不二雄 [資料](内田高峰・沖久也・伊佐公男・中田隆二と) 第34号(1986年): 32-42
笹川澄子 [シンポジウム] 第25巻(1998): 69-70
佐佐木行美 [資料](立花太郎と) 第18巻(1991): 23-32, 85-91; [シンポジウム](立花太郎と) 第18巻(1991): 169; [資料] 第21巻(1994): 362-363
佐藤公彦 [特集技術史シリーズ第19回] 第24巻(1997): 148-156
佐藤正平 [一般講演] 第32号(1985年): 163
佐藤正弥 [特集技術史シリーズ第8回] 第21巻

(1994): 234-249; [一般講演] 第21巻 (1994): 84; [特別講演] 第22巻 (1995): 78-80; [特集技術史シリーズ第17回] 第23巻 (1996): 235-250; [一般講演] 第23巻 (1996): 89; [寄書] 第24巻 (1997): 33-41; [一般講演] 第24巻 (1997): 100
 佐藤道洋 [紹介] 第18巻 (1991): 240-241
 島原健三 [雑報] 第26号 (1984年): 20; [紹介] 第28号 (1984年): 107-108; [紹介] 第32号 (1985年): 145-146; [雑報] 第37号 (1986年): 191; [紹介] 第39号 (1987年): 90-92; [紹介] 廖正衡 (島原健三訳) 第43号 (1988年): 93-96; [特集ラヴワジェ研究入門第5回] 第16巻 (1989): 20-29; [雑報] 第17巻 (1990): 52; [紹介] 第23巻 (1996): 342-344
 三時眞貴子 [科学史研究の新潮流] 第26巻 (1999): 65-78; [1999年度一般講演] 第25巻 (1998): 284; [紹介] 第26巻 (1999): 177-178

[し]

塩川久男 [論文] 第6号 (1977年): 20-24; [論文] 第7号 (1978年): 20-26; [課題講演] 第8号 (1978年): 34-35; [一般講演] 第14号 (1980年): 19; [一般講演] 第24号 (1983年): XVIII
 潮見浩 [特別講演] 第17号 (1981年): 3
 紫藤貞昭 [シンポジウム] 第11号 (1979年): 28
 芝哲夫 [論文] 第18号 (1982年): 1-16; [広場] 第37号 (1986年): 190-191; [紹介] 第17巻 (1990): 55-56; [巻頭言] 第18巻 (1991): 1-3; [広場] 第19巻 (1992): 50-51; [紹介] 第19巻 (1992): 57; [シンポジウム] 第19巻 (1992): 228; [シンポジウム] 第21巻 (1994): 93-94; [紹介] 第22巻 (1995): 155; [資料] 第22巻 (1995): 239-251; [広場] 第23巻 (1996): 68-69; [紹介] 第23巻 (1996): 77-78; [雑報] 第23巻 (1996): 261-264; [1997年度化学史シンポジウム] 第24巻 (1997): 181-182; [1997年度化学史秋の学校] 第24巻 (1997): 190; [資料] 第25巻 (1998): 26-40; [紹介] 第25巻 (1998): 170-171; [シンポジウム] 第25巻 (1998): 66-68; [1999年度一般講演] 第25巻 (1998): 293
 芝崎勲 [シンポジウム] 第24巻 (1997): 74-75
 柴田和子 [教育シリーズ] 第16巻 (1989): 154-172; [シンポジウム] 第16巻 (1989): 139

柴田承二 [1997年度化学史秋の学校] 第24巻 (1997): 192
 島尾永康 [紹介] 第30号 (1985年): 57-67; [シンポジウム] 第32号 (1985年): 156; [総説] 第35号 (1986年): 72-81; [紹介] 第36号 (1986年): 124-126; [紹介] 第39号 (1987年): 86-89; [紹介] 第45号 (1988年): 196-197; [紹介] 第16巻 (1989): 92-94; [総説] 第18巻 (1991): 197-210; [紹介] 第18巻 (1991): 92-94; [紹介] 第23巻 (1996): 342-344; [広場] 第26巻 (1999): 96-98
 下坂英 [紹介] 第19巻 (1992): 58, 62
 下山純正 [シンポジウム] 第25巻 (1998): 75-76
 城島俊夫 [特集技術史シリーズ第4回] 第20巻 (1993): 161-200
 神保元二 [化学史シンポジウム] 第17巻 (1990): 104; [第5回化学史シンポジウム] 第21巻 (1994): 214

[す]

水波英二 [追悼] (奥野久輝・井本稔・渡辺熙と) 第8号 (1978年): 19-23; [解説] 第22号 (1983年): 19-32
 須賀操平 [招待講演] 第11号 (1979年): 14-17
 菅原健 [特別講演] 第15号 (1981年): 1-7
 菅原国香 [一般講演] 第17号 (1981年): 17, 19; [一般講演] 第20号 (1982年): X; [論文] 第28号 (1984年): 89-96; [論文] 第38号 (1987年): 29-40; [広場] 第41号 (1987年): 179-182; [一般講演] 第44号 (1988年): 143; [紹介] 第45号 (1988年): 198-200; [シンポジウム] 第19巻 (1992): 223; [シンポジウム] 第21巻 (1994): 105-106; [一般講演] 第25巻 (1998): 80; [1999年度一般講演] 第25巻 (1998): 291
 杉下龍一郎 [寄書] 第9号 (1979年): 19-22
 杉原博 [シンポジウム] 杉第24巻 (1997): 80
 杉山滋郎 [特集ラヴワジェ研究入門第3回] 第43号 (1988年): 74-85; [論文] 第18巻 (1991): 179-192; [紹介] 第18巻 (1991): 242-243; [シンポジウム] (伊藤伸子と) 第23巻 (1996): 113-115
 鈴木晃仁 [科学史研究の新潮流] 第20巻 (1993): 37-53
 鈴木啓志 [特別講演] 第23巻 (1996): 107-109
 鈴木ゆり子 [シンポジウム] 第20巻 (1993): 231-232

砂川茂 [特集技術史シリーズ第20回]第24巻(1997):
281-294; [シンポジウム] (諫山宗生と) 第24巻
(1997): 72-73

[せ]

関集三 [特集日本の化学者第8回] 第25巻(1998):
241-255

関崎正夫 [一般講演] 第11号(1979年): 30; [一般講演]
(米田昭二郎と) 第19巻(1992): 229; [一般講演]
(米田昭二郎と) 第21巻(1994): 87

[そ]

宗田一 [寄書] 第5号(1976年): 44-46; [寄書] 第21
号(1982年): 154-160; [シンポジウム] 第24号
(1983年): X; [シンポジウム] 第19巻(1992):
220; [紹介] 第20巻(1993): 132

相馬順一 [一般講演] 第8号(1978年): 38

[た]

高木徳二 [第2回化学史シンポジウム特別講演] 第18
巻(1991): 101-102

高木俊夫 [研究回顧] 第19巻(1992): 205-211

高島直一 [特別講演] 第20巻(1993): 215

高橋健 第42号(1988年): 1-7, 12

高瀬勉 [第5回化学史シンポジウム] 第21巻(1994):
212

高橋詢 [紹介] 第6号(1977年): 43-44

高橋哲郎 [シンポジウム] 第11号(1979年): 22; [シ
ンポジウム] 第40号(1987年): 132

高橋求 [一般講演] 第18巻(1991): 172

高宮信夫 [第2回化学史シンポジウム] 第18巻
(1991): 109-110; [第3回化学史シンポジウム] 第
19巻(1992): 154-155

高安礼士 [シンポジウム] (亀井修と) 第24巻(1997):
81-86

武井玲子 [特集技術史シリーズ第13回] (大場健吉と)
第22巻(1995): 127-141

竹内敬人 [第4回化学史シンポジウム] 第20巻
(1993): 134-135

竹林松二 [寄書] 第6号(1977年): 25-26; [寄書] 第
7号(1978年): 32-33; [一般講演] 第8号(1978
年): 45; [一般講演] 第11号(1979年): 31; [一般

講演] 第14号(1980年): 24; [雑報] 第15号(1981
年): 44; 第16号(1981年): 1-7; [一般講演] 第17
号(1981年): 12; [一般講演] 第20号(1982年):
VX; [一般講演] 第24号(1983年): XVII; [寄
書] 第26号(1984年): 17-20; [一般講演] 第28号
(1984年): XIII; [教育シリーズ] 第29号(1984
年): 156-160; [寄書] 第31号(1985年): 81-85;
[一般講演] 第32号(1985年): 165; [寄書] 第34
号(1986年): 15-20; [一般講演] 第36号(1986
年): 141; [寄書] 第39号(1987年): 73-76; [一
般講演] 第40号(1987年): 143; [寄書] 第42号
(1988年): 8-12; [一般講演] 第44号(1988年):
152; [寄書] 第16巻(1989): 4-10; [寄書] 第16巻
(1989): 149-153; [一般講演] 第16巻(1989):
144; [一般講演] 第17巻(1990): 148; [寄書] 第
18巻(1991): 4-10; [寄書] 第19巻(1992): 36-
39; [寄書] 第19巻(1992): 105-109; [寄書] 第
19(1992): 262-266; [寄書] 第20巻(1993): 20-
24

武森重樹 [課題講演] 第17号(1981年): 10

立花太郎 [解説] 第9号(1979年): 23-36; [解説] 第
10号(1979年): 39-47; [追悼] 第23号(1983年):
84-85; [広場] 第25号(1983年): 161; [-巻頭言
-] 第29号(1984年): 125; [論文] 第33号(1985
年): 167-177; [寄書] 第39号(1987年): 61-72;
[紹介] 第41号(1987年): 188; [寄書] 第45号
(1988年): 155-162; [紹介] 第16巻(1989): 90-
92; [-巻頭言-50号発刊を迎えて] 第17巻(1990):
1-2; [資料] (佐佐木行美と) 第18巻(1991): 23-
32, 85-91; [シンポジウム] (佐佐木行美と) 第18巻
(1991): 169; [論文] 第19巻(1992): 1-13; [論
文] 第22巻(1995): 1-14; [資料] 第23巻(1996):
265-268; [寄書] 第25巻(1998): 229-240

立入明 [一般講演] 第14号(1980年): 21; [技術資料]
第33号(1985年): 193-200

田中穆 [寄書] 第37号(1986年): 169-185; [論文] 第
19巻(1992): 172-187, 247-261; [論文] 第20巻
(1993): 243-258; [論文] 第23巻(1996): 1-14;
[論文] 第23巻(1996): 147-166; [論文] 第25巻
(1998): 177-194

田中和男 [一般講演] (木下圭三と) 第36号(1986年):
136; [一般講演] (木下圭三と) 第40号(1987年):

- 142; [寄書] (木下圭三と) 第43号 (1988年): 53-62
- 田中直 [特集技術史シリーズ第6回] 第21巻 (1994): 60-69
- 田中浩朗 [広場] 第17巻 (1990): 50; [広場] 第17巻 (1990): 83-90; [紹介] 第18巻 (1991): 238-239 [紹介] 第22巻 (1995): 359; [1999年度シンポジウム] 第25巻 (1998): 277-278
- 田中実 [広場] 第1号 (1974年): 10; [雑報] 第2号 (1974年): 54
- 田中泰夫 [広場] 第18巻 (1991): 19-20; [広場] 第18巻 (1991): 232-234; [解説] 第19巻 (1992): 282-289; [解説] 第20巻 (1993): 25-36
- 田辺振太郎 [論文] 第2号 (1974年): 3-10; [論文] 第3号 (1975年): 4-10; [紹介] 第10号 (1979年): 48-52
- 五虫文一 [-巻頭言-] 第1号 (1974年): 1; [特別講演] 第8号 (1978年): 1-6; [-広場-] 第12号 (1980年): 47; [広場] 第20号 (1982年): 114
- 田丸謙二 [雑報] 第21巻 (1994): 304-305; [特別講演] 第22巻 (1995): 76-77
- 丹沢宏 [シンポジウム] 第22巻 (1995): 67-68; [広場] 第23巻 (1996): 181-185
- [ち]
- 千野光芳 [一般講演] 第11号 (1979年): 36; [一般講演] 第14号 (1980年): 15; [一般講演] 第17号 (1981年): 18; [一般講演] 第20号 (1982年): IX; [シンポジウム] 第24号 (1983年): V; [シンポジウム] 第32号 (1985年): 159; [一般講演] 第36号 (1986年): 137; [一般講演] 第40号 (1987年): 137; [一般講演] 第44号 (1988年): 146; [一般講演] 第17巻 (1990): 147
- [つ]
- 塚原東吾 [シンポジウム] (大沢真澄と) 第32号 (1985年): 157; [シンポジウム] 第19巻 (1992): 226; [一般講演] 第21巻 (1994): 83; [紹介] 第22巻 (1995): 156-157; [紹介] 第22巻 (1995): 260-261; [一般講演] 第22巻 (1995): 73; [シンポジウム] 第23巻 (1996): 110; [シンポジウム] 第25巻 (1998): 57-58; [紹介] 第26巻 (1999): 122
- 塚原徳道 [論文] 第1号 (1974年): 23-30; [論文] 第5号 (1976年): 29-35; [寄書] 第6号 (1977年): 27-28
- 塚原康子 [シンポジウム] 第25巻 (1998): 59-60
- 辻和一郎 [特集日本の化学者第5回] 第24巻 (1997): 205-217
- 津田覚 [化学史シンポジウム] 第17巻 (1990): 101-102
- 坪井正道 [特集日本の化学者第1回] 第22巻 (1995): 142-151
- 鶴田禎二 [雑報] 第22巻 (1995): 50-52
- 鶴田利行 [一般講演] 第22巻 (1995): 83
- 鶴田治之 [一般講演] 第36号 (1986年): 142; [特集ラヴウジェ研究入門第6回] (大野誠と) 第16巻 (1989): 72-83
- [て]
- 寺川智祐 [シンポジウム] 第14号 (1980年): 7-8
- 寺田裕 [特集技術史シリーズ第1回] 第18巻 (1991): 221-231
- 寺畑喜朔 [招待講演] 第11号 (1979年): 18-21
- [と]
- 土井康弘 [シンポジウム] (大沢真澄と) 第19巻 (1992): 224; [シンポジウム] 第21巻 (1994): 103-104; [一般講演] 第22巻 (1995): 74; [一般講演] 第25巻 (1998): 81
- 徳田晉吾 [特集技術史シリーズ第18回] (勝村龍雄と) 第23巻 (1996): 311-331
- 徳元琴代 [解説] (脇岡義人・内田正夫・小峯としえと) 第7号 (1978年): 46-52
- 戸田一郎 [シンポジウム] 第40号 (1987年): 130
- 鳥山由子 [シンポジウム] 第14号 (1980年): 5-6
- [な]
- 中垣良一 [一般講演] 第17号 (1981年): 11; [寄書] 第18号 (1982年): 17-19; [紹介] 第19号 (1982年): 93; [論文紹介] 第29号 (1984年): 163; [広場] 第23巻 (1996): 251-257
- 中川正澄 [教育シリーズ] 第27号 (1984年): 68-74
- 中島三喜男 [論文] 第30号 (1985年): 31-46
- 永嶋正春 [シンポジウム] 第24巻 (1997): 87-88
- 中田隆二 [資料] (内田高峰・沖久也・目不二雄・伊佐

公男と) 第34号(1986年): 32-42

- 中塚五郎 [シンポジウム] 第11号(1979年): 23
 中辻慎一 [紹介] 第40号(1987年): 116-123; [教育シリーズ] (日吉芳朗と) 第44号(1988年): 112-118; [原典翻訳] (日吉芳朗と) 第24巻(1997): 316-328
 中西啓 [招待講演] 第21巻(1994): 89
 仲野泰裕 [シンポジウム] 第20巻(1993): 221-222; [特集日本における伝統技術と化学] 第21巻(1994): 152-171
 中原勝儼 [紹介] 第34号(1986年): 46-47; [教育シリーズ] 第17巻(1990): 30-49
 永松一夫 [追悼] 第21号(1982年): 178-180; [シンポジウム] 第24号(1983年): VIII; [一般講演] 第28号(1984年): IX; [広場] 第29号(1984年): 161; [一般講演] 第32号(1985年): 161; [広場] 第38号(1987年): 40, 41-43
 中村馨 [寄書] 第4号(1975年): 16-19
 中村征樹 [1999年度一般講演] 第25巻(1998): 287
 中山茂 第15号(1981年): 12
 中山政紀 [一般講演] (日吉芳朗と) 第36号(1986年): 140; [教育シリーズ] (日吉芳朗と) 第42号(1988年): 13-20; [広場] (日吉芳朗と) 第16巻(1989): 30-34
 中山沃 [シンポジウム] 第25巻(1998): 77-78
 永山升三 [技術資料] 第34号(1986年): 43-45
 成定薫 [課題講演] 第8号(1978年): 30-31; [原典翻訳] 第15号(1981年): 29-41; [広場] 第24号(1983年): 116-117; [シンポジウム] 第16巻(1989): 136; [化学史シンポジウム学] 第17巻(1990): 98
 難波恒雄 [特別講演] 第40号(1987年): 126-127
 南泰裕 [シンポジウム] 第24巻(1997): 96-97

[に]

- 西村秀雄 [紹介] 第21巻(1994): 364, 368-369
 仁田勇 [-巻頭言-] 第2号(1974年): 1-2; [特別講演] 第24号(1983年): III; 第25号(1983年): 123-126
 丹羽淳 [解説] 第42号(1988年): 21-28

[ね]

- 福宣田久男 [寄書] (大作勝と) 第7号(1978年): 27-31; [教育シリーズ] 第24号(1983年): 111-115

[の]

- 野尻佳与子 [1997年度化学史秋の学校] (青木允夫と) 第24巻(1997): 189
 野副鉄男 [研究回顧] 第5号(1976年): 1-11
 野田四郎 [紹介] 第41号(1987年): 189-191
 野中靖臣 [広場] 第37号(1986年): 192; [広場] 第42号(1988年): 46-47; [広場] 第18巻(1991): 21-22
 野原建一 [シンポジウム] 第20巻(1993): 217-218; [特集日本における伝統技術と化学] 第21巻(1994): 38-46

[は]

- 羽片俊夫 [紹介] 第23巻(1996): 71
 橋本毅彦 [紹介] 第19巻(1992): 133-135; [紹介] 第19巻(1992): 133-135; [科学史研究の新潮流] 第20巻(1993): 107-121; [紹介] 第23巻(1996): 74-76; [紹介] 第23巻(1996): 186-187; [紹介] 第23巻(1996): 199-200; [シンポジウム] 第23巻(1996): 94-95; [1999年度一般講演] 第25巻(1998): 292
 橋本哲太郎 [解説] (加藤秋男・山岡正和と) 第25号(1983年): 140-153
 橋本南都子 [一般講演] 第22巻(1995): 75
 畑一夫 [特別講演] 第28号(1984年): III-IV
 畑晋 [解説] 第34号(1986年): 21-31
 服部一敏 [シンポジウム] 第20号(1982年): V-VI
 林太郎 第13号(1980年): 1-13
 林真理 [紹介] 第23巻(1996): 339-340
 林良重 [教育シリーズ] 第16号(1981年): 28; [追悼] 第21号(1982年): 181-182; [シンポジウム] 第32号(1985年): 155; [広場] 第36号(1986年): 114-120; [紹介] 第17巻(1990): 53-54; [広場] 第19巻(1992): 123-126; [一般講演] 第19巻(1992): 230; [広場] (小塩玄也と) 第21巻(1994): 203-204; [シンポジウム] 第24巻(1997): 70
 原田馨 [ベンゼン祭100年記念特別講演] 第17巻

(1990): 144; [広場] 第20巻 (1993): 294-296; [広場] 第22巻 (1995): 300-308; [広場] 第23巻 (1996): 171-180; [紹介] 第23巻 (1996): 275-277; [広場] 第24巻 (1997): 42-56; [広場] 第24巻 (1997): 226-231; [広場] 第24巻 (1997): 306-313; [広場] 第26巻 (1999): 168-176

[ひ]

東健一 [解説] 第6号 (1977年): 29-32; [追悼] (奥田典夫・内田正夫と) 第9号 (1979年): 37-38

東徹 [シンポジウム] 第25巻 (1998): 61-62

脇岡義人 [広場] 第1号 (1974年): 53-54; [論文] 第2号 (1974年): 24-39; [解説] (内田正夫・徳元琴代・小峯としえと) 第7号 (1978年): 46-52

日吉芳朗 [一般講演] 第8号 (1978年): 42; [一般講演] 第11号 (1979年): 29; [シンポジウム] 第14号 (1980年): 12-13; [一般講演] 第20号 (1982年): XIII; [教育シリーズ] 第21号 (1982年): 143-153; [寄書] 第23号 (1983年): 56-60; [一般講演] 第28号 (1984年): XI; [一般講演] (中山政紀と) 第36号 (1986年): 140; [シンポジウム] 第40号 (1987年): 131; [教育シリーズ] (中山政紀と) 第42号 (1988年): 13-20; [教育シリーズ] (中辻慎一と) 第44号 (1988年): 112-118; [教育シリーズ] 第16巻 (1989): 97-103; [広場] (中山政紀と) 第16巻 (1989): 30-34; [一般講演] 第16巻 (1989): 142; [教育シリーズ] 第18巻 (1991): 11-18; [一般講演] 第18巻 (1991): 173; [広場] 第19巻 (1992): 294-301; [一般講演] 第19巻 (1992): 231; [寄書] 第21巻 (1994): 345-357; [一般講演] 第21巻 (1994): 82; [寄書] 第23巻 (1996): 54-67; [広場] (江崎正直と) 第23巻 (1996): 258-260; [原典翻訳] (中辻慎一と) 第24巻 (1997): 316-328; [広場] 第25巻 (1998): 23-25; [1999年度一般講演] 第25巻 (1998): 290; [追悼] 第26巻 (1999): 119-121

平野二郎 [第5回化学史シンポジウム] 第21巻 (1994): 213

広瀬敬治 [特集技術史シリーズ第2回] (木岡護・柏典夫と) 第19巻 (1992): 40-49

廣田鋼蔵 [解説] 第5号 (1976年): 36-43, 46; [資料] 第12号 (1980年): 31-33; [一般講演] (山口達明

と) 第14号 (1980年): 18; [雑報] 第16号 (1981年): 42-43; [広場] 第18号 (1982年): 19; [論文] 第19号 (1982年): 49-58; [一般講演] (山口達明と) 第20号 (1982年): XVI; [広場] 第22号 (1983年): 43-45; [資料] 第25号 (1983年): 166-168; [論文] 第26号 (1984年): 1-9; [広場] 第27号 (1984年): 75-76; [特別講演] 第28号 (1984年): V-VI; [広場] 第36号 (1986年): 123-124; [論文] 第37号 (1986年): 145-158; [広場] 第41号 (1987年): 176-178; [広場] 第17巻 (1990): 80-82; [寄書] (大岩正芳と) 第18巻 (1991): 193-196; [第2回化学史シンポジウム特別講演] 第18巻 (1991): 103; [研究回顧] 第21巻 (1994): 278-296; [広場] (荒木恒夫と) 第24巻 (1997): 220-225; [広場] 第25巻 (1998): 159

[ふ]

福井謙一 [第1回化学史シンポジウム特別講演] 第18巻 (1991): 51-63

藤井清久 [論文] 第2号 (1974年): 11-15; [紹介] 第2号 (1974年): 51-54; [紹介] 第3号 (1975年): 47-49; [論文] 第4号 (1975年): 5-15; [論文] 第7号 (1978年): 9-19; [新刊紹介] 第8号 (1978年): 28; [課題講演] 第8号 (1978年): 32-33; [論文] 第10号 (1979年): 5-14; [資料] 第12号 (1980年): 36-43; [論文抄録] 第15号 (1981年): 42-43; [教育シリーズ] 第16号 (1981年): 29-38; [シンポジウム] 第17号 (1981年): 4; [紹介] 第18号 (1982年): 40-42; [広場] 第24号 (1983年): 118-119; [教育シリーズ] 第26号 (1984年): 21-29; [資料] 第27号 (1984年): 85-86; [10周年記念年会シンポジウム] (鎌谷親善・大沢真澄と) 第30号 (1985年): 3-6; [広場] 第30号 (1985年): 70-73; [教育シリーズ] 第32号 (1985年): 136-144; [広場] 第33号 (1985年): 205-207; [シンポジウム] 第40号 (1987年): 133; [広場] 第41号 (1987年): 183-186; [総説] 第45号 (1988年): 163-184; [解説] 第16巻 (1989): 55-71; [紹介] 第16巻 (1989): 120-121; [紹介] 第17巻 (1990): 91; [特集ラヴワジェ研究入門第8回] 第18巻 (1991): 64-80; [広場] 第19巻 (1992): 306-309

藤垣裕子 [シンポジウム] 第24巻 (1997): 93-95

藤崎千代子 [原典翻訳] 第1号 (1974年): 42-49; [原典翻訳] 第4号 (1975年): 34-47; [一般講演] 第8号 (1978年): 46; [一般講演] 第14号 (1980年): 26; [一般講演] 第24号 (1983年): XX; [紹介] 第25号 (1983年): 164-165; [一般講演] 第40号 (1987年): 145; [一般講演] 第44号 (1988年): 144; [一般講演] 第18巻 (1991): 176; [紹介] 第19巻 (1992): 63-65

藤瀬裕 [解説] 第26巻 (1999): 34-44

藤田英夫 [シンポジウム] 第24号 (1983年): VII; [論文] 第29号 (1984年): 134-145; [一般講演] 第17巻 (1990): 145; [紹介] 第18巻 (1991): 41-42; [シンポジウム] 第18巻 (1991): 170; [紹介] 第22巻 (1995): 255; [一般講演] 第25巻 (1998): 84

藤野明 [シンポジウム] 第20巻 (1993): 219-220; [特集日本における伝統技術と化学] 第21巻 (1994): 172-185

古川淳二 [シンポジウム] 第22巻 (1995): 59-62

古川安 [紹介] 第21号 (1982年): 174-175; [論文] メアリ・ジョー・ナイ (古川安訳・解説) 第27号 (1984年): 57-67; [一般講演] 第28号 (1984年): XVI; [広場] 第32号 (1985年): 147-148; [紹介] 第33号 (1985年): 208; [資料] 第35号 (1986年): 89-91; [一般講演] 第40号 (1987年): 144; [特集ラヴワジェ研究入門] (大野誠・柏木肇と) 第42号 (1988年): 28-29; [紹介] 第42号 (1988年): 47-49; [シンポジウム] 第44号 (1988年): 138; [広場] 第16巻 (1989): 111; [広場] 第17巻 (1990): 126-127; [論文] 第20巻 (1993): 1-19; [一般講演] 第24巻 (1997): 102

古谷圭一 [論文] 第9号 (1979年): 9-18

[ほ]

堀勇治 [雑報] 第26巻 (1999): 113-118

本浄高治 [一般講演] 第11号 (1979年): 32; [一般講演] 第14号 (1980年): 25; [寄書] 第16号 (1981年): 22-27; [一般講演] 第17号 (1981年): 14; [一般講演] 第20号 (1982年): XIV; [寄書] 第22号 (1983年): 9-18; [一般講演] 第24号 (1983年): XIX; [一般講演] 第28号 (1984年): XIV; [寄書] 第29号 (1984年): 146-155; [一般講演] 第

40号 (1987年): 141; [寄書] 第43号 (1988年): 63-66; [一般講演] 第44号 (1988年): 149

本間栄男 [紹介] 第25巻 (1998): 160-170

[ま]

前田侯子 [特集日本の化学者第2回] 第22巻 (1995): 226-238

松尾重樹 [一般講演] 第17号 (1981年): 21; [シンポジウム] 第32号 (1985年): 154

松尾幸季 [一般講演] 第11号 (1979年): 37; [一般講演] 第11号 (1979年): 41; [一般講演] 第14号 (1980年): 22; [シンポジウム] 第17号 (1981年): 9; [一般講演] 第17号 (1981年): 23; [一般講演] 第24号 (1983年): XIV; [一般講演] (斎藤茂樹と) 第44号 (1988年): 145; [シンポジウム] 第16巻 (1989): 140; [一般講演] 第16巻 (1989): 145; [1999年度一般講演] 第25巻 (1998): 288

松岡敬一郎 [シンポジウム] 第24巻 (1997): 78-79

松田清 [シンポジウム] 第19巻 (1992): 221

丸石照機 [シンポジウム] 第14号 (1980年): 9

[み]

三浦伸夫 [紹介] 第19巻 (1992): 212-214; [科学史研究の新潮流] 第24巻 (1997): 193-204; [紹介] 第24巻 (1997): 249-251; [紹介] 第25巻 (1998): 210-211; [紹介] 第25巻 (1998): 212-213

水島三一郎 [特別講演] 第3号 (1975年): 1-3

三井澄雄 [寄書] 第1号 (1974年): 38-41

宮坂正英 [シンポジウム] 第21巻 (1994): 99-100

宮田光男 [シンポジウム] 第14号 (1980年): 10-11

三輪宗弘 [一般講演] 第36号 (1986年): 135; [論文] 第41号 (1987年): 164-175; [第3回化学史シンポジウム] 第19巻 (1992): 143-144

[む]

武藤伸 [原典翻訳] 第4号 (1975年): 29-33; [紹介] 第9号 (1979年): 41-42; [資料] 第12号 (1980年): 44-46

宗像英二 [研究回顧] 第17巻 (1990): 107-113; [化学史シンポジウム] 第17巻 (1990): 96-97

村上嘉一 [一般講演] 第17号 (1981年): 16; [教育シリーズ] 第22号 (1983年): 33-42; [広場] 第33号

(1985年): 201

村上正祥 [シンポジウム] 第20巻 (1993): 223-224;
[特集日本における伝統技術と化学] 第21巻
(1994): 47-59

村上陽一郎 [シンポジウム] 第14号 (1980年): 3-4

[も]

森正由 [一般講演] 第14号 (1980年): 16; [雑報] 第
16巻 (1989): 3

森島宏 [第3回化学史シンポジウム] 第19巻 (1992):
156-157

森田義郎 [第3回化学史シンポジウム] 第19巻
(1992): 149

[や]

安江政一 [一般講演] 第20号 (1982年): XI; [論文]
第22号 (1983年): 1-8; [一般講演] 第24号
(1983年): XI; [論文] 第27号 (1984年): 49-
56; [論文] 第28号 (1984年): 97-105; [一般講演]
第28号 (1984年): VII; [一般講演] 第32号
(1985年): 164; [論文] 第37号 (1986年): 159-
168; [一般講演] 第44号 (1988年): 148; [紹介]
第16巻 (1989): 123-125; [一般講演] 第16巻
(1989): 146

安澤秀一 [シンポジウム] 第20号 (1982年): VII

八嶋建明 [第2回化学史シンポジウム] 第18巻
(1991): 111

八耳俊文 [シンポジウム] 第19巻 (1992): 225; [一般
講演] 第21巻 (1994): 88; [資料] 第22巻 (1995):
312-358; [紹介] 第23巻 (1996): 77-78; [紹介]
第23巻 (1996): 281; [広場] 第25巻 (1998): 259
-263; [資料] 第25巻 (1998): 41-54

矢部一郎 [解説] 第33号 (1985年): 178-185

山岡望 第8号 (1978年): 18-19; [特別講演] 第8号
(1978年): 23-26

山岡正和 [解説] (橋本哲太郎・加藤秋男と) 第25号
(1983年): 140-153

山口隆男 [シンポジウム] 第21巻 (1994): 97-98

山口達明 [一般講演] (廣田鋼蔵と) 第14号 (1980年):
18; [紹介] 第17号 (1981年): 42-43; [教育シリー
ズ] 第19号 (1982年): 88-92; [一般講演] 第20号
(1982年): XVI; [原典翻訳] 第21号 (1982年):

161-173; [会報] 第22号 (1983年): 8; [雑報] 第
22号 (1983年): 46; [広場] 第36号 (1986年):
121-122; [一般講演] 第36号 (1986年): 138; [紹
介] (劉学銘と) 第38号 (1987年): 44-47; [シンポ
ジウム] 第44号 (1988年): 139; [討論] 第16巻
(1989): 84-86; [シンポジウム] 第16巻 (1989):
134; [広場] 第18巻 (1991): 84; [第2回化学史シ
ンポジウム] 第18巻 (1991): 106

山崎一雄 [解説] 第19号 (1982年): 81-87; [解説] 第
20号 (1982年): 97-103; [追悼] 第23号 (1983
年): 86-87; [第2回化学史シンポジウム] 第18巻
(1991): 112

山崎豊彦 [第3回化学史シンポジウム] 第19巻
(1992): 142-143

山田祥一郎 [特集日本の化学者第7回] 第25巻
(1998): 146-158

山田光男 [1999年度特別講演] 第25巻 (1998): 272-
273; [広場] 第26巻 (1999): 158-167

山寺秀雄 [第4回化学史シンポジウム] 第20巻
(1993): 136-137; [総説] 第21巻 (1994): 219-
233

山本為親 [第3回化学史シンポジウム] 第19巻
(1992): 147-148; [研究回顧] 第20巻 (1993):
122-128

[よ]

横山輝雄 [一般講演] 第17号 (1981年): 22; [一般講演
演] 第24号 (1983年): XII; [論文] 第26号 (1984
年): 10-16; [10周年記念年会シンポジウム] (飯島
孝・岩本振武・川井雄と) 第30号 (1985年): 15-
28; [シンポジウム] 第16巻 (1989): 135; [紹介]
第19巻 (1992): 132-133

吉海正憲 [特別講演] 第24巻 (1997): 68-69

吉川暹 [雑報] 第25巻 (1998): 223-225

吉田晃 [シンポジウム] 第16巻 (1989): 138; [広場]
第21巻 (1994): 206-207; [紹介] 第21巻 (1994):
208-210; [紹介] 第23巻 (1996): 280

吉田健太郎 [紹介] 第24巻 (1997): 169-171

吉田忠 [論文] 第2号 (1974年): 16-23; [1997年度化
学史シンポジウム] 第24巻 (1997): 180

吉野論吉 [紹介] 第5号 (1976年): 47-48

吉原賢二 [特集日本の化学者第6回] 第24巻 (1997):

295-305

- 吉本秀之 [論文] 第36号 (1986年): 97-113; [シンポジウム] 第36号 (1986年): 131; [広場] 第17巻 (1990): 128; [資料] 第17巻 (1990): 56-59; [資料] 第17巻 (1990): 129-141; [広場] 第18巻 (1991): 81-83; [紹介] 第18巻 (1991): 33-36; [一般講演] 第18巻 (1991): 174; [論文] 第19巻 (1992): 233-24; [紹介] 第22巻 (1995): 152-154; [一般講演] 第22巻 (1995): 71; [一般講演] 第25巻 (1998): 85; [1999年度一般講演] 第25巻 (1998): 83; [論文] マイケル・ハンター (吉本秀之訳・解説) 第26巻 (1999): 125-141
- 米田昭二郎 [シンポジウム] 第11号 (1979年): 24-25; [一般講演] (関崎正夫と) 第19巻 (1992): 229; [一般講演] (関崎正夫と) 第21巻 (1994): 87
- 米澤貞次郎 [追悼] 第24巻 (1997): 314-315

[り]

- カ丸光雄 [一般講演] 第14号 (1980年): 17; [シンポジウム] 第24号 (1983年): IX; [1997年度化学史シンポジウム] 第24巻 (1997): 185-186

[わ]

- 渡辺其久男 [第3回化学史シンポジウム] 第19巻 (1992): 140-141
- 渡辺照 [追悼] (奥野久輝・井本稔・水渡英二と) 第8号 (1978年): 19-23
- 渡辺正雄 [追悼] 第21号 (1982年): 180-181; [特別講演] 第16巻 (1989): 131
- 渡辺慶昭 [紹介] (大野誠と) 第24巻 (1997): 175-177, 254-257; [紹介] 第25巻 (1998): 217-219; [紹介] 第25巻 (1998): 171-173, 220-222; [特集評伝西洋の化学者第2回] 第26巻 (1999): 79-95; [紹介] 第26巻 (1999): 178-184
- 和田武 [一般講演] 第32号 (1985年): 160; [論文] 第38号 (1987年): 16-28; [論文] 第39号 (1987年): 49-60

[中国人]

- 廖正衡 (liao zheng heng) [雑報] (黒田真美子訳) 第16号 (1981年): 39-41; [教育シリーズ] (小川郁夫

訳) 第25号 (1983年): 154-160; [論文] (八耳俊文訳) 第32号 (1985年): 125-135; [特別講演] (金路訳) 第40号 (1987年): 128-129; [紹介] (島原健三訳) 第43号 (1988年): 93-96

- 劉学銘 (liu xue ming) [特別講演] 第36号 (1986年): 129-130; [一般講演] (山口達明と) 第36号 (1986年): 138; [紹介] (山口達明と) 第38号 (1987年): 44-47

潘吉星 (pan ji xing) (大沢真澄・塚原東吾共訳) 第31号 (1985年): 77-80; [特別講演] 第32号 (1985年): 152; (島尾永康訳) 第34号 (1986年): 3-8

田育誠 (tian yu cheng) [一般講演] (橋本南都子訳) 第20巻 (1993): 211

楊根 (yang gen) (島尾永康訳) 第34号 (1986年): 9-14

[欧米人]

Benfey (ベンフィー), O. T. [論文] 第15号 (1981年): 8-12; [論文] (田坂興亜訳) 第38号 (1987年): 4-15

Beukers (ボイケルス), Harm [一般講演] (石田純郎と) 第40号 (1987年): 136

Brock (ブロック), W. H. [総説] (板垣良一訳・解説) 第23号 (1983年): 61-74

Brooke (ブルック), J. H. [論文] 第13号 (1980年): 37-56

Dmitriev (ドミートリエフ), I. S. [特集評伝西洋の化学者第1回] (梶雅範訳・解説) 第26巻 (1999): 11-33

Hunter (ハンター), M. [論文] (吉本秀之訳・解説) 第26巻 (1999): 125-141

Knight (ナイト), D. M. [論文] 第8号 (1978年): 7-12

Morris (モリス), P. [紹介] (菊池好行訳) 第26巻 (1999): 45-54

Nye (ナイ), Mary Jo [論文] (古川安訳・解説) 第27号 (1984年): 57-67

Rudofsky (ルドフスキー), S. [論文] 第29号 (1984年): 126-133

Wotiz (ウォティツ), J. H. [論文] 第29号 (1984年): 126-133

投稿規程の一部改訂のお知らせ

会誌制作費の節約のためフロッピー入稿の可能な限りの推進を旨とした1997年3月1日付けの『化学史研究』執筆要項改定については、すでに繰り返しお知らせしてきたとおりです。

その後、編集委員会で投稿規程そのものを全面的に見直した方がよいのではという意見が大勢を占め、次の趣旨での改訂作業を進めています。投稿規程そのものは、理事会の了承が得られた時点で、当誌に掲載しますが、改訂の趣旨はすでに理事会の了承を得ています。ここにその改訂要旨を掲げて会員のみなさまにお知らせする次第です。

1) フロッピー入稿を原則とする。

ただし、手書き原稿を拒否しない。

2) 著作権の問題に対して著者責任を明示する。

投稿者が投稿原稿において著作権者の存在する写真・図版・資料を引用する場合には、投稿者が責任を持って許可を得ておくこと、この点を明示する。また、2重投稿を拒否する文言を明記する。

3) 英文タイトルをより広い区分に要求する。

英文レジメにタイトルが掲載されるものには、すべて投稿者に英文タイトル添付を求める。具体的には、論文、寄書、総説、解説、資料、広場、討論、特集の区分で要求する。

4) 区分の定義を明示する。

論文；研究ノート（以前は、寄書）；総説；解説；原典翻訳；紹介；資料；研究回顧；ニュース（以前は、雑報）；広場；討論について、定義を明示するようにする。

5) 原稿の採否の責任と権限が編集委員会にある

ことをより明確に表現する。

ワープロ原稿については次の要項に従うこと。

(1997年3月1日承認事項)

1. ワープロ原稿で提出する場合、表紙に書式(1頁=〇〇字×〇〇行、総字数〇〇字=400字詰め換算〇〇枚)を明示すること。

2. 投稿原稿の第1頁目に、①投稿区分、②題名とその英訳、③著者名(ローマ字表記を必ず付記すること)、④所属、⑤校正等送付先(住所、電話番号、あればE-mail Address)、⑥総字数または400字詰め原稿用紙換算枚数、⑦原稿作成に用いたワープロの機種名、あるいはパソコンの機種名ならびにワープロソフト名とそのバージョンを明記すること。

投稿方法追加事項：計3部を別に定める投稿先に書留便にて郵送する。なお、編集委員会から「掲載可」の通知が届いた後は、直ちに、完成稿2部ならびに書き込み禁止処理(フロッピー裏側右下の爪を下げる)を加えたフロッピーを1枚、投稿先に郵送すること。フロッピーはできるだけ、テキストファイルで送ること。テキストファイル以外の場合には、フロッピーに、原稿執筆に使用したワープロ機種名、あるいはパソコンの機種名ならびにワープロソフト名とそのバージョンを明記すること。

なお、化学式、グラフ、表、写真に関しては、打ち出した原稿に挿入箇所を赤で指定すること。説明：化学式、グラフ、表、写真は、印刷所でやり直します。投稿原稿全体をテキストファイルで作成した上、化学式、グラフ、表、写真の挿入箇所を打ち出した原稿中に赤で指定してください。注や上付き、下付き等も、打ち出した原稿に赤で指定してください。

化学史研究 第26卷 (1999年) 総目次

【論文】

新しいボイル像

マイケル・ハンター (吉本秀之訳・解説) (125)

【寄書】

山田延男博士のパリでの研究とその科学史的意味

阪上正信 (152)

【解説】

貝紫と生物

藤瀬 裕 (34)

【科学史研究の新潮流】

ウォリントン・アカデミー (Warrington Academy, 1757-86) の新たな研究に向けて

三時真貴子 (65)

【特集】

技術史シリーズ 第24回

日本の写真工業発展史 II—感光材料—

大庭成一 (2)

技術史シリーズ 第25回

日本の写真工業発展史 III

大庭成一 (142)

評伝西洋の化学者

評伝西洋の化学者を始めるにあたって

大野 誠 (10)

評伝西洋の化学者 第1回

化学者メンデレーエフの生涯と業績—その社会的・経済的側面—

I. S. ドミートリエフ (梶雅範訳・解説) (11)

評伝西洋の化学者 第2回

カール・ヴィルヘルム・ゴットロープ・カス

トナー—リービッヒの師の評伝— 渡辺慶昭 (79)

【広場】

リービッヒの顕彰・普及に励むリービッヒの子

孫レヴィツキ氏

島尾永康 (96)

航空研究所と山田延男

山田光男 (158)

顔に傷あとを残した科学者達

原田 馨 (168)

【紹介】

エッセイ・レビュー：プラスチックと高分子化学に関する最近の歴史研究

ピーター・モリス (菊池好行訳) (45)

Anna Hurwic, *Pierre Curie*

川島慶子 (55)

新着科学史書から

塚原東吾 (122)

ハンター『イギリス科学革命』

三時真貴子 (177)

新着化学史雑誌から

渡辺慶昭 (178)

【資料】

岡田家武の人と仕事に関する文献

大西 寛 (99)

東京(帝国)大学化学科卒業生の初職一覧 (1877-1926)

菊池好行 (102)

『化学史研究』総目次 (1974年~1999年) とその

分析

吉本秀之 (185)

【雑報】

ラヴフジェ研究目録日本編作成への協力をお願い

川島慶子他 (58)

化学会館化学史資料展示第17回 日本初の女性

化学者黒田チカ博士

堀 勇治 (113)

【会報】

1999年年会報告

(61)

理事会報告：理事会における会長候補者選挙につ

いて

(63)

【追悼】

林良重先生を偲んで

日吉芳朗 (119)

【巻頭言】

会長就任にあたって

亀山哲也 (1)

編集後記

- ・新年明けましておめでとうございます。
- ・暦は2000年に入りましたが、1999年度の最終号をここにお届けいたします。
- ・本号は1900年代の締め括りとして本誌の総目次を掲載しました。吉本編集委員の尽力によるものです。1974年の創刊以来四半世紀の間に、本号を含め89号が刊行されました。総目次に登場する論文や記事を一覧して、会員の研究活動や問題の関心の歴史を垣間見ることが出来ます。総目次は同時にインターネット上でも一般に公開されています（詳しくは本号185(1)頁参照）。皆様の文献検索のお役に立てれば幸いです。
- ・本年も会員の皆様方の積極的なご投稿をお待ちしております。
(古川 安)

複写される方に

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外、著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体から許諾を受けて下さい。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡下さい。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル
学術著作権協会

Tel: 03-3475-5618 Fax: 03-3475-5619

E-mail: kammori@msh.biglobe.ne.jp

各種問合わせ先

- 入会その他 → 化学史学会事務局
郵便: 〒480-1198 愛知県長久手町熊張
愛知県立大学 外国語学部 大野研究室気付
(下線部を必ず明記してください)
振替口座: 00180-0-175468
電話: 0561-64-1111 (内線 2703), 052-878-0407
Fax: 0561-64-1107 (大学), 052-878-0407 (直通)
E-mail: YHT01511@nifty.ne.jp
(大学のファックスは外国語学部共用につき「大野研究室気付」を必ず明記してください)
事務連絡はなるべくFaxをお願いします。
- 投稿先 → 『化学史研究』編集委員会
〒114-8580 東京都北区西ヶ原4-51-21
東京外国語大学外国語学部
吉本秀之(気付)
- 別刷・広告扱い → 中央印刷 (奥付参照)
- 定期購読・バックナンバー → (書店経由) 内田老鶴圃

編集委員

委員長: 古川 安
委員 大野 誠 小塩 玄也 橋本 毅彦
武藤 伸 八耳 俊文 吉本 秀之
書記 菊池 好行
編集協力委員 内田 正夫 小川 眞里子
梶 雅範 上 仲 博 川崎 勝 田中 浩朗
塚原 東吾 土井 康弘 日吉 芳朗 川島 慶子

維持会員

旭化成工業(株) 住友化学工業(株)
味の素(株) 第一製薬(株)
(株)荏原製作所 (社)日本化学工業協会
鐘淵化学工業(株) 三菱化学(株)
参天製薬(株) 三菱ガス化学(株)
塩野香料(株)

賛助会員

(株)内田老鶴圃 (株)東京教学社
三 共 (株) 財日本分析センター
三 共 出版 (株) 財肥料科学研究所
(株)第一学習社 和光純薬工業(株)
(財)武田科学振興財団 金沢工業大学ライブラリーセンター
日 揮 (株) (2000年1月31日現在)

化学史研究 第26巻 第4号 (通巻89号)

2000年2月10日発行

KAGAKUSHI Vol. 26, No. 4. (1999)

年4回発行 定価2,625円 (本体2,500円)

編集・発行 ©化学史学会 (JSHC)

The Japanese Society for the History of Chemistry
会 長: 亀山 哲也

President: Tetsuya KAMEYAMA

編集代表者: 古川 安

Editor in Chief: Yasu FURUKAWA

学会事務局 Office

愛知県立大学外国語学部大野研究室

％ Prof. Makoto Ohno, Aichi Prefectural University
Faculty of Foreign Studies, Kumabari, Nagakute,
Aichi, 480-1198, Japan

Phone 0561-64-1111; Fax 0561-64-1107

印刷 中央印刷(株)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町4-24

Tel. 03-3269-0221(代) Fax 03-3267-3051

発売 (書店扱い) (株)内田老鶴圃

〒112-0012 文京区大塚3-34-3

Tel. 03-3945-6781(代)

Overseas Distributor: Maruzen Co., Ltd.

P.O. Box 5050, Tokyo International, 100-3199 Japan

Phone 03-3272-7211; Telex J-26517.

昭和52年3月24日 郵政省学術刊行物指定

バックナンバーの注文方法について

本誌の総目次をご覧頂いて、ご入用の号がございましたら会員価格（1号につき送料とも1,500円）で頒布することになりました。

必要な号数を事務局宛お伝え下さい。

また、図書館等機関でバックナンバーを購入される場合には、1冊2,000円とさせていただきます。

一括購入の際には、割引も用意いたします。この機会に是非ご活用下さるようご案内申し上げます。

KAGAKUSHI

The Journal of the Japanese Society
for the History of Chemistry

Volume 26 Number 4 1999

(Number 89)

CONTENTS

SOURCE

Hideyuki Yoshimoto: KAGAKUSHI Cumulative Index, 1974-1999

185 (1)

Edited and Published by

The Japanese Society for the History of Chemistry
c/o Prof. Makoto Ohno, Aichi Prefectural University,
Faculty of Foreign Studies, Kumabari, Nagakute,
Aichi, 480-1198, Japan

Overseas Distributer: Maruzen Co. Ltd.,

P. O. Box 5050, Tokyo International, Tokyo 100-3199, Japan